〔2〕出来形管理基準

【第1編共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第2章 土工						
第3節 河川・海岸・砂防土工	2-3-2	3-2 1 掘削工				2-33
	2-3-2	2	掘削工	(面管理の場合)		2-34
	2-3-2	3	掘削工	(水中部) (面管理の場合)		2-35
	2-3-3	1	盛土工			2-35
	2-3-3	2	盛土工	(面管理の場合)		2-36
	2-3-4		盛土補強工	補強土(テールアルメ)壁工法		2-37
				多数アンカー式補強土工法		2-37
				ジオテキスタイルを用いた補強土工法		2-37
	2-3-5		法面整形工	盛土部		2-37
	2-3-6		堤防天端工			2-38
第4節 道路土工	2-4-2	1	掘削工			2-38
	2-4-2	2	掘削工	(面管理の場合)		2-39
	2-4-3	1	路体盛土工			2-40
	2-4-4	1	路床盛土工			2-40
	2-4-3	2	路体盛土工	(面管理の場合)		2-41
	2-4-4	2	路床盛土工	(面管理の場合)		2-41
	2-4-5		法面整形工	盛土部		2-42
第3章 無筋、鉄筋コンクリート						
第7節 鉄筋工	3-7-4		組立て			2-42

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第2章 一般施工		,				
第3節 共通的工種	2-3-4		矢板工(指定仮設・任 意仮設は除く)	鋼矢板		2-43
			息 (人) (人) (人)	軽量鋼矢板		2-43
				コンクリート矢板		2-43
				広幅鋼矢板		2-43
				可とう鋼矢板		2-43
	2-3-5		縁石工	縁石・アスカーブ		2-43
	2-3-6		小型標識工			2-43
	2-3-7		防止柵工	立入防止柵		2-44
				転落(横断)防止柵		2-44
				車止めポスト		2-44
	2-3-8	1	路側防護柵工	ガードレール		2-44
		2	路側防護柵工	ガードケーブル		2-44
	2-3-9		区画線工			2-45
	2-3-10		道路付属物工	視線誘導標		2-45
				距離標		2-45
	2-3-11		コンクリート面塗装			2-45
	2 3 11		工 プレテンション桁製			2 40
	2-3-12	1	作工(購入工)	けた橋		2-46
		2	プレテンション桁製 作工(購入工)	スラブ桁		2-46
	2-3-13	1	ポストテンション桁 製作工			2-46
		2	プレキャストセグメ ント桁製作工	(購入工)		2-47
	2-3-14	2	プレキャストセグメ ント主桁組立工			2-47
	2-3-15		PCホロースラブ製作 工			2-47
	2-3-16	1	PC箱桁製作工			2-48
		2	PC押出し箱桁製作工			2-48
	2-3-17		根固めブロック工			2-48
	2-3-18		沈床工			2-49
	2-3-19		捨石工			2-49
	2-3-22		階段工			2-49
	2-3-24	1	伸縮装置工	ゴムジョイント		2-49
		2	伸縮装置工	鋼製フィンガージョイント		2-50
		3	伸縮装置工	埋設型ジョイント		2-50
	2-3-26	1	多自然型護岸工	巨石張り、巨石積み		2-51
		2	多自然型護岸工	かごマット		2-51
	2-3-27	1	羽口工	じゃかご		2-52
		2	羽口工	ふとんかご、かご枠		2-52
	2-3-28		プレキャストカル	プレキャストボックス工		2-52
			バート工	プレキャストパイプエ		2-52
	2-3-29	1	側溝工	プレキャストU型側溝		2-53
				L型側溝		2-53
				自由勾配側溝		2-53
				管渠		2-53
		2	側溝工	場所打水路工		2-53
		3	側溝工	暗渠工		2-54
	2-3-30		集水桝工			2-55
	2-3-30		現場塗装工			2-55
第4節 基礎工	2-4-1		一般事項	切込砂利		2-56
74 TM 45 MG T	2 1 1		/JX 7 X	ф 石基礎工		2-56
				割ぐり石基礎工		2-56
1			1	均しコンクリート		
		<u> </u>	<u> </u>	物しコンクリート		2-56

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第4節 基礎工	2-4-3	1	基礎工(護岸)	現場打		2-56
		2	基礎工(護岸)	プレキャスト		2-56
	2-4-4	1	既製杭工	既製コンクリート杭		2-57
				鋼管杭		2-57
				H鋼杭		2-57
		2	既製杭工	鋼管ソイルセメント杭		2-57
	2-4-5		場所打杭工			2-57
	2-4-6		深礎工 オープンケーソン基			2-58
	2-4-7		礎工			2-58
	2-4-8		ニューマチックケー ソン基礎工			2-58
	2-4-9		鋼管矢板基礎工			2-59
第5節 石・ブロック積 (張)工	2-5-3	1	コンクリートブロッ	コンクリートブロック積		2-59
()()()			クエ	コンクリートブロック張り		2-59
		2	コンクリートブロッ クエ	連節ブロック張り		2-59
		3	コンクリートブロッ クエ	天端保護ブロック		2-60
	2-5-4		緑化ブロック工			2-60
	2-5-5		石積(張) 工			2-60
第6節 一般舗装工	2-6-7	1	アスファルト舗装工	下層路盤工(粒調Fe含む)		2-61
		2	アスファルト舗装工	下層路盤工(粒調Fe含む) (面管理の場合)		2-62
		3	アスファルト舗装工	上層路盤工 粒度調整路盤工(粒調Fe含む)		2-63
		4	アスファルト舗装工	上層路盤工 粒度調整路盤工(粒調Fe含む) (面管理の場合)		2-64
		5	アスファルト舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		2-65
		6	アスファルト舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工) (面管理の場合)		2-66
		7	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-67
		8	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工 (面管理の場合)		2-68
		9	アスファルト舗装工	基層工		2-69
		10	アスファルト舗装工	基層工(面管理の場合)		2-70
		11	アスファルト舗装工	表層工		2-71
		12	アスファルト舗装工	表層工(面管理の場合)		2-72
	2-6-8	1	半たわみ性舗装工	下層路盤工		2-73
		2	半たわみ性舗装工	下層路盤工 (面管理の場合)		2-74
		3	半たわみ性舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		2-75
		4	半たわみ性舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工) (面管理の場合)		2-76
		5	半たわみ性舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		2-77
		6	半たわみ性舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工) (面管理の場合)		2-78
		7	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-79
		8	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工 (面管理の場合)		2-80
		9	半たわみ性舗装工	基層工		2-81
		10	半たわみ性舗装工	基層工 (面管理の場合)		2-82
		11	半たわみ性舗装工	表層工		2-83
		12	半たわみ性舗装工	表層工(面管理の場合)		2-84

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第6節	一般舗装工	2-6-9	1	排水性舗装工	下層路盤工		2-85
			2	排水性舗装工	下層路盤工 (面管理の場合)		2-86
			3	排水性舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		2-87
			4	排水性舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工) (面管理の場合)		2-88
			5	排水性舗装工	上層路盤工 セメント(石灰)安定処理工		2-89
			6	排水性舗装工	上層路盤工 セメント(石灰)安定処理工 (面管理の場合)		2-90
			7	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-91
			8	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工 (面管理の場合)		2-92
			9	排水性舗装工	基層工		2-93
			10	排水性舗装工	基層工 (面管理の場合)		2-94
			11	排水性舗装工	表層工		2-95
			12	排水性舗装工	表層工 (面管理の場合)		2-96
		2-6-10	1	透水性舗装工	路盤工		2-97
			2	透水性舗装工	路盤工 (面管理の場合)		2-98
			3	透水性舗装工	表層工		2-99
			4	透水性舗装工	表層工(面管理の場合)		2-10
		2-6-11	1	グースアスファルト 舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-10
			2	グースアスファルト 舗装工	加熱アスファルト安定処理工 (面管理の場合)		2-10
			3	グースアスファルト 舗装工	基層工		2-10
			4	グースアスファルト 舗装工	基層工 (面管理の場合)		2-10
			5	グースアスファルト 舗装工	表層工		2-10
			6	グースアスファルト 舗装工	表層工 (面管理の場合)		2-10
		2-6-12	1	コンクリート舗装工	下層路盤工		2-10
			2	コンクリート舗装工	下層路盤工(面管理の場合)		2-10
			3	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工		2-10
			4	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工 (面管理の場合)		2-11
			5	コンクリート舗装工	セメント(石灰・瀝青)安定処理工		2-11
			6	コンクリート舗装工	セメント(石灰・瀝青)安定処理工 (面管理の場合)		2-11
			7	コンクリート舗装工	アスファルト中間層		2-11
			- 8		アスファルト中間層 (面管理の場合)		2-11
			9	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工		2-11
			10	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工(面管理の場合)		2-11
			11	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(下層路盤工)		2-11
			12	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(下層路盤工) (面管理の場合)		2-11
			13	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(粒度調整路盤工)		2-119
			14	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(粒度調整路盤工) (面管理の場合)		2-120
			15	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(セメント(石灰・ 瀝青)安定処理工)		2-12
			16	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(セメント(石灰・ 瀝青)安定処理工) (面管理の場合)		2-122
			17	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(アスファルト中間層)		2-123
			18	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(アスファルト中間層) (面管理の場合)		2-124
			19	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工		2-125
			20	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工(面管理の場合)		2-126

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第6節 一般舗装工	2-6-13	1	薄層カラー舗装工	下層路盤工		2-127
		2	薄層カラー舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		2-127
		3	薄層カラー舗装工	上層路盤工(セメント(石灰) 安定処理工		2-128
		4	薄層カラー舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-128
		5	薄層カラー舗装工	基層工		2-128
	2-6-14	1	ブロック舗装工	下層路盤工		2-129
		2	ブロック舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)		2-129
		3	ブロック舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工		2-130
		4	ブロック舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-130
		5	ブロック舗装工	基層工		2-130
	2-6-15		路面切削工			2-131
	2-6-16		舗装打換え工			2-131
	2-6-17	1	オーバーレイエ			2-132
		2	オーバーレイエ	(面管理の場合)		2-133
第7節 地盤改良工	2-7-2		路床安定処理工			2-134
	2-7-3		置換工	(Fe石灰処理工含む)		2-134
	2-7-4	1	表層安定処理工	サンドマット海上		2-135
		2	表層安定処理工	サンドマット海上(ICT施工の場合)		2-135
	2-7-5		パイルネット工			2-135
	2-7-6		サンドマット工			2-136
	2-7-7		バーチカルドレーン	サンドドレーンエ		2-136
			工	ペーパードレーンエ		2-136
				袋詰式サンドドレーン工		2-136
	2-7-8		締固め改良工	サンドコンパクションパイル工		2-136
	2-7-9	1	固結工	粉体噴射攪拌工		2-137
	2.0	1		高圧噴射攪拌工		2-137
				スラリー攪拌工		2-137
				生石灰パイルエ		2-137
				スラリー攪拌工		2 101
		2	固結工	「施工履歴データを用いた出来形管理要領 (固結工 (スラリー撹拌工) 編) (案)」 による管理の場合		2-137
		3	固結工	中層混合処理		2-138
第10節 仮設工	2-10-5	1	土留・仮締切工	H鋼杭		2-138
				鋼矢板		2-138
		2	土留・仮締切工	アンカーエ		2-139
		3	土留・仮締切工	連節ブロック張り工		2-139
		4	土留・仮締切工	締切盛土		2-139
		5	土留・仮締切工	中詰盛土		2-139
	2-10-9		地中連続壁工(壁式)			2-140
	2-10-10		地中連続壁工(柱列式)			2-140
	2-10-22		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
第11節 軽量盛土工	2-11-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第12節 工場製作工(共	2-12-1	1	一般事項	鋳造費(金属支承工)		2-140
通)		2	一般事項	鋳造費(大型ゴム支承工)		2-142
		3	一般事項	仮設材製作工		2-142
		4	一般事項	刃口金物製作工		2-142
	2-12-3	1	桁製作工	仮組立検査を実施する場合		2-143
		*		シミュレーション仮組立検査を行う場合		2-143
	1		ļ			1
		ŋ	松制作 工	仮組立絵本を宝篋 おい担公		
		2	桁製作工 松制作工	仮組立検査を実施しない場合 細制恒温制作工(仮組立時)		2-145
	2-12-4	3	桁製作工 桁製作工 検査路製作工	仮組立検査を実施しない場合 鋼製堰堤製作工(仮組立時)		2-145 2-146 2-146

1	2-147 2-147 2-148 2-148 2-149 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
2-12-7 橋梁用防護権製作工 2-12-8 アンカーフレーム製作工 2-12-9 ブレビーム用税単作工 2-12-10 鋼製排水管製作工 2-12-11 工場塗装工 2-13	2-147 2-148 2-148 2-149 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
2-12-9 ブレビーム用桁製作工 2-12-10 鋼製排水管製作工 2-12-11 工場塗装工 2-13	2-148 2-149 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
2-12-10 鋼製排水管製作工 2 2-12-11 工場塗装工 2 第13節 橋梁架設工 2-13 架設工 (鋼橋) クレーン架設 ケーブルクレーン架設 2 架設析架設 2 架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 平設工 (コンクリート橋) クレーン架設 架設工支保工 2 砂動 2 架設有架設 2 水設桁架設 2 が動 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 藤芝工 1 植生工 植生アトエ 2 植生アトエ 2	2-148 2-149 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
第13節 橋梁架設工 2-13 工場塗装工 2 第13節 橋梁架設工 2-13 架設工 (鋼橋) クレーン架設 ケーブルクレーン架設 2 架設在架設 2 架設工(コンクリート橋) クレーン架設 架設有架設 2 架設有架設 2 架設有架設 2 架設有架設 2 架設有架設 2 水設有架設 2 水設有架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 療芝工 1 極生ント工 2 植生シト工 植生シト工 1 植生マット工 2	2-149 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151
第13節 橋梁架設工 2-13 架設工 (鋼橋) クレーン架設 2 ケーブルエレクション架設 2 架設工(コンクリート橋) クレーン架設 2 架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 2 架設工支保工 固定 移動 2 架設析架設 月持架設 2 押出し架設 2 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 藤子散布工 2 2 藤芝工 1 新芝工 市松芝工 植生アトエ 1 植生アトエ 植生アトエ 1 植生マット工 2	2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
ターブルクレーン架設 2 ターブルエレクション架設 2 架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 架設工支保工 固定 2 移動 2 架設析架設 2 架設析架設 2 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 張芝工 施芝工 市松芝工 植生シト工 植生シト工 植生マット工 2	2-150 2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151
タープルエレクション架設 架設桁架設 送出し架設 トラベラークレーン架設 架設工 (コンクリート橋) タルンテスティー 国定 移動 架設桁架設 井井山上架設 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 張芝工 筋芝工 市松芝工 植生ツトエ 植生マット工	2-150 2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
架設桁架設 2 送出し架設 5 トラベラークレーン架設 2 架設工(コンクリート橋) クレーン架設 架設桁架設 2 架設桁架設 2 架設桁架設 片持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 張芝工 2 市松芝工 1 植生ツト工 植生ツト工 植生マット工 2	2-150 2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
送出し架設 2 トラベラークレーン架設 2 架設工(コンクリー ト橋) クレーン架設 架設桁架設 2 架設析架設 2 水設桁架設 方持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 療芝工 2 市松芝工 1 植生シト工 2 植生マット工 2	2-150 2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
トラベラークレーン架設 2 架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 2 架設工支保工 固定 2 移動 2 架設桁架設 片持架設 2 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 藤芝工 2 6 2 6 2 市松芝工 1 植生シト工 2 1 植生シト工 2 植生シト工 2 1	2-150 2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
架設工 (コンクリート橋) クレーン架設 架設不支保工 固定 移動 2 架設析架設 片持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 藤芝工 2 6 2 市松芝工 1 植生シト工 2 植生シト工 1 植生マット工 2	2-151 2-151 2-151 2-151 2-151
ト橋) 2 架設工支保工 固定 移動 2 架設桁架設 片持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 種子散布工 2 張芝工 2 筋芝工 1 市松芝工 2 1 植生沙ト工 植生シート工 1 植生シート工 植生マット工 2	2-151 2-151 2-151 2-151
架設工支保工 固定 移動 2 架設桁架設 片持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 張芝工 2 筋芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	2-151 2-151 2-151
移動 2 架設桁架設 片持架設 押出し架設 2 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 張芝工 完芝工 2 前芝工 1 京校芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	2-151 2-151
架設桁架設 片持架設 押出し架設 第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 張芝工 筋芝工 市松芝工 植生シート工 植生マット工 2 植生マット工	2-151
第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 張芝工 第芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	
第14節 法面工(共通) 2-14-2 1 植生工 種子散布工 2 張芝工 第芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	2-151
張芝工 2 筋芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	- 101
筋芝工 2 市松芝工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	2-151
市松芝工 2 植生シート工 2 植生マット工 2	2-151
植生シート工 2 植生マット工 2	2-151
植生マット工 2	2-151
	2-151
植生筋工 2	2-151
	2-151
人工張芝工 2	2-151
植生穴工	2-151
2 植生工 植生基材吹付工 2	2-152
客土吹付工 2	2-152
2-14-3 吹付工(仮設を含む) コンクリート 2	2-153
	2-153
	2-154
	2-154
	2-154
	2-154
	2-155
	2-155
	2-156
	2-156
	2-156
	2-156
	2-157
9 DZENIB NICERIL T DE LE PARTIE IN TELECTIFICA FELIX. (2-157 2-157
	2-157

	タイトル	工種	頁	₹
1 共通工種	1 圧密排水工	1 サンドドレーン		
		2 敷砂均し	2-1	161
		3 載荷土砂		
		4 ペーパードレーン	2-1	169
		5 グラベルマット	2.1	102
		6 グラベルドレーン	0 1	1.00
	2 締固工	1 ロッドコンパクション	2-1	163
		2 サンドコンパクションパイル		
		3 盛土土砂撤去	2-1	164
		4 敷砂均し		
	3 固化工	1 深層混合処理杭		
		2 敷砂均し	2-1	165
		3 事前混合処理		
		4 表層固化処理		
	4 洗掘防止工	1 洗掘防止		
	5 中詰工	1 砂・石材中詰		
	0 1111 11.	2 コンクリート中詰	2-1	166
		3 プレパックド		
		コンクリート中詰		
	6 蓋コンクリート工	1 蓋コンクリート	 	
	7 蓋ブロックエ	1	0.1	167
	7 盍ノロツクエ		2-1	101
		2 蓋ブロック据付		
	8 鋼矢板工	1 先行掘削) NET / . LET	1.00
		2 鋼矢板	イ) 鋼矢板 2-10	168
	laborate de la constantina della constantina del		口)鋼管矢板	
	9 控工	1 控鋼矢板	2-1	170
		2 控鋼杭		
		3 プレキャスト		
		コンクリート控壁		
		4 場所打コンクリート控壁		
		5 腹起	2-1	171
		6 タイ材	イ)タイロッド ²¹ 取付	111
			ロ) タイワイ ヤー取付	
	10 鋼控工.	1 先行掘削	1 2011	
	1 0 2711	2 鋼杭	2-1	173
	11 コンクリート杭工	1 コンクリート杭		110
	12 防食工	1 電気防食		
	12 例及工	2 FRPモルタル被覆		
			0.1	171
		. A Libert	2-1	1/4
			——	
	10 - 1 4 1 1 4 4 7	5 防食塗装		
	13 コンクリート舗装工	1 下層路盤		
		2 上層路盤	2-1	175
		3 コンクリート舗装版		
	14 アスファルト舗装工	1 下層路盤	2-1	176
		2 上層路盤	2-1	110
		3 基層	0 1	177
		4 表層	2-1	T 1 (

1 共通工種	15 植生工	1 張芝	
		2 筋芝	
		3 播種	
		4 種子吹付	
		5 植裁	
2 土捨工			2-178
3 海上地盤改良工	1 床掘工	1 ポンプ床掘	
		2 グラブ床掘	
		3 硬土盤床掘	
		4 砕岩床掘	
		5 バックホウ床掘	
	2 置換工	1 置換材均し	
	3 圧密・排水工	1 圧密・排水工	2-179
	4 締固工	1 締固工	2-178
	5 固化工	1 固化工	
4 基礎工	1 基礎盛砂工	1 盛砂均し	2-180
	2 洗掘防止工	1 洗掘防止工	2-100
	3 基礎捨石工	1 基礎捨石	
		(均しを行わない面)	2-181
		2 捨石本均し	2-101
		3 捨石荒均し	
	4 基礎ブロック工	1 基礎ブロック製作	2-182
		2 基礎ブロック据付	2-102
5 本体工	1 ケーソン製作工	1 ケーソン製作	2-183
(ケーソン式)	2 ケーソン進水据付工	1 ケーソン進水据付	
	3 中詰工	1 中詰工	2-184
	4 蓋コンクリート工	1 蓋コンクリート工	
	5 蓋ブロック工	1 蓋ブロック工	2-185
6 本体工	1 本体ブロック製作工	1 本体ブロック製作	2 100
(ブロック式)	2 本体ブロック据付工	1 本体ブロック据付	
	3 中詰工	1 中詰工	2-186
	4 蓋コンクリート工	1 蓋コンクリート工	2 100
	5 蓋ブロックエ	1 蓋ブロック工	
7 本体工	1 場所打コンクリートエ	1 場所打コンクリート工	イ)防波堤
(場所打式)		1 物別打コンググ・ドエ	口) 岸壁 2-187
	2 水中コンクリート工	1 水中コンクリート工	
	3 プレパックドコンクリート工	1 プレバパドック	
		コンクリート工	2-188
	4 水中不分離性コンクリート工	1 水中不分離性コンクリート工	
8 本体工	1 洗掘防止工	1 洗掘防止工	
(捨石・	2 本体捨石工	1 本体捨石工	2-189
捨ブロックエ)	3 捨ブロック工	1 捨ブロック製作	2-189
1百ノロックエ)		2 捨ブロック据付	
	4 場所打コンクリートエ	1 場所打コンクリート工	2-190

9 本体工	1 鋼矢板工	1 鋼矢板工		2-190
	2 控工	1 控工		2-190
10 本体工(コンク	1 コンクリート矢板工	1 コンクリート矢板工		
リート矢板式)	2 控工	1 控工		2-101
11 本体工(鋼杭 式)	1 鋼杭工	1 鋼杭工		2-191
1 2 本体工(コンク リート杭式)	1 コンクリート杭工	1 コンクリート杭工		
13 被覆・根固工	1 被覆石工	1 被覆石(均しを行わない面)2 被覆石均し		2-192
	2 被覆ブロック工	1 被覆ブロック製作 2 被覆ブロック据付		
	3 根固ブロック工	1 根固ブロック製作 2 根固ブロック据付		2-193
1 4 上部工	1 上部コンクリート工	1 上部コンクリートエ	イ) 防波堤 ロ) 岸壁 ハ) 桟橋	2-194
		1 上部ブロック製作	ハー技術	
		2 上部ブロック据付	イ)防波堤ロ)岸壁ハ)桟橋上部コンクリート	2-195
15 付属工	1 係船柱工	1 係船柱		
	2 防舷材工	1 防舷材		
	3 車止・縁金物工	1 車止・縁金物工		2-196
	4 防食工	1 防食工		2 100
	5 付属設備工	1 係船環		
16 消波工	1 洗掘防止工	1 洗掘防止工		
	2 消波ブロック工	1 消波ブロック製作		2-197
1 7 京 7 京 1		2 消波ブロック据付 1 東沿地 (作) またしないで		
17 裏込・裏埋工	1 裏込工	1 裏込材(均しを行わない面)		0.100
		2 裏込均し		2-198
	0 前冊工	3 吸出し防止材		
	2 裏埋工 3 裏埋土工	1 裏埋材		0.100
	3 表性工工	1 土砂掘削 2 土砂盛土		2-199
18 陸上地盤改良工	1	2 工砂塩工 1 圧密・排水工		
10 医上地盤以及上	2 締固工	1 圧密・排水工 1 締固工		4
	3 固化工	1 固化工		2-200
19 土工	1 掘削孔	1 土砂掘削		2-200
19 11	2 盛土工	1 土砂盛土		-
	2 <u> </u>			
				-
20 盆壮工	4 法面工1 コンクリート舗装工	1 法面 1 コンクリート舗装工		2-201
20 舗装工				4
0.1	2 アスファルト舗装工 1 維持発法工	1 アスファルト舗装工		
21 維持補修工	1 維持塗装工	1 係船柱塗装	入口生山	4
		2 車止塗装	イ) 鋼製ロ) その他	2-202
		3 縁金物塗装		4
	2 防食工	1 防食工		

2 2	構造物撤去工	1	取壊し工	1	コンクリート取壊し		2-202
		2	撤去工	1	水中コンクリート撤去		
				2	鋼矢板等切断撤去		
				3	腹起・タイ材撤去		1
				4	舗装版撤去		
				5	石材撤去		2-203
				6	ケーソン撤去		1
				7	ブロック撤去		1
				8	鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去		1
23	仮設工	1	仮設鋼矢板工	1	仮設鋼矢板・H形鋼杭	Î	
		2	仮設鋼管杭・鋼管矢板工	1	先行掘削		
				2	仮設鋼管杭・鋼管矢板工		2-204
		3	仮設道路工	1	仮設道路工		1
2 4	雑工	1		1	現場鋼材溶接		
	•			2	被覆溶接(水中)		1
				3	スタッド溶接(水中)		1
		2	現場鋼材切断工	1		イ) 陸上現場 切断	2-205
					2-200	口)水中切断	1
		3	その他雑工	1	清掃	7 74 1 24 121	
			5 12,12	2			
2.5	浚渫工	1	ポンプ浚渫工	1			1
					グラブ浚渫		1
					硬土盤浚渫		2-206
					岩盤浚渫		
					バックホウ浚渫		1
		2	グラブ浚渫工	1	グラブ浚渫		
		3		1	硬土盤浚渫		
			岩盤浚渫工	1			
			バックホウ浚渫工	1	バックホウ浚渫		1
2 6	埋立工	1	固化工	1	固化工		
2 0	-1	2	埋立土工	1	土砂掘削		2-207
			在立工工	2	土砂盛土		2 20.
2 7	道路舗装工	1	コンクリート舗装工	1	コンクリート舗装工		
2 '	但如冊衣工		アスファルト舗装工	1	アスファルト舗装工		
			道路付属工	1	縁石		
			但 如 [7] 两 二	2	区画線及び道路標識		ł
					道路標識		2-208
				4	防護柵		2 200
28	緑地工	1	植生工	1	植生工		
2 9	魚礁工	1	魚礁製作工・単体魚礁製作		単体魚礁製作		
2 3	777 P/M	2	魚礁製作工・組立魚礁製作		コンクリート部材組立		2-209
			从"然我IF工"加立从"你我IF		鋼製部材組立		2 200
					FRP部材組立		
					重錘コンクリート製作		2-210
		3	魚礁沈設工		<u> </u>		۷ ۷۱۱
3 0	増殖場工	1	点帳化設工		者定基質製作	+	
50	·自7巴·勿 丄。	2			着定基質組立	+	
		3			着定基質設置	-1	2-211
						-	ł
		4	石材着定基質工	1	石材投入		

【第5編 農林土木編】

	タイトル	工種	頁
ため池	堤体工	堤体工	2-241
	洪水吐工	洪水吐工	2-241
	取水施設工	樋管工	0 040
林道整備	開設工	林道土工	2-242

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第1章 築堤・護岸						
第3節 軽量盛土工	1-3-1		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節 地盤改良工	1-4-2		表層安定処理工		第3編 2-7-4 表層安定処理工	2-136
	1-4-3		パイルネット工		第3編 2-7-5 パイルネット工	2-136
	1-4-4		バーチカルドレーン工		第3編 2-7-7 バーチカルドレーンエ	2-137
	1-4-5		締固め改良工		第3編 2-7-8 締固め改良工	2-137
	1-4-6		固結工		第3編 2-7-9 固結工	2-138
第5節 護岸基礎工	1-5-3		基礎工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
	1-5-4		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第6節 矢板護岸工	1-6-3		笠コンクリート工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
	1-6-4		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第7節 法覆護岸工	1-7-3		コンクリートブロック工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59
	1-7-4		護岸付属物工			2-243
	1-7-5		緑化ブロック工		第3編 2-5-4 緑化ブロック工	2-60
	1-7-6		環境護岸ブロック工		第3編 2-5-3 コンクリートブロックエ	2-59
	1-7-7		石積(張)工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
	1-7-8		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
	1-7-9		多自然型護岸工	巨石張り	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
				巨石積み	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
				かごマット	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
	1-7-10		吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
	1-7-11		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
	1-7-12		覆土工		第1編 2-3-5 法面整形工	2-37
	1-7-13		羽口工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				かご枠	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第8節 擁壁護岸工	1-8-3		場所打擁壁工	連節ブロック張り	第3編 2-5-3-2 連節ブロック張り 第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-59 2-155
另0即 雅望護序工	1-8-3		プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	2-155
第9節 根固工	1-9-3		根固めブロックエ		第3編 2-3-17 根固めブロックエ	2-48
77047 1411	1-9-5		沈床工		第3編 2-3-18 沈床工	2-49
	1-9-6		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
	1-9-7		かごエ	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第10節 水制工	1-10-3		沈床工		第3編 2-3-18 沈床工	2-49
	1-10-4		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
	1-10-5		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
	1-10-8		杭出し水制工			2-243
第11節 付帯道路工	1-11-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
	1-11-5		アスファルト舗装工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61
	1-11-6		コンクリート舗装工		第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
	1-11-7		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
	1-11-8		ブロック舗装工		第3編 2-6-14 ブロック舗装工	2-129
	1-11-9		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
	1-11-10		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
	1-11-11		縁石工		第3編 2-3-5 縁石工	2-43
	1-11-12		区画線工		第3編 2-3-9 区画線工	2-45
	1 11 12		<u> </u>		NA ANIM P O O STEPHNYT	2 TO

1 970	編 刊川編】			1		1	T
	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第12節	付帯道路施設工	1-12-3		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路付属物工	2-45
		1-12-4		標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
第13節	光ケーブル配管工	1-13-3		配管工			2-243
		1-13-4		ハンドホール工			2-244
第2章	浚渫(川)				_		
第3節	浚渫工(ポンプ浚渫船)	2-3-2		浚渫船運転工(民船・官 船)		第3編 2-16-3 浚渫船運転工	2-157
×11. 1.1	浚渫工 (グラブ浚渫船)	2-4-2		浚渫船運転工		第3編 2-16-3 浚渫船運転工	2-157
第5節	浚渫工(バック ホウ浚渫船)	2-5-2		浚渫船運転工		第3編 2-16-3 浚渫船運転工	2-157
第3章	樋門・樋管						
第3節	軽量盛土工	3-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節	地盤改良工	3-4-2		固結工		第3編 2-7-9 固結工	2-137
第5節	樋門・樋管本体工	3-5-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		3-5-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		3-5-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		3-5-6	1	函(管)渠工	本体工		2-244
			2	函(管)渠工	ヒューム管		2-244
					PC管		2-244
					コルゲートパイプ		2-244
					ダクタイル鋳鉄管		2-244
					PC函渠	第3編 2-3-28 プレキャストカルバート 工	2-52
		3-5-7		翼壁工			2-245
		3-5-8		水叩工			2-245
第6節	護床工	3-6-3		根固めブロック工		第3編 2-3-17 根固めブロックエ	2-48
		3-6-5		沈床工		第3編 2-3-18 沈床工	2-49
		3-6-6		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
		3-6-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
					ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第7節	水路工	3-7-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		3-7-4		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		3-7-5		暗渠工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
		3-7-6		樋門接続暗渠工		第3編 2-3-28 プレキャストカルバート 工	2-52
第8節	付属物設置工	3-8-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
		3-8-7		階段工		第3編 2-3-22 階段工	2-49
第4章	水門						
第3節	工場製作工	4-3-3		桁製作工		第3編 2-12-3 桁製作工	2-143
		4-3-4		鋼製伸縮継手製作工		第3編 2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	2-146
		4-3-5		落橋防止装置製作工		第3編 2-12-6 落橋防止装置製作工	2-147
		4-3-6		鋼製排水管製作工		第3編 2-12-10 鋼製排水管製作工	2-148
		4-3-7		橋梁用防護柵製作工		第3編 2-12-7 橋梁用防護柵製作工	2-147
		4-3-9		仮設材製作工		第3編 2-12-1 仮設材製作工	2-142
		4-3-10		工場塗装工		第3編 2-12-11 工場塗装工	2-149
第5節	軽量盛土工	4-5-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第6節	水門本体工	4-6-4		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		4-6-5		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		4-6-6		矢板工(遮水矢板)		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		4-6-7		床版工			2-245
		4-6-8		堰柱工			2-245

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第6節 水門本体工	4-6-9		門柱工			2-245
	4-6-10		ゲート操作台工			2-245
	4-6-11		胸壁工			2-245
	4-6-12		翼壁工		第6編 3-5-7 翼壁工	2-245
	4-6-13		水叩工		第6編 3-5-8 水叩工	2-245
第7節 護床工	4-7-3		根固めブロック工		第3編 2-3-17 根固めブロック工	2-48
	4-7-5		沈床工		第3編 2-3-18 沈床工	2-49
	4-7-6		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
	4-7-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第8節 付属物設置工	4-8-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
	4-8-8		階段工		第3編 2-3-22 階段工	2-49
第9節 鋼管理橋上部工	4-9-4		架設工(クレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-5		架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-6		架設工(ケーブルエレク ション架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-7		架設工(架設桁架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-8		架設工(送出し架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-9		架設工(トラベラークレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	4-9-10		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
第10節 橋梁現場塗装工	4-10-2		現場塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
第11節 床版工	4-11-2		床版工		第3編 2-18-2 床版工	2-159
第12節 橋梁付属物工 (鋼管理橋)	4-12-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
	4-12-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	4-12-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	4-12-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
第14節 コンクリート管	4-12-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工 第3編 2-3-12 プレテンション桁製作工	2-272
理橋上部工(P C橋)	4-14-2		プレテンション桁製作工 (購入工) ポストテンション桁製作		第3編 2-3-12 プレノンジョン桁製作工 (購入工) 第3編 2-3-13 ポストテンション桁製作	2-46
	4-14-3		工 プレキャストセグメント		工 第3編 2-3-13 プレキャストセグメント	2-46
	4-14-4		桁製作工(購入工)		桁製作工(購入工)	2-47
	4-14-5		プレキャストセグメント 主桁組立工		第3編 2-3-14 プレキャストセグメント 主桁組立工	2-47
	4-14-6		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	4-14-7		架設工(クレーン架設)		第3編 2-13 架設工(コンクリート橋)	2-151
	4-14-8		架設工 (架設桁架設)		第3編 2-13 架設工 (コンクリート橋)	2-151
	4-14-9		床版・横組工		第3編 2-18-2 床版工	2-159
	4-14-10		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第15節 コンクリート管 理橋上部工(PC	4-15-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
ホロースラブ 橋)	4-15-4		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
	4-15-5		PCホロースラブ製作工		第3編 2-3-15 P C ホロースラブ製作工	2-47
第16節 橋梁付属物工	4-16-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
(コンクリート 管理橋)	4-16-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	4-16-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	4-16-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	4-16-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第18節 舗装工	4-18-5		アスファルト舗装工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61
	4-18-6		半たわみ性舗装工		第3編 2-6-8 半たわみ性舗装工	2-73
	4-18-7		排水性舗装工		第3編 2-6-9 排水性舗装工	2-85
	4-18-8		透水性舗装工		第3編 2-6-10 透水性舗装工	2-97
	4-18-9		グースアスファルト舗装工		第3編 2-6-11 グースアスファルト舗装 工	2-101
	4-18-10		コンクリート舗装工		デ 第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
	4-18-11		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
	4-18-12		ブロック舗装工		第3編 2-6-14 ブロック舗装工	2-129
第5章 堰	1 10 12		7 · 7 / max =		770mm 2 0 11 7 . 77 mm & 2	2 120
第3節 工場製作工	5-3-3		刃口金物製作工		第3編 2-12-1 刃口金物製作工	2-142
7/704F 11/2/11/12	5-3-4		桁製作工		第3編 2-12-3 桁製作工	2-143
	5-3-5		検査路製作工		第3編 2-12-4 検査路製作工	2-146
	5-3-6		鋼製伸縮継手製作工		第3編 2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	2-146
	5-3-7		落橋防止装置製作工		第3編 2-12-6 落橋防止装置製作工	2-147
	5-3-8		鋼製排水管製作工		第3編 2-12-10 鋼製排水管製作工	2-148
	5-3-9		プレビーム用桁製作工		第3編 2-12-9 プレビーム用桁製作工	2-148
	5-3-10		橋梁用防護柵製作工		第3編 2-12-7 橋梁用防護柵製作工	2-147
	5-3-12		アンカーフレーム製作工		第3編 2-12-8 アンカーフレーム製作工	2-147
	5-3-13		仮設材製作工		第3編 2-12-1 仮設材製作工	2-142
	5-3-14		工場塗装工		第3編 2-12-11 以政府委许工	2-142
第5節 軽量盛土工	5-5-2		上物室表上 軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-149
第6節 可動堰本体工	5-6-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-40
为0引 引動医平平工	5-6-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
	5-6-5		オープンケーソン基礎工		第3編 2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-58
	5-6-6		ニューマチックケーソン		第3編 2-4-8 ニューマチックケーソン基	2-58
	5-6-7		基礎工 矢板工		一次第3編 2-3-4 矢板工	2-43
	5-6-8		床版工		第6編 4-6-7 床版工	2-245
	5-6-9		堰柱工		第6編 4-6-8 堰柱工	2-245
	5-6-10		門柱工		第6編 4-6-9 門柱工	2-245
	5-6-11		ゲート操作台工		第6編 4-6-10 ゲート操作台工	2-245
	5-6-12		水叩工		第6編 3-5-8 水叩工	2-245
	5-6-13		閘門工		310000 0 0 0 7100 2	2-245
	5-6-14		土砂吐工			2-245
	5-6-15		取付擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
第7節 固定堰本体工	5-7-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
	5-7-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
	5-7-5		オープンケーソン基礎工		第3編 2-4-7 オープンケーソン墓礎工	2-58
	5-7-6		ニューマチックケーソン 基礎工		第3編 2-4-8 ニューマチックケーソン基 礎工	2-58
	5-7-7		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
	5-7-8		堰本体工			2-245
	5-7-9		水叩工			2-245
	5-7-10		土砂吐工			2-245
	5-7-11		取付擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
第8節 魚道工	5-8-3		魚道本体工		74071444	2-246

大	, to	₩. 77	T14	12.Dil	₩ = -1- 7 111 + 17/ Mr +m +h 246	517. FT
章、節		枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第9節 管理橋下部工	5-9-2		管理橋橋台工			2-246
第10節 鋼管理橋上部工	5-10-4		架設工(クレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋) 	2-150
	5-10-5		架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	5-10-6		架設工(ケーブルエレク ション架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	5-10-7		架設工(架設桁架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	5-10-8		架設工(送出し架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	5-10-9		架設工(トラベラークレーン架設)		第3編 2-13 架設工(鋼橋)	2-150
	5-10-10		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
第11節 橋梁現場塗装工	5-11-2		現揚塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
第12節 床版工	5-12-2		床版工		窮3編 2-18-2 床版工	2-159
第13節 橋梁付属物工(鋼 管理橋)	5-13-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
	5-13-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	5-13-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	5-13-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	5-13-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272
第15節 コンクリート管 理橋上部(PC橋)	5-15-2		プレテンション桁製作工 (購入工)		第3編 2-3-12 プレテンション桁製作工 (購入工)	2-46
	5-15-3		ポストテンション桁製作 工		第3編 2-3-13 ポストテンション桁製作 工	2-46
	5-15-4		プレキャストセグメント製作工(購 入工)		第3編 2-3-13 プレキャストセグメント 桁製作工(購入工)	2-47
	5-15-5		プレキャストセグメント主桁組立工		第3編 2-3-14 プレキャストセグメント 主桁組立工	2-47
	5-15-6		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-15-7		架設工(クレーン架設)		第3編 2-13 架設工(コンクリート橋)	2-151
	5-15-8		架設工(架設桁架設)		第3編 2-13 架設工(コンクリート橋)	2-151
	5-15-9		床版・横組工		第3編 2-18-2 床版工	2-159
	5-15-10		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第16節 コンクリート管 理橋上部工(PCホ	5-16-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
ロースラブ橋)	5-16-4		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
	5-16-5		PCホロースラブ製作工		第3編 2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-47
第17節 コンクリート管 理橋上部工(PC箱 桁橋)	5-17-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-17-4		PC箱桁製作工		第3編 2-3-16 PC箱桁製作工	2-48
	5-17-5		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第18節 橋梁付属物工 (コンクリート	5-18-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
管理橋〉	5-18-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	5-18-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	5-18-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	5-18-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272
第20節 付属物設置工	5-20-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
	5-20-7		階段工		第3編 2-3-22 階段工	2-49
			•			•

	河川編】	hr.	مين ما <u>ليا</u>		45.07	SHE TILL 2 are 111 to any later are the SHE	va 17
:	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第6章 排	水機場		1				•
第3節 軽	量盛土工	6-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節 機	場本体工	6-4-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		6-4-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		6-4-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		6-4-6		本体工			2-247
		6-4-7		燃料貯油槽工			2-247
第5節 沈	:砂池工	6-5-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		6-5-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		6-5-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		6-5-6		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
		6-5-7		コンクリート床版工			2-247
		6-5-8		ブロック床版工		第3編 2-3-17 根固めブロック工	2-48
		6-5-9		場所打水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
第6節 吐	:出水槽工	6-6-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		6-6-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		6-6-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		6-6-6		本体工		第6編 6-4-6 本体工	2-247
第7章 床	こととの・床固め						
第3節 軽	量盛土工	7-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節 床	止め工	7-4-4		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		7-4-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		7-4-6		本体工	床固め本体工		2-248
					植石張り	第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
					根固めブロック	第3編 2-3-17 根固めブロック工	2-48
		7-4-7		取付擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
		7-4-8		水叩工	水叩工		2-248
					巨石張り	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
					根固めブロック	第3編 2-3-17 根固めブロック工	2-48
第5節 床	固め工	7-5-4		本堤工		第6編 7-4-6 本体工	2-248
		7-5-5		垂直壁工		第6編 7-4-6 本体工	2-248
		7-5-6		側壁工			2-248
		7-5-7		水叩工		第6編 7-4-8 水叩工	2-248
第6節 山	留擁壁工	7-6-3		コンクリート擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
		7-6-4		ブロック積擁壁工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59
		7-6-5		石積擁壁工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		7-6-6		山留擁壁基礎工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
第8章 河]川維持						
第7節 路	面補修工	8-7-3		不陸整正工		第1編 2-3-6 堤防天端工	2-38
		8-7-4		コンクリート舗装補修工		第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
		8-7-5		アスファルト舗装補修工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61
第8節 付	·属物復旧工	8-8-2		付属物復旧工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
第9節 付	·属物設置工	8-9-3		防護柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
		8-9-5		付属物設置工		第3編 2-3-10 道路附属物工	2-45
第10節 光	:ケーブル配管工	8-10-3		配管工		第6編 1-13-3 配管工	2-243
		8-10-4		ハンドホール工		第6編 1-13-4 ハンドホール工	2-244
第12節 植	[栽維持工	8-12-3		樹木・芝生管理工		第3編 2-14-2 植生工	2-151

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理藻準	番号
第9章	河川修繕			L			1
第3節	軽量盛土工	9-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節	腹付工	9-4-2		覆土工		第1編 2-3-5 法面整形工	2-37
		9-4-3		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
第5節	側帯工	9-5-2		縁切工	じゃやかご工	第3編 2-3-27 羽口工(じゃかご工)	2-52
					連節ブロック張り	第3編 2-5-3 コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	2-59
				コンクリートブロッ ク張り	第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59	
					石張工	第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		9-5-3		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
第6節	堤脚保護工	9-6-3		石積工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		9-6-4		コンクリートブロック工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59
第7節	管理用通路工	9-7-2		防護柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
		9-7-4		路面切削工		第3編 2-6-15 路面切削工	2-132
		9-7-5		舗装打換え工		第3編 2-6-16 舗装打換え工	2-132
		9-7-6		オーバーレイエ		第3編 2-6-17 オーバーレイエ	2-133
		9-7-7		排水構造物工	プレキャストU型側溝・管(函)渠	第3編 2-3-29 側溝工	2-53
					集水桝工	第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		9-7-8		道路付属物工	歩車道境界ブロック	第3編 2-3-5 縁石工	2-43
第8節	現場塗装工	9-8-3		付属物塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
		9-8-4		コンクリート面塗装工		第3編 2-3-11 コンクリート面塗装工	2-45

【第7編 河川海岸編】

第1章 堤 第3節 軽 第4節 地		1-3-2					
	量盛土工	1-3-2					
第4節 地				軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
	盤改良工	1-4-2		表層安定処理工		第3編 2-7-4 表層安定処理工	2-135
		1-4-3		パイルネット工		第3編 2-7-5 パイルネットエ	2-135
		1-4-4		バーチカルドレーン工		第3編 2-7-7 バーチカルドレーンエ	2-136
		1-4-5		締固め改良工		第3編 2-7-8 締固め改良工	2-136
		1-4-6		超結工		第3編 2-7-8 新国の以及工 第3編 2-7-9 固結工	2-136
第5節 護	: 	1-5-4		捨石工		第3編 2-7-9 固紀工 第3編 2-3-19 捨石工	2-49
NIOTH IS	. 产 盆 嵷 工					330/m 2 0 10 1B-日工	
		1-5-5		場所打コンクリートエ			2-249
		1-5-6		海岸コンクリートブロッ クエ			2-249
		1-5-7		笠コンクリート工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
		1-5-8		基礎工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
		1-5-9		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第6節 護	岸工	1-6-3		石積(張)工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		1-6-4		海岸コンクリートブロッ クエ			2-249
		1-6-5		コンクリート被覆工			2-250
第7節 擁	壁工	1-7-3		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
第8節 天	端被覆工	1-8-2		コンクリート被覆工		第7編 1-6-5 コンクリート被覆工	2-250
第9節 波	返工	1-9-3		波返工			2-250
第10節 裏	法被覆工	1-10-2		石積(張) 工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		1-10-3		コンクリートブロック工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック エ	2-59
		1-10-4		コンクリート被覆工		第7編 1-6-5 コンクリート被覆工	2-250
		1-10-5		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
第11節 カ	ルバートエ	1-11-3		プレキャストカルバート 工		第3編 2-3-28 プレキャストカル バートエ	2-52
第12節 排	水構造物工	1-12-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		1-12-4		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		1-12-5		管渠工	プレキャストパイプ	第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
					プレキャストボックス	第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
					コルゲートパイプ	第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
					ダクタイル鋳鉄管	第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
		1-12-6		場所打水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
第13節 付	属物設置工	1-13-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
		1-13-6		階段工		第3編 2-3-22 階段工	2-49
第14節 付	带道路工	1-14-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
		1-14-5		アスファルト舗装工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61
		1-14-6		コンクリート舗装工		第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
		1-14-7		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
		1-14-8		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		1-14-9		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		1-14-10		縁石工		第3編 2-3-5 縁石工	2-43
foto a = fato	41L->4-11-12-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-	1-14-11		区画線工		第3編 2-3-9 区画線工	2-45
第15節 付	帯道路施設工	1-15-3		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路附属物工	2-45
		1-15-4		小型標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
第9音 佐	是堤・人工岬	-			1		
7704年 矢		0 0 0	l	軽量盛土工	i	第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第3節 軽	量盛土工	2-3-2		性里価工工		另1編 Z-4-3 時件盤工工	
		2-3-2		捨石工		第1輛 2−4−3 时P盆工工	2-251

【第7編 河川海岸編】

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第5節	突堤本体工	2-5-2		捨石工			2-251
		2-5-5		海岸コンクリートブロッ クエ			2-252
		2-5-6		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		2-5-7		詰杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		2-5-8		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
		2-5-9		石枠工			2-252
		2-5-10		場所打コンクリート工			2-252
		2-5-11	1	ケーソンエ	ケーソン工製作		2-253
			2	ケーソンエ	ケーソン工据付		2-253
			3	ケーソンエ	突堤上部工(場所打コン クリート)(海岸コンク リートブロック)		2-253
		2-5-12	1	セルラー工	セルラー工製作		2-254
			2	セルラー工	セルラー工据付		2-254
			3	セルラー工	突堤上部工(場所打コン クリート)(海岸コンク リートブロック)		2-254
第6節	根固め工	2-6-2		捨石工			2-254
		2-6-3		根固めブロック工			2-255
第7節	消波工	2-7-2		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
		2-7-3		消波ブロック工			2-255
第3章	海域堤防(人工リー	フ、離岸	堤、潜:	是)			
第3節	海域堤基礎工	3-3-3		捨石工			2-255
		3-3-4		吸出し防止工		第7編 2-4-5 吸出し防止工	2-251
第4節	海域堤本体工	3-4-2		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
		3-4-3		海岸コンクリートブロッ クエ		第7編 2-5-5 海岸コンクリートブ ロックエ	2-252
		3-4-4		ケーソンエ		第7編 2-5-11 ケーソン工	2-253
		3-4-5		セルラー工		第7編 2-5-12 セルラーエ	2-254
		3-4-6		場所打コンクリート工		第7編 2-5-10 場所打ちコンクリー トエ	2-252
第4章	浚渫(海岸)						
第2節	浚渫工(ポンプ浚渫船)	4-3-2		浚渫船運転工		第3編 2-16-3 浚渫船運転工	2-157
第3節	浚渫工(グラブ船)	4-4-2		浚渫船運転工		第3編 2-16-3 浚渫船運転工	2-157
第5章	養浜						
第2節	軽量盛土工	5-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第3節	砂止工	5-4-2		根固めブロック工		第3編 2-3-17 根固めエブロックエ	2-48

【第8編 砂防編】

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第1章	砂防堰堤						
第3節	工場製作工	1-3-3		鋼製堰堤製作工		第3編 2-12-3-3 桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	2-146
		1-3-4		鋼製堰堤仮設材製作工			2-256
		1-3-5		工場塗装工		第3編 2-12-11 工場塗装工	2-149
第5節	軽量盛土工	1-5-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第6節	法面工	1-6-2		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
		1-6-3		法面吹付け工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
		1-6-4		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
		1-6-6		アンカーエ		第3編 2-14-6 アンカーエ	2-154
		1-6-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
					ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第8節	コンクリート堰堤工	1-8-4		コンクリート堰堤本体工			2-256
		1-8-5		コンクリート副堰堤工		第8編 1-8-4 コンクリート堰堤本 体工	2-256
		1-8-6		コンクリート側壁工			2-256
		1-8-8		水叩工			2-257
第9節	鋼製堰堤工	1-9-5	1	鋼製堰堤本体工	不透過型		2-257
			2		透過型		2-257
		1-9-6		鋼製側壁工			2-258
		1-9-7		コンクリート側壁工		第8編 1-8-6 コンクリート側壁工	2-256
		1-9-9		水叩工		第8編 1-8-8 水叩工	2-257
		1-9-10		現場塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
第10節	護床工・根固工	1-10-4		根固めエブロックエ		第3編 2-3-17 根固めブロックエ	2-48
		1-10-6		沈床工		第3編 2-3-18 沈床工	2-49
		1-10-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
					ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第11節	砂防堰堤付属物設置工	1-11-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
第12節	付带進路工	1-12-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
		1-12-5		アスファルト舗装工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61
		1-12-6		コンクリート舗装工		第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
		1-12-7		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
		1-12-8		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		1-12-9		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		1-12-10		縁石工		第3編 2-3-5 縁石工	2-43
		1-12-11		区画線工		第3編 2-3-9 区画線工	2-45
第13節	付带道路施設工	1-13-3		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路付属物工	2-45
		1-13-4		小型標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
第2章	流路						
第3節	軽量盛土工	2-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節	流路護岸工	2-4-4		基礎工(護岸)		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
		2-4-5		コンクリート擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
		2-4-6		ブロック積擁壁工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59
		2-4-7		石積擁壁工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
		2-4-8		護岸付属物工		第6編 1-7-4 護岸付属物工	2-243
		2-4-9		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
第5節	床固め工	2-5-4		床固め本体工		第8編 1-8-4 コンクリート堰堤本体工	2-256

【第8編 砂防編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第5節 床固め工	2-5-5		垂直壁工		第8編 1-8-4 コンクリート堰堤本体工	2-256
	2-5-6		側壁工		第8編 1-8-6 コンクリート側壁工	2-256
	2-5-7		水叩工		第8編 1-8-8 水叩工	2-257
	2-5-8		魚道工			2-258
第6節 根固め・水制工	2-6-4		根固めブロック工		第3編 2-3-17 根固めブロック工	2-48
	2-6-6		捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	2-49
	2-6-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				かごマット	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
第7節 流路付属物設置工	2-7-2		階段工		第3編 2-3-22 階段工	2-49
	2-7-3		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
第3章 斜面対策						
第3節 軽量盛土工	3-3-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第4節 法面工	3-4-2		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
	3-4-3		吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
	3-4-4		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
	3-4-5		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
	3-4-6		アンカーエ(プレキャストコンクリート板)		第3編 2-14-6 アンカーエ	2-154
	3-4-7		抑止アンカーエ		第3編 2-14-6 アンカーエ	2-154
第5節 擁壁工	3-5-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
	3-5-4		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
	3-5-5		プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	2-155
	3-5-6		補強土壁工		第3編 2-15-3 補強土壁工	2-156
	3-5-7		井桁ブロックエ		第3編 2-15-4 井桁ブロック工	2-156
	3-5-8		落石防護工		第10編 1-11-5 落石防護柵工	2-260
第6節 山腹水路工	3-6-3		山腹集水路・排水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
	3-6-4		山腹明暗渠工			2-258
	3-6-5		山腹暗渠工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
	3-6-6		現場打水路工		第3編 3-2-29 場所打水路工	2-53
	3-6-7		集水桝工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
第7節 地下水排除工	3-7-4		集排水ボーリング工			2-259
	3-7-5		集水井工			2-259
第8節 地下水遮断工	3-8-3		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
	3-8-4		固結工		第3編 2-7-9 固結工	2-137
	3-8-5		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第9節 抑止杭工	3-9-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
	3-9-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
	3-9-5		シャフトエ(深礎工)		第3編 2-4-6 深礎工	2-58
	3-9-6		合成杭工			2-259

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第1章	道路改良						
第3節	工場製作工	1-3-2		遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工		2-260
					工場塗装工	第3編 2-12-11 工場塗装工	2-149
第4節	地盤改良工	1-4-2		表層安定処理工		第3編 2-7-4 表層安定処理工	2-135
		1-4-3		置換工		第3編 2-7-3 置換工	2-134
		1-4-4		サンドマット工		第3編 2-7-6 サンドマットエ	2-136
		1-4-5		バーチカルドレーン 工		第3編 2-7-7 バーチカルドレーン工	2-136
		1-4-6		締固め改良工		第3編 2-7-8 締固め改良工	2-136
		1-4-7		固結工		第3編 2-7-9 固結工	2-137
第5節	法面工	1-5-2		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
		1-5-3		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
		1-5-4		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
		1-5-6		アンカー工		第3編 2-14-6 アンカーエ	2-154
		1-5-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
					ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第6節	軽量盛土工	1-6-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第7節	擁壁工	1-7-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		1-7-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		1-7-5		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
		1-7-6		プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	2-155
		1-7-7		補強土壁工	補強土(テールアルメ)壁 工法	第3編 2-15-3 補強土壁工	2-156
					多数アンカー式補強土工 法	第3編 2-15-3 補強土壁工	2-156
					ジオテキスタイルを用い た補強土工法	第3編 2-15-3 補強土壁工	2-156
		1-7-8		井桁ブロック工		第3編 2-15-4 井桁ブロック工	2-156
第8節	石・ブロック積(張 り) エ	1-8-3		コンクリートブロッ クエ		第3編 2-5-3 コンクリートブロックエ	2-59
		1-8-4		石積・石張工		第3編 2-5-5 石積(張) 工	2-60
第9節	カルバート工	1-9-4		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		1-9-5		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		1-9-6		場所打函渠工			2-260
		1-9-7		プレキャストカル バート工		第3編 2-3-28 プレキャストカルバート 工	2-52
第10節	排水構造物工(小型水路工)	1-10-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		1-10-4		管渠工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		1-10-5		集水桝・マンホール 工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		1-10-6		地下排水工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
		1-10-7		場所打水路工		第3編 3-2-29 場所打水路工	2-53
		1-10-8		排水工(小段排水· 縦排水)		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
第11節	落石雪害防止工	1-11-4		落石防止網工			2-260
		1-11-5		落石防護柵工			2-260
		1-11-6		防雪柵工			2-261
		1-11-7		雪崩予防柵工			2-261
第12節	遮音壁工	1-12-4		遮音壁基礎工			2-261
		1-12-5		遮音壁本体工			2-261
第2章	舗装				T		1
第3節	地盤改良工	2-3-2		表層安定処理工		第3編 2-7-4 表層安定処理工	2-135
		2-3-3		置換工		第3編 2-7-3 置換工	2-134
第4節	舗装工	2-4-5		アスファルト舗装工		第3編 2-6-7 アスファルト舗装工	2-61

	章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第4節	舗装工	2-4-6		半たわみ性舗装工		第3編 2-6-8 半たわみ性舗装工	2-73
		2-4-7		排水性舗装工		第3編 2-6-9 排水性舗装工	2-85
		2-4-8		透水性舗装工		第3編 2-6-10 透水性舗装工	2-97
		2-4-9		グースアスファルト 舗装工		第3編 2-6-11 グースアスファルト舗装 工	2-101
		2-4-10		コンクリート舗装工		第3編 2-6-12 コンクリート舗装工	2-107
		2-4-11		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
		2-4-12		ブロック舗装工		第3編 2-6-14 ブロック舗装工	2-129
		2-4		歩道路盤工			2-262
		2-4		取合舗装路盤工			2-262
		2-4		路肩舗装路盤工			2-262
		2-4		歩道舗装工			2-262
		2-4		取合舗装工			2-262
		2-4		路肩舗装工			2-262
		2-4		表層工			2-262
第5節	排水構造物工(路 面排水工)	2-5-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		2-5-4		管渠工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		2-5-5		集水桝(街渠桝)・マ ンホール工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
		2-5-6		地下排水工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
		2-5-7		場所打水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
		2-5-8		排水工(小段排水· 縦排水)		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
		2-5-9		排水性舗装用路肩排 水工			2-263
第6節	縁石工	2-6-3		縁石工		第3編 2-3-5 縁石工	2-43
第7節	踏掛版工	2-7-4		踏掛版工	コンクリート工		2-263
					ラバーシュー		2-263
					アンカーボルト		2-263
第8節	防護柵工	2-8-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
		2-8-4		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
		2-8-5		ボックスビーム工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
		2-8-6		車止めポストエ		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
第9節	標識工	2-9-3		小型標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
		2-9-4	1	大型標識工	標識基礎工		2-263
			2	大型標識工	標識柱工		2-264
第10節	区画線工	2-10-2		区画線工		第3編 2-3-9 区画線工	2-45
第12節	道路付属施設工	2-12-4		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路付属物工	2-45
		2-12-5	1	ケーブル配管工	ケーブル配管工		2-264
			2	ケーブル配管工	ハンドホール		2-265
		2-12-6		照明工	照明柱基礎工		2-265
第13節	橋梁付属物工	2-13-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
第3章	橋梁下部	1	1	T	T		
第3節	工場製作工	3-3-2		刃口金物製作工		第3編 2-12-1 刃口金物製作工	2-142
		3-3-3		鋼製橋脚製作工			2-266
		3-3-4		アンカーフレーム製 作工		第3編 2-12-8 アンカーフレーム製作工	2-147
		3-3-5		工場塗装工		第3編 2-12-11 工場塗装工	2-149
第5節	軽量盛土工	3-5-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第6節	橋台工	3-6-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
		3-6-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
		3-6-5		深礎工		第3編 2-4-6 深礎工	2-58

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第6節 橋台工	3-6-6		オープンケーソン基 礎工		第3編 2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-58
	3-6-7		ニューマチックケー ソン基礎工		第3編 2-4-8 ニューマチックケーソン 基礎工	2-58
	3-6-8		橋台躯体工			2-267
第7節 RC橋脚工	3-7-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
	3-7-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
	3-7-5		深礎工		第3編 2-4-6 深礎工	2-58
	3-7-6		オープンケーソン基 礎工		第3編 2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-58
	3-7-7		ニューマチックケー ソン基礎工		第3編 2-4-8 ニューマチックケーソン 基礎工	2-58
	3-7-8		鋼管矢板基礎工		第3編 2-4-9 鋼管矢板基礎工	2-59
	3-7-9	1	橋脚躯体工	張出式		2-268
				重力式		2-268
				半重力式		2-268
		2	橋脚躯体工	ラーメン式		2-269
第8節 鋼製橋脚工	3-8-3		既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	2-57
	3-8-4		場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	2-57
	3-8-5		深礎工		第3編 2-4-6 深礎工	2-58
	3-8-6		オープンケーソン基 礎工		第3編 2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-58
	3-8-7		ニューマチックケー ソン基礎工		第3編 2-4-8 ニューマチックケーソン 基礎工	2-58
	3-8-8		鋼管矢板基礎工		第3編 2-4-9 鋼管矢板基礎工	2-59
	3-8-9	1	橋脚フーチング工	I型・T型		2-269
		2	橋脚フーチング工	門型		2-270
	3-8-10	1	橋脚架設工	I型・T型		2-270
		2	橋脚架設工	門型		2-270
	3-8-11		現場継手工			2-270
	3-8-12		現場塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
第9節 護岸基礎工	3-9-3		基礎工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
	3-9-4		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第10節 矢板護岸工	3-10-3		笠コンクリート工		第3編 2-4-3 基礎工(護岸)	2-56
	3-10-4		矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	2-43
第11節 法覆護岸工	3-11-2		コンクリートブロッ ク工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	2-59
	3-11-3		護岸付属物工		第6編 1-7-4 護岸付属物工	2-243
	3-11-4		緑化ブロック工		第3編 2-5-4 緑化ブロック工	2-60
	3-11-5		環境護岸ブロック工		第3編 2-5-3 コンクリートブロックエ	2-59
	3-11-6		石積(張)工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
	3-11-7		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
	3-11-8		多自然型護岸工	巨石張り	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
			多自然型護岸工	巨石積み	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
			多自然型護岸工	かごマット	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	2-51
	3-11-9		吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
	3-11-10		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151
	3-11-11		覆土工		第1編 2-3-5 法面整形工	2-37
	3-11-12		羽口工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				かご枠	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				連節ブロック張り	第3編 2-5-3-2 連節ブロック張り	2-59
第12節 擁壁護岸工	3-12-3		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155

第12節 擁壁護岸工 3-12-4 プレキャスト擁壁工 第3編 2-15-2 第4章 鋼橋上部 第3節 工場製作工 4-3-3 桁製作工 第3編 2-12-3 4-3-4 検査路製作工 第3編 2-12-4 4-3-5 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5 4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 第3編 2-12-10 第3編 2-12-10 第3編 2-12-10 第3編 2-12-10	ではまれています。 カース	番号 2-143 2-146 2-146 2-147 2-148 2-147
第4章 鋼橋上部 4-3-3 桁製作工 第3編 2-12-3 4-3-4 検査路製作工 第3編 2-12-4 4-3-5 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5 4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	析製作工 検査路製作工 鋼製伸縮継手製作工 落橋防止装置製作工) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-143 2-146 2-146 2-147 2-148
第3節 工場製作工 4-3-3 桁製作工 第3編 2-12-3 4-3-4 検査路製作工 第3編 2-12-4 4-3-5 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5 4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	検査路製作工 鋼製伸縮継手製作工 落橋防止装置製作工) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-146 2-146 2-147 2-148
4-3-4 検査路製作工 第3編 2-12-4 4-3-5 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5 4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	検査路製作工 鋼製伸縮継手製作工 落橋防止装置製作工) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-146 2-146 2-147 2-148
4-3-5 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5 4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	鋼製伸縮継手製作工 落橋防止装置製作工) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-146 2-147 2-148
4-3-6 落橋防止装置製作工 第3編 2-12-6 4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	落橋防止装置製作工) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-147 2-148
4-3-7 鋼製排水管製作工 第3編 2-12-10 4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7) 鋼製排水管製作工 橋梁用防護柵製作工	2-148
4-3-8 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7 4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7	橋梁用防護柵製作工	
4-3-9 橋梁用高欄製作工 第3編 2-12-7		2-147
	橋梁用防護柵製作工	
4-3-10 横断歩道橋製作工 第3編 2-12-3		2-147
	桁製作工	2-143
4-3-12 アンカーフレーム製作工 第3編 2-12-8	アンカーフレーム製作工	2-147
4-3-13 工場塗装工 第3編 2-12-13	1 工場塗装工	2-149
第5節 鋼橋架設工 4-5-4 架設工(クレーン架 設) 第3編 2-13 3	架設工(クレーン架設)	2-150
4-5-5 架設工(ケーブルク レーン架設) 第3編 2-13 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	架設工(ケーブルクレーン	2-150
4-5-6 架設工(ケーブルエ 第3編 2-13 3 ション架設) ション架設)	架設工(ケーブルエレク	2-150
4-5-7 架設工(架設桁架設) 第3編 2-13 3	架設工(架設桁架設)	2-150
4-5-8 架設工(送出し架設) 第3編 2-13 3	架設工(送出し架設)	2-150
4-5-9 架設工(トラベラークレーン 架設) 第3編 2-13 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	架設工(トラベラークレー	2-150
4-5-10 1 支承工 鋼製支承		2-271
2 支承工 ゴム支承		2-271
第6節 橋梁現場塗装工 4-6-3 現場塗装工 第3編 2-3-31	現場塗装工	2-55
第7節 床版工 4-7-2 床版工 第3編 2-18-2	床版工	2-159
第8節 橋梁付属物工 4-8-2 伸縮装置工 第3編 2-3-24	伸縮装置工	2-49
4-8-3 落橋防止装置工		2-272
4-8-5 地覆工 第10編 4-8-5	地覆工	2-272
4-8-6 橋梁用防護柵工		2-272
4-8-7 橋梁用高欄工		2-272
4-8-8 検査路工		2-272
第9節 歩道橋本体工 4-9-3 既製杭工 第3編 2-4-4	既製杭工	2-57
4-9-4 場所打杭工 第3編 2-4-5	場所打杭工	2-57
4-9-5橋脚フーチングエI 型第10編 3-8-9	橋脚フーチング工	2-269
T型 第10編 3-8-9	橋脚フーチング工	2-269
4-9-6 歩道橋 (側道橋) 架設 工 第3編 2-13 #	喬梁架設工	2-150
4-9-7 現場塗装工 第3編 2-3-31	現場塗装工	2-55
第5章 コンクリート橋上部	•	
第3節 工場製作工 5-3-2 プレビーム用桁製作 第3編 2-12-9	プレビーム用桁製作工	2-148
5-3-3 橋梁用防護柵製作工 第3編 2-12-7	橋梁用防護柵製作工	2-147
5-3-4 鋼製伸縮継手製作工 第3編 2-12-5	鋼製伸縮継手製作工	2-146
5-3-5 検査路製作工 第3編 2-12-4	検査路製作工	2-146
5-3-6 工揚塗装工 第3編 2-12-11		2-149
第3編 2-3-12	プレテンション桁製作工	2-46
第5則 PC欄工		∠-40

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第5節 PC橋工	5-5-2		プレテンション桁製作工(購入工)	スラブ橋	第3編 2-3-12 プレテンション桁製作工 (購 7 工)	2-46
	5-5-3		作工(購入工) ポストテンション桁 製作工		(購入工) 第3編 2-3-13 ポストテンション桁製作 エ	2-46
	5-5-4		プレキャストセク・メント製作工(購入工)		第3編 2-3-13 プレキャストセグメント 桁製作工(購入工)	2-47
	5-5-5		プレキャストセグメ ント主桁組立工		第3編 2-3-14 プレキャストセグメント 主桁組立工	2-47
	5-5-6		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-5-7		架設工(クレーン架 設)		第3編 2-13 架設工(クレーン架設)	2-151
	5-5-8		架設工(架設桁架設)		第3編 2-13 架設工(架設桁架設)	2-151
	5-5-9		床版・横組工		第3編 2-18-2 床版工	2-159
	5-5-10		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第6節 プレビーム桁橋工	5-6-2		プレビーム桁製作工 (現場)			2-273
	5-6-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-6-4		架設工(クレーン架 設〉		第3編 2-13 架設工(クレーン架設)	2-151
	5-6-5		架設工(架設桁架設)		第3編 2-13 架設工(架設桁架設)	2-151
	5-6-6		床版・横組工		第3編 2-18-2 床版工	2-159
	5-6-9		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第7節 PCホロースラブ橋工	5-7-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-7-4		PCホロースラブ製作 工		第3編 2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-47
	5-7-5		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第8節 RCホロースラブ橋工	5-8-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-8-4		RC場所打ホロースラ ブ製作工		第3編 2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-47
	5-8-5		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第9節 PC版桁橋工	5-9-2		PC版桁製作工		第3編 2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-47
第10節 PC箱桁橋工	5-10-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-10-4		PC箱桁製作工		第3編 2-3-16 PC箱桁製作工	2-48
	5-10-5		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
第11節 PC片持箱桁橋工	5-11-2		PC片持箱桁製作工		第3編 2-3-16 PC箱桁製作工	2-48
	5-11-3		支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	5-11-4		架設工(片持架設)		第3編 2-13 架設工(コンクリート橋)	2-151
第12節 PC押出し箱桁橋工	5-12-2		PC押出し箱桁製作工		第3編 2-3-16 PC押出し箱桁製作工	2-48
	5-12-3		架設工(押出し架設)		第3編 2-13 架設工(コンクリート橋)	2-151
第13節 橋梁付属物工	5-13-2		伸縮装置工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
	5-13-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	5-13-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	5-13-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	5-13-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272
第6章 トンネル(NATM)						•
第4節 支保工	6-4-3		吹付工			2-273
第5節 覆工	6-4-4		ロックボルトエ 覆エコンクリートエ			2-273 2-274
労び即 復工	6-5-4		復工コンクリート工 側壁コンクリート工		第10編 6-5-3 覆エコンクリートエ	2-274
	6-5-5		床版コンクリートエ		ファン・ハクロ 0 0 0 1久上一マノノ 1 上	2-274
第6節 インバートエ	6-6-4		インバート本体工			2-275
第7節 坑内付帯工	6-7-5		地下排水工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
第8節 坑門工	6-8-4		坑門本体工			2-275
/			—	<u> </u>	l .	

NATONIII VE BEI MIII I						
章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第8節 坑門工	6-8-5		明り巻工			2-276
第11章 共同溝				•		
第3節 工場製作工	11-3-3		工場塗装工		第3編 2-12-11 工場塗装工	2-149
第6節 現場打構築工	11-6-2		現場打駆体工			2-277
	11-6-4		カラー継手工			2-277
	11-6-5	1	防水工	防水		2-277
		2	防水工	防水保護工		2-277
		3	防水工	防水壁		2-278
第7節 プレキャスト構築工	11-7-2		プレキャスト躯体工			2-278
第12章 電線共同溝						
第5節 電線共同溝工	12-5-2		管路工(管路部)			2-278
	12-5-3		プレキャストボック ス工(特殊部)			2-279
	12-5-4		現場打ボックス工 (特殊部)		第10編 11-6-2 現場打躯体工	2-277
第6節 付帯設備工	12-6-2		ハンドホール工			2-279
第13章 情報ボックス工		1				
第3節 情報ボックス工	13-3-4		管路工(管路部)		第10編 12-5-2 管路工(管路部)	2-278
第4節 付帯設備工	13-4-2		ハンドホール工		第10編 12-6-2 ハンドホール工	2-279
第14章 道路維持						
第4節 舗装工	14-4-3		路面切削工		第3編 2-6-15 路面切削工	2-131
	14-4-4		舗装打換え工		第3編 2-6-16 舗装打換え工	2-131
	14-4-5	1	切削オーバーレイエ			2-280
		2	切削オーバーレイエ	(面管理の場合)		2-281
	14-4-6		オーバーレイエ		第3編 2-6-17 オーバーレイエ	2-132
	14-4-7		路上再生工			2-281
	14-4-8		薄層カラー舗装工		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装工	2-127
第5節 排水構造物工	14-5-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
	14-5-4		管渠工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
	14-5-5		集水桝・マンホール工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
	14-5-6		地下排水工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
	14-5-7		場所打水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
	14-5-8		排水工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
第6節 防護柵工	14-6-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
	14-6-4		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
	14-6-5		ボックスビーム工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
	14-6-6		車止めポストエ		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
第7節 標識工	14-7-3		小型標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
	14-7-4		大型標識工		第10編 2-9-4 大型標識工	2-263
第8節 道路付属施設工	14-8-4		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路付属物工	2-45
	14-8-5		ケーブル配管工		第10編 2-12-5 ケーブル配管工	2-264
	14-8-6		照明工		第10編 2-12-6 照明工	2-265
第9節 軽量盛土工	14-9-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第10節 擁壁工	14-10-3		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
	14-10-4		プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	2-155
第11節 石・ブロック積(張)			コンクリートブロッ クエ		第3編 2-5-3 コンクリートブロックエ	2-59
	14-11-4		石積(張)工		第3編 2-5-5 石積(張) 工	2-60
第12節 カルバート工	14-12-4		場所打函渠工		第10編 1-9-6 場所打函渠工	2-260
	14-12-5		プレキャストカル バート工		第3編 2-3-28 プレキャストカルバート 工	2-52
第13節 法面工	14-13-2		植生工		第3編 2-14-2 植生工	2-151

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第13節 法面工	14-13-3		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
	14-13-4		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
	14-13-6		アンカー工		第3編 2-14-6 アンカー工	2-154
	14-13-7		かごエ	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
				ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第15節 橋梁付属物工	15-15-2		紳縮継手工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
	15-15-4		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	15-15-5		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	15-15-6		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	15-15-7		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272
第17節 現場塗装工	14-17-6		コンクリート面塗装工		第3編 2-3-11 コンクリート面塗装工	2-45
第16章 道路修繕						
第3節 工場製作工	16-3-4		桁補強材製作工			2-282
	16-3-5		落橋防止装置製作工		第3編 2-12-6 落橋防止装置製作工	2-147
第5節 舗装工	16-5-3		路面切削工		第3編 2-6-15 路面切削工	2-131
	16-5-4		舗装打換え工		第3編 2-6-16 舗装打換え工	2-131
	16-5-5		切削オーバーレイエ		第10編 14-4-5 切削オーバーレイエ	2-280
	16-5-6		オーバーレイ工		第3編 2-6-17 オーバーレイエ	2-132
	16-5-7		路上再生工		第10編 14-4-7 路上再生工	2-281
	16-5-8		薄層カラー舗装		第3編 2-6-13 薄層カラー舗装	2-127
第6節 排水構造物工	16-6-3		側溝工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
	16-6-4		管渠工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
	16-6-5		集水桝・マンホール工		第3編 2-3-30 集水桝工	2-55
	16-6-6		地下排水工		第3編 2-3-29 暗渠工	2-54
	16-6-7		場所打水路工		第3編 2-3-29 場所打水路工	2-53
	16-6-8		排水工		第3編 2-3-29 側溝工	2-53
第7節 縁石工	17-7-3		縁石工		第3編 2-3-5 縁石工	2-43
第8節 防護柵工	16-8-3		路側防護柵工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
	16-8-4		防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
	16-8-5		ボックスビーム工		第3編 2-3-8 路側防護柵工	2-44
	16-8-6		車止めポスト工		第3編 2-3-7 防止柵工	2-44
第9節 標識工	16-9-3		小型標識工		第3編 2-3-6 小型標識工	2-43
	16-9-4		大型標識工		第10編 2-9-4 大型標識工	2-263
第10節 区画線工	16-10-2		区画線工		第3編 2-3-9 区画線工	2-45
第12節 道路付属施設工	16-12-4		道路付属物工		第3編 2-3-10 道路付属物工	2-45
	16-12-5		ケーブル配管工		第10編 2-12-5 ケーブル配管工	2-264
	16-12-6		照明工		第10編 2-12-6 照明工	2-265
第13節 軽量盛土工	16-13-2		軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	2-40
第14節 擁壁工	16-14-3		場所打擁壁工		第3編 2-15-1 場所打擁壁工	2-155
第15節 石・ブロック積	16-14-4		プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	2-155
(張)工	16-15-3		コンクリートブロッ クエ		第3編 2-5-3 コンクリートブロックエ	2-59
	16-15-4		石積(張)工		第3編 2-5-5 石積(張)工	2-60
第16節 カルバートエ	16-16-4		揚所打函渠工		第10編 1-9-6 場所打函渠工	2-260
	16-16-5		プレキャストカル バート工		第3編 2-3-28 プレキャストカルバート 工	2-52
第17節 法面工	16-17-2		植生工		ディスタイプ 第3編 2-14-2 植生工	2-151
	16-17-3		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	2-153
	16-17-4		法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	2-154
	16-17-6		アンカー工		第3編 2-14-6 アンカーエ	2-154
	16-17-7		かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	番号
第17節 法面工	16-17-7		かご工	ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	2-52
第18節 落石雪害防止工	18-18-4		落石防止網工		第10編 1-11-4 落石防止網工	2-260
	18-18-5		落石防護柵工		第10編 1-11-5 落石防護柵工	2-260
	18-18-6		防雪柵工		第10編 1-11-6 防雪柵工	2-261
	18-18-7		雪崩予防柵工		第10編 1-11-7 雪崩予防柵工	2-261
第20節 鋼桁工	16-20-3		鋼桁補強工		第10編 16-3-4 桁補強材製作工	2-282
第21節 橋梁支承工	16-21-3		鋼橋支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
	16-21-4		PC橋支承工		第10編 4-5-10 支承工	2-271
第22節 橋梁付属物工	16-22-3		伸縮継手工		第3編 2-3-24 伸縮装置工	2-49
	16-22-4		落橋防止装置工		第10編 4-8-3 落橋防止装置工	2-272
	16-22-6		地覆工		第10編 4-8-5 地覆工	2-272
	16-22-7		橋梁用防護柵工		第10編 4-8-6 橋梁用防護柵工	2-272
	16-22-8		橋梁用高欄工		第10編 4-8-7 橋梁用高欄工	2-272
	16-22-9		検査路工		第10編 4-8-8 検査路工	2-272
第25節 現場塗装工	16-25-3		橋梁塗装工		第3編 2-3-31 現場塗装工	2-55
	16-25-6		コンクリート面塗装 工		第3編 2-3-11 コンクリート面塗装工	2-45

【第11編 公園緑地編】

章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	番号	
第3章 施設整備					
第7節 園路広場整備工	3-7-10 土系舗装工	土系舗装		2-283	
第9節 遊戲施設整備工	3-9-3 遊具組立設置工	1 ブランコ			
		2 ジャングルジム		2-284	
		3 滑台		2 204	
		5 鉄棒			
		6 ラダー			
		7 はん登棒		2-285	
		8 スプリング遊具		2-269	
		9 複合遊具			
		11 健康器具			
	3-9-4 小規模現場打遊具工	1 砂場			
第10節 サービス施設整備工	3-10-4 水飲み場工	1 水飲み場			
	3-10-6 テーブル・ベンチエ	1 ベンチ		2-286	
		2 縁台		2-200	
		3 テーブル]	
		4 スツール			
		5 野外卓			

【第12編 下水道編】

	タイトル	工種	準用する出来形管理基準	番号	
下水道工関係	下水道工	開削工(管布設工)			
		開削工(現場打ボックスカル バート)		2-287	
		開削工 (プレキャストボック スカルバート)		2-201	
		基礎工			
		中大口径推進工			
		小口径推進工			
		トンネルエ		2-288	
		シールドエ			
		マンホール基礎工			
		組立マンホール工			
		小型マンホールエ		2-289	
		円形マンホール工			
		現場打ち特殊マンホール工			
		部分的不等沈下		2-290	

【第13編 上水道編】

章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	番号
[第3章 施工]				
第3節 土工	3-3-6 埋戻工		埋戻工	
第5節 路面復旧工			路面復旧工	2-291
第6節 管布施工			管布施工	2-291
			異形管防護(コンクリート)工	
第7節 鋳鉄管工	3-7-3 鋳鉄管接合工		管の接合	2-292
第8節 鋼管工	3-8-7 水管橋		水管橋現場塗装工	2-292

【出来形管理資料(作成例)】

出来形管理総括表(完成検査用)	2-293
-----------------	-------

編 章 節 条 枝 番 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準	測定箇所摘要
Table A	Om た J こ 」 う

ź	編	章	節	条	枝番	工	種	測	三 項 目	規	格 値	測定基準	測	定箇所	摘要
j	通	2 土 工	3 河 川	2	2	掘削工 (面管理(の場合)			平均値	個々の 計測値	おいく「地上型レーサースキャデーを 用いた出来形管理要領 (土工編)	天端部の計測点法面部の計測点		
ń	編		• 海 岸					平場	標高較差	±50	±150	(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管	計測密度 平面積 1点/m2		
			・砂防土					法面 (小段 含む)	水平または 標高較差	±70	±160	理要領(土工編) (案)」、「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領(土 工編) (案)」、「TS(ノンプリズ ム方式)を用いた出来形管理要領(土	1		
			1H									工編)(案下 K-GNS を用いた、 「 RTK-GNS を開いた、 「 RTK-GNS を開いた、 「 RTK-GNS で RTK-T編)(案形では、 「 RTK-T編)、 「 RTK-TMM」	小殿	平場	

出来形管理基準及び規格値 単位:mm

編	章	節	条	枝番	エ	種	測	主項 目	規	各 値	測定基準	測	定酱	所	摘要
1 共通編	2 士 工	3河川・海岸	2		掘削工 (水中部) (面管理の				平均値	個々の 計測値	1. 3次元データによる出来形管理 において「音響測深機器を用いた出 来形管理要領(河川浚渫)				
							平場	標高較差	±50	±300	(案)」、「施工履歴データを用いた 出来形管理要領(河川浚渫工事編) (案)」に基づき出来形管理を面管				
		・砂防士					法面 (小段 含む)	水平または 標高較差	±70	±300	理で実施する場合、そのほか本基準 に規定する計測精度・計測密度を満 たす計測方法により出来形管理を実 施する場合に適用する。				
		土工									2. 個々の計測値の規格値には計測 精度として±100mmが含まれてい る。				
											3. 計測は平場面と法面の全面とし、すべての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。				
1 共通編	2 土 工	3河川・海岸・砂防土工	3	1	盛土工		基準高▽		100		施工延長20mにつき1箇所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	k w₁			
							幅	w ₁ , w ₂	-100		<u> </u>	W2 V	\$\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		
											基準高は各法肩で測定。 ただし、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。	Islinsii .			

編	章	節	条	枝番	工	種	測	三 項 目	規	各 値	測定基準	測	定箇所	摘要
1 共 通	2 土 工	3 河 川	3	2	盛土工 (面管理(の場合)			平均値	個々の 計測値	おいく「地上型レーサースキャデーを 用いた出来形管理要領 (土工編)	天端部の計測点法面部の計測点		
編		• 海 岸					天端	標高較差	-50	-150	(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管	計測密度 平面積 1点/m2		
		・砂防土					法面 4割< 勾配	標高較差	-50	-170	理要領(土工編) (案)」、「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領(土 工編)(案)」、「TS(ノンプリズ ム方式)を用いた出来形管理要領(土		1.11	
		工工					法面 4割配 (小段 含む)	標高較差	-60	-170	工編)(案)」、「地上移動体搭載型 レーザースキャナーを用いた出来形管 理要領(土工編)(案)」または「RT K-GNSSを用いた出来形管理要領 (土工編)(案)」に基づき出来形管		天端	
							勾配は、 長さ1 水平方向	、、ここでの 鉛直方向の に対する、 『の長さ X を そしたもの			理を面管理で実施する場合、その他本 基準に規定する計測精度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実 施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精	小段	4	
											度として±50mmが含まれている。 3. 計測は天端面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。			
											4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。			
											5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 土 工	3河川・海	4		盛土補強工 (補強土 (テール アルメ) 壁工法) (多数アンカー式	基 準 高 ▽ 厚 さ t 控 え 長 さ	-50 -50 設計値以上	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
		岸・砂防土工			補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土 工法)					
1 共通編	2 土工	3河川・海岸・砂防土工	ស		法面整形工(盛土部)	厚 さ t	※ −30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。	tt	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2 土	3 河	6		堤防天端工	t < 15cm	-25	幅は、施工延長20mにつき1箇所、	w	
共通編	工	川 ·				厚さ t t ≥15cm	-50	延長40m以下のものは1施工箇所に つき2箇所。	t	
и н		海				幅 w	-100	厚さは、施工延長80mにつき1箇 所、80m以下は2箇所、中央で測		
		岸・						定。		
		砂 防							\	
		土工								
1 共	2 土	4 道	2	1	掘削工	基準高 ▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇	2	
共通編	工	路土				法長 0	-200	所。	T>	
n/mm		工				幅 w	-100	基準高は道路中心線および端部で測 定。	~\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
								ただし、「TS等光波方式を用いた		
								出来形管理要領(土工編)(案)」 または「RTK-GNSSを用いた		
								出来形管理要領(土工編)(案)」 の規定により測点による管理を行う		
								場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
								な、		

編	章	節	条	枝番	工	種	測	三 項 目	規	各 値	測定基準	測	定箇所	摘要
1 共通	2 土 工	4 道路	2	2	掘削工 (面管理(の場合)			平均値	個々の 計測値		天端部の計測点法面部の計測点	7. h.	
編		土工					平場	標高較差	±50	±150	(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管	計測密度 平面積 1点/m2		
							法面 (小段 含む)	水平または 標高較差	±70	±160	理要領(土工編) (案)」、「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領(土 工編) (案)」、「TS(ノンプリズ ム方式)を用いた出来形管理要領(土			
							法面 (軟岩 I)(外 段含 む)	水平または 標高較差	±70	±330	工編)(案)」、「地上移動体搭載型 レーザースキャナーを用いた出来形管 理要領(土工編)(案)」または「RT K-GNSSを用いた出来形管理要領 (土工編)(案)」に基づき出来形管	TH		
											理を面管理で実施する場合、その他本 基準に規定する計測精度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実 施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精	小殿		
											度として±50mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面(小段を含		平場	
											む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。			
											4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。同様に、標高方向に± 5cm以内にある計測点は水平較差の評 価から除く。			
											5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
1 共	2 土	4 道	3	1	路体盛土工	基準高 ▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇	w ₁	
通	エ	路上	4		路床盛土工	法長 ℓ	-100	所。	, w ₂ ∇ ∇	
編		工				幅 \mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	-100	基準高は道路中心線および端部で測	2	
								定。	<i>[</i>	
									IBIIBIIBI	

編	章	節	条	枝番	工	種	測定	項目	規 相	各 値	測定基準	測	定酱所	摘要
1 共 通	2 土 工	4 道 路	3 4	2	路体盛土工 路床盛土工				平均値	個々の 計測値	おいく「地上型レーザースキャデーを 用いた出来形管理要領 (土工編)	天端部の計測点法面部の計測点	14.14.16°	
編		土工			(面管理	の場合)	天端	標高較差	±50	±150	(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管	計測密度 平面積 1点/m2		
							法面 (小段 含む)	標高較差	±80	±190	理要領(土工編) (案)」、「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領(土 工編)(案)」、「TS(ノンプリズ ム方式)を用いた出来形管理要領(土			
											工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	小殿	天端	
											2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。			
											3. 計測は天端面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。			
											4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。			
											5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	2 土 工	4道路土工	5		法面整形工 (盛土部)	厚さ t	※ -30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。	t / t	
1共通編	3無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d か ぶ り t	± φ ± φ かつ 最小かぶり 以上	$d=\frac{D}{n-1}$ D: n 本程度 e 大 e e 大 e e 大 e 大 e 大 e 大 e 大 e		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項	目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	4		矢板工[指定仮設・ 任意仮設は除く→ 「3.2.10仮設工参 照」〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (エンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 根 入 変 位 延 長	長	設計値以上 100 -50	基準高は施工延長20mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。	IBBI IBBI
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長	L	-50	1箇所/1施工箇所 ただし、「TS等光波方式を用いた 出来形管理要領(舗装工事編) (案)」の規定により管理を行う場 合は、延長の変化点で測定。	
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	6		小型標識工			設計値以上 -30 -30 設計値以上	1箇所/1基 基礎 1 基毎	H h

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測定基準	測定箇所摘	i要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防 止柵) (車止めポスト)		幅 w 高さ h 取付高 H	-30 -30 +30 -20	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。 1箇所/1施工箇所	H I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	礎	幅 w 高さ h 取付高 H	-30 -30 +30 -20	1 箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1 施工箇所 1 箇所/1 施工箇所	h H	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	1½ <u> </u>	幅 w 高さ h 延長 L 取付高 H	-30 -30 -100 +30 -20	1 箇所 / 1 基礎毎 1 箇所 / 1 施工箇所	H THE THE THE THE THE THE THE THE THE TH	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共通	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースに より測定。		
工事	施工	的工				幅 w	設計値以上			
,共通編		種								
3 土	2 —	3 共	10		道路附属物工	高 さ h	±30	1箇所/10本		
木工事共	般施工	通的工種			(視線誘導標) (距離標)			10本以下の場合は、2箇所測定。	\bigcap_{h}	
通編										
3 土	2	3 共	11		コンクリート面塗 装工	塗料使用量		塗装系ごとの塗装面積を算出・照査 して、各塗料の必要量を求め、塗付		
木工	般施	通的			4.4		「表ーⅡ.5.5各 装料の標準使用	作業の開始前に搬入量(充缶数) と、塗付作業終了時に使用量(空缶		
事共	エ	工種					の標準使用量以	数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。		
通編							上。	1ロットの大きさは500㎡とする。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	商要
3	2	3	12	1	プレテンション桁	桁長 L (m)	$\pm L/1,000$	桁全数について測定。		
土木	般	共通			製作工(購入工)	断面の外形寸法	±5	橋桁のそりは中央の値とする。	Windle	
工	施	的			(けた橋)	橋桁のそり δ1	±8	なお、JISマーク表示品を使用する		
事共	エ	工種				横方向の曲がりδ2	±10	場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表に替えることがで	侧面図	
诵		122						きる。	5	
編									平新図 L L	
3	2	3	12	2	プレテンション桁		±10	桁全数について測定。		
土木	般	共通			製作工(購入工)	I ←	… L ≦10m	橋桁のそりは中央の値とする。	断面図	
工	施	的			(スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm L/1,000$	なお、JISマーク表示品を使用する		
事共	工	工種					… L >10 m	場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表に替えることがで	ı L ı	
通編						断面の外形寸法	±5	きる。	侧面図	
柳田						橋桁のそりδ1	±8		δ_1	
						横方向の曲がりδ2	±10		平衡网	
									δ_2	
3	2	3	13	1	ポストテンション	.l= / [)	+10	桁全数について測定。		
土木	一般	共通			桁製作工	幅(上) w ₁	-5	横方向タワミの測定は、プレスト		
工	施	的				幅 (下) w ₂	±5	レッシング後に測定。	w1	
事共通	エ	工種				高 さ h	+ 10 -5	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中 央部の3箇所とする。		
編							$\ell < 15 \cdots \pm 10$	なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに	h	
						桁 長 0	$\ell \ge 15$	基づく試験成績表に替えることがで		
						支間長	$\cdots \pm (\ell-5)$	きる。		
							かつ-30mm以内		k —→ W2	
						横方向最大タワミ	0.8 l	ℓ:支間長(m)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	13		プレキャストセグ メント桁製作工 (購入工)	析 長 0 断面の外形寸法	_	桁全数について測定。桁断面寸法測 定箇所は、図面の寸法表示箇所で測 定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	14	2	プレキャストセグ メント主桁組立工	析 長 Q 支間長 横方向最大タワミ	$ \begin{array}{ccc} \ell & \geqq 15 \\ \cdots \pm & (\ell - 5) \end{array} $	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:支間長(m)		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	15		PCホロースラブ 製作工	基準高▽ 幅 w ₁ 、w ₂ 厚 さ t 桁 長 Q	± 20 $-5 \sim +30$ $-10 \sim +20$ $\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15$ $\cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 0:析長(m)	$\begin{array}{c c} & w_1 \\ \hline \\ t \\ \hline \\ w_2 \\ \end{array}$	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	至 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
3 土	2	3 共	16	1	PC箱桁製作工	基準	售 高 ▽	±20	桁全数について測定。	
十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	般	通				幅((上) w ₁	− 5∼+30	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央	W1
工	施	的工				幅((下) w ₂	− 5∼+30	部の3点、幅及び高さは1径間当たり	
事共	エ	工種				内 空	· 幅 w ₃	±5	両端と中央部の3箇所。	h ₁ w ₃
通編						高	さ h ₁	$-5\sim +10$		<u>h2</u>
補						内空高	iさ h ₂	$-5\sim +10$	※鉄筋の出来形管理基準について	├
						桁	長ℓ	ℓ <15…±10 ℓ ≥15 …± $(\ell-5)$ カンつ-30mm以内	は、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ℓ:桁長(m)	W2
3	2	3	16		PC押出し箱桁製	幅(」	L) w ₁	<u>-5∼+30</u>	桁全数について測定。	
土木	般	共通			作工	幅(下) w ₂	− 5∼+30	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中	W1
工	施	的				内 空	·幅w ₃	±5	央部の3箇所とする。	
事共	エ	工種				高	さ h ₁	$-5\sim +10$		
通		7132				内空	高さ h ₂	$-5\sim +10$		h_1 h_2 h_3
編						桁	長ℓ	ℓ <15…±10 ℓ ≥15 …± (ℓ -5) かつ-30mm以内	※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。0:桁長(m)	W_2
3 土	2	3 共	17		根固めブロック工	基準	層積	±100	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇	L ₁
木	般	通				高	 乱積	± t/2	所。	
工事	施工	的工				厚	さt	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	
共		種				幅w1	層積	-20		
通編						w 2	乱積	- t / 2	1施工箇所毎	t 1
						延長L ₁	層積	-50		L, / L,
						L_2	乱積	- t / 2		\(\frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \\ \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \\ \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \\ \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \\ \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \\ \frac{1}{1} + \frac{1} + \frac{1}{1}
										tは根固めブロックの高さ

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	18		沈床工	基 準 高 ▽ 幅 w 延 長 L	±150 ±300 -50	1組毎		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	19		捨石工	基 準 高 ▽ 幅 w 延 長 L	-100 -100 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	w	
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	22		階段工	幅 w 高 さ h 長 さ L 段 数	-30 -30 -30 ±0段	1回/1施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ表面の凹凸仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2 3 舗装面に対し 0~-2	両端及び中央部付近を測定。 高さについては車道端部及び中 央部の3点 表面の凹凸は長手方向に各3点計9点	仕上げ高さ 諸装面 据付け高さ	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガー ジョイント)	高さ 据付け高さ 橋軸方向名点誤差の相 対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部の高低さ 縦方向間隔 W1 横方向間高 W2 仕上げ高さ	±3 3 3 2 ±2 ±5 舗装面に対し 0~-2	高さについては車道端部、中央部橋軸方向に各3点計9点。 総方向及び横方向間隙は両端、中央部の3点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸方向)に3cmの直線定規で測って凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の3点	接触方向	
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	24	3	伸縮装置工(埋設型ジョイント)	表面の凹凸仕上げ高さ	3 舗装面に対し 0~+3	高さについては車道端部及び中央部付近の3点を測定。表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下。	織装面 仕上げ高さ	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石 積み)	基 準 高 ▽ 法 長 ℓ 延 長 L	±500 -200 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	26	2	多自然型護岸工(かごマット)	法 長 足 延 長 L	-100 -0.2 t -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	27		羽口工 (じゃかご)	法 長 Q 厚 さ t	-50 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	27	2	羽口工 (ふとんかご、か ご枠)	高 さ h 延 長 L ₁ , L ₂	-100 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	L ₁	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3プレキャストカルバートエ	28		プレキャストカル バート工 (プレキャスト ボックス工) (プレキャストパ イプ工)	基準高▽ ※幅 w ※高さh 延長L	±30 -50 -30 -50	施工延長20mにつき1箇所、施工延 長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 ※印は、現場打のある場合。 1施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項	目	規格	値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	29	1	側溝工 (プレキャストU 型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基準	高	∇	±30		施工延長20mにつき1箇所、施工延 長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(舗装工事編)(案)」の規 定による測点の管理方法を用いるこ とができる。	
///1113						延	長	L	-50		1箇所/1施工箇所	
											ただし、「TS等光波方式を用いた 出来形管理要領(舗装工事編) (案)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。	
3 土	2 —	3 共	29	2	側溝工	基 準	高	∇	±30		施工延長20mにつき1箇所、施工延	$t_1 W t_2$
木工	般施	通的			(場所打水路工)	厚さ	t ₁ , t	2	-20		長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。	
事	工	エ				幅		w	-30			
共通		種					h ₁ , h	_	-30		1 施工箇所毎	$egin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$
編						延	長	L	-50		1 /吨 工 画 /기 #	

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定項	目	規格値	測定基準	測	定箇所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共通	29	3	側溝工 (暗渠工)		基	準 高	∇		施工延長20mにつき1箇所、施工延 長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。			
工事共	施工	的工種					幅	w ₁ ,	\mathbf{w}_2	-50	「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ	<u> </u>	W ₁	
通編							深	さ	h	-30	とができる。			
							延	長	L	-50	1施工箇所毎 ただし、「TS等光波方式を用いた 出来形管理要領(舗装工事編) (案)」の規定により管理を行う場 合は、延長の変化点で測定。		$\begin{array}{c c} h \\ \hline \\ \hline \\ \hline \\ \end{array}$	

				4-1-	<u> </u>			<u> </u>		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	3 共	30		集水桝工	基準高▽	±30	1施工箇所毎	t 3 T	
木	般	通				※厚さ t ₁~ t ₅	-20	※は、現場打部分のある場合	TI	
工事	施工	的工				※幅 w ₁ , w ₂	-30		W ₁	
共通		種				※高さh ₁ , h ₂	-30		t 4 W2 V	
編									h_1 h_2 t_5	
3 土	2 —	3 共	31		現場塗装工	塗 膜 厚	膜厚平均値は、	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。		
木工	般施	通的					目標塗膜厚合計値の90%以上	1 ロットの入ささは、500mとする。 1 ロット当たりの測定数は25点と		
事共	工	工種					b. 測定値の最	し、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
通		俚					膜厚合計値の70	均値をての点の側を値とする。		
編							% 以上。 c. 測定値の分			
							布の標準偏差 は、目標塗膜厚			
							合計値の20%を			
							超えない。ただ し、測定値の平			
							均値が目標塗膜 厚合計値より大			
							きい場合はこの限りではない。			
							PAUCIAL O			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1	1	一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 W 厚さ t ₁ , t ₂ 延 長 L	設計値以上 -30 各構造物の規格 値による	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	t_2 t_1 w	
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工(護岸) (現場打)	基準高▽ 幅 w 高 さh 延 長 L	±30 -30 -30 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。		
3 土木工事共通編	2一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工(護岸) (プレキャスト)	基 準 高 ▽ 延 - 長 L	±30 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。		

編	章	節	条	枝 番	工 種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4		既製杭工 (既製コンクリー ト杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d	±50 設計値以上 D/4以内かつ 100以内 1/100以内	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ d D X Y W	
3 土木工事共通編	2一般施工	4 基礎工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメ ント杭)	基 準 高 ▽ 根	世50 設計値以上 100以内 1/100以内 設計値以上	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ d D y k k k	
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d が	±50 設計値以上 100以内 1/100以内 (設計径(公称 径)-30)以上	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $\frac{d}{D}$ $\frac{d}{$	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	4 基	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
木	般	礎				根 入 長	設計値以上		7	
工事	施工	エ				偏心量d	150以内			
共						傾 斜	1/50以内			
通編						基礎径 D	設計径(公称径)以上※	※ライナープレートの場合はその内径、補強 リングを必要とする場合は補強リングの内径 とし、モルタルライニングの場合はモルタル	D H	
								等の土留め構造の内径にて測定。	X X	
3 土	2	4 基	7		オープンケーソン 基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
木	般	礎			本 版工	ケーソンの長さ 0	-50	(は自打版 - クイここに例え。	F 3 K W 4 C	
工事	施工	工				ケーソンの幅 w	-50		ותו לותו	
共						ケーソンの高さ h	-100		t t t t t	
通編						ケーソンの壁厚 t	-20		4 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	
7,112						偏心量d	300以内			
									w 1 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
									H	
3	2	4	8		ニューマチック	++ >/#	1.100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につ	x	
土	_	基	0		ケーソン基礎工	基準高▽	±100	室序、幅、同さ、及さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
木工	般施	礎工				ケーソンの長さ ℓ	-50		wa ke	
事	工					ケーソンの幅 w	-50		ĬĦ ! H.	
共通						ケーソンの高さ h	-100		t t h	
編						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏心量d	300以内		d 📐	
									<u>~</u> ↓ .	
									H	
<u> </u>										

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	4 基礎工	9	ĺ	鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽ 根 入 長 偏 心 量 d	±100 設計値以上 300以内	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $\downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad$	
3 土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブ ロック工 (コンクリートブ ロック積) (コンクリートブ ロック張り)	基準高▽ 法長 ℓ 厚さ(ブロック積 張) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L	±50 (±20) -50 -50 -50 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を 測定。 ()書きは舗装面に接する基準値。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。	t ₁ t ₂ t ₁ t ₂ t ₁ t ₂	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	2	コンクリートブ ロック工 (連節ブロック張 り)	基準高 ▽ 法 長 0 延長 L ₁ , L ₂	±50 -100 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。	L ₂	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)工	3	3	コンクリートブ ロック工 (天端保護ブロック)	基 準 高 ▽ w w 延 長 L	±50 -100 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。	W 間詰かご W 連結ブロック	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5石・ブロック積(張)工	4		緑化ブロック工	基準高▽ 法長 ℓ 厚さ(ブロック) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L	±50 -50 -50 -50 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を 測定。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編)(案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。	t ₁ , t ₂ t ₁ t ₂ t ₁ t ₂	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5石・ブロック積(張)工	5		石積(張)工	基準高▽ 法長 ℓ 厚さ(石積・張) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L	±50 -50 -50 -50 -50	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を 測定。 「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領(護岸工編) (案)」の規定 による測点の管理方法を用いること ができる。	t ₁ t ₂	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値	を 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工) (粒調Fe含む)	基準高▽	+0 -40 -45 -50	-15	基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線および端部で測定。厚さは各車線80m毎に1箇所を掘り起こして関定。	

									規 棋	各 値			
刹	前	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 3	_ -	2 一 般	6 一 般	7	2	(下層路射	_ ′	基準高▽	±90	+40 -15	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
1	二二	施工	舗装			(面管理の	の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	+40 -15	工事編)(案)」、「地上移動体搭 載型レーザースキャナーを用いた出 来形管理要領(舗装工事編)(案)」		
· · · · · · · · · · · · · ·	直		I								または「「大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大		

							規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	6 —	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	基準高▽ 厚 さ	±20 -25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線		
木	般	般			粒度調整路盤工	/ /	-50	_	および端部で測定。厚さは各車		
工事共通編	施工	舗装工			(粒調Fe含む)				線80m毎に1箇所を掘り起こして 測定。		

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基	ŕ	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	7		ア (粒 (粒 (面 管 理 ()	盤工) 路盤工	厚さ高較差	-54	-8	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とデ地た案)領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下平の	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値mm 幅標/す 下差 較の値レ形、ャ装ン理づの測形 のが 員高m2る 層で 差目+一管「ナエプ要き他密管 規含 の値(3 の算 と標設	ザ理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計一要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動い案方装管にた施 はい 面す影 と。 価直かキ舗体た)式工理規すす 計る とる面 当 す下らず、舗体を)式工理規すす 計る とる面 当 す下らず、				

							規 棉				
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇 所の割とし、基準高は道路中心	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し	
土木	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	_		なければならないとともに、10個	
工	施	舗			セメント(石灰)安 定処理工	基準高▽	±20	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採	の測定値の平均値(X10)について	
事共	工	装工			足是生工				取もしくは掘り起こして測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の	
通編										場合は測定値の平均値は適用しない。	
										コア採取について	
										橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場	
										合は、他の方法によることが出来	
										る。	

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定	基準	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	7		ア (セ定 (セメ) で で で で で で で で で で で で で で で で で で	盤工) (石灰)安	厚さ高較差	-54	-8	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場お一事型形た用)施る方合 .度 .、測た .の .合て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、「い(ザ要丁出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 のが 員高配る。層で 差目十	管「ナエプ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚領動い、会議で進満実 にて 全出投 値る 評十さい 電が表式工理規すす 計る とる面 当 す下ら装搭出」)事を定計る 測。 。積 該 る層求				

						規格	各 値			
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測 定 基 準	測定箇所	摘要
2	6 —	7			厚さ	-15	-5	基準高、幅は延長20m毎に1箇 所の割とし、基準高は道路中心		
般施	般舗			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	_	線および端部で測定。厚さは、		
Ĭ	装工				基準高▽	±20				
	2 一般施	2 一般施工 法	2 一 般 施 新 工 装	2 6 7 7 一 H 般 施 舗 工 装	2 6 7 7 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) 施 舗 大 装	2 6 7 7 アスファルト舗装工 厚 さ (加熱アスファルト 安定処理工) 幅 批	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値(X) 2 - 6 - 0	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値(X) 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は測定値の平均 2 - 6 - 7 - 0 般 般 舗 工 装 7 アスファルト舗装工 厚 さ -15 -5 一 一 -50 -5 - 基准真又 +20 +20 -	章 版 表 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値(X) 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は測定値の平均 2	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 10個の測定値(X10) (X10) *面管理の場合は測定値の平均 測定基準 測定箇所 2 6 7 アスファルト舗装工の熱力 (加熱アスファルト安定処理工) 厚 さ -15 -5 基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線および端部で測定。厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアを採取して測定。 工 装 上準高 上半20 - 取して測定。

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基	·	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	7		ア (加熱の) ファ (加熱の) ア スコープ (加速) で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ファルト Ľ)	厚さ高較差	-36	-5	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測で度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とデ地た案)(領 S 来」合度りす 計土 設点1月 2 で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	上出しス((形に、・出る)則10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ャ装ン理づの測形 のが 員高元る 層で 差目+一管「ナエプ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設	ザ里也一事リ質出本度里 各ま 内を平 票出 し高計で要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動いた)式工理規すす 計る とる面 当 す下的か (動いた)式工理規すす 計る とる面 当 す下的な と。 価直かま (動いた)式工理規すす 計る と。積 該 る層求装搭出」)事を定計る 測。				

ń	編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規 相個々の測定値(X)	を 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	:	測 定	差基	準	測 定 箇 所 摘要
	3 土	2	6	7	9	アスファル	レト舗装工	厚き	-9	-3				n毎に1箇 は道路中心	アスファルト舗装工事に関するコアー採取個数について
-	木工	般施	般舗			(基層工)		幅	-25	_	線および 1,000 ㎡	端部で に 1 個	で測定。	厚さは、 でコアを採	判定 品質試験 厚さ 合計 抽出 密度 確認 合計
-	事共通	工	装工					基準高▽	±20	_	取して測	定。			~50 0 1 1 50~500 0 0 1 1
х́л	[A]														500~1,000 3 3 1 4 1,000~2,000 3 3 2 5 2,000~3,000 3 3 3 6 3,000~4,000 3 4 4 8 4,000~5,000 3 5 5 10 5,000~6,000 3 6 6 12 6,000~7,000 3 7 7 14 7,000~8,000 3 8 8 16 8,000~9,000 3 9 9 18 9,000~10,000 3 10 10 20 10,000~11,000 6 11 11 22 UN THE HERRY OF THE

									規 棋	各 値			
編	前二章	等 上	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3	: -	-	6 —	7	10	アスファル	レト舗装工	厚さあるい は標高較差	-20	-3	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
木工工	. 旅	包	般舗装			(基層工)					工事編)(案)」、「地上移動体搭 載型レーザースキャナーを用いた出		
事 共 通 編			装工			(面管理の	の場合)				取来形に、大型では、大型では、大型では、大型では、大型では、大型では、大型では、大型では		

								規 棋	各 値		
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所摘要
3 土	2	6	7	11	アスファバ	レト舗装工	厚さ	-7	-2	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	アスファルト舗装工事に関するコアー採取個数について
木工	般施	般舗			(表層工)		幅	-25	_	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採	判定 品質試験 厚さ 合計 加出 密度 確認 合計
事共通編	工	装工					平 坦 性	±20	3mプロフィ ルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ) 1.75mm以下	取して測定。 平坦性は、新設道路や2車線以上の幹線道路において、舗装新設工事(切削オーバーレイ含む)を行う場合に測定する。なお、住宅街の区画道路等で既設側溝等との擦り付けが多い場合は、省略することができる。	~50 0 0 1 1 1 50~500 0 0 1 1 1 50~500 0 0 0 1 1 1 500~1,000 3 3 1 4 1,000~2,000 3 3 2 5 2,000~3,000 3 3 3 3 6 3,000~4,000 3 4 4 8 4,000~5,000 3 5 5 10 5,000~6,000 3 6 6 12 6,000~7,000 3 7 7 14 7,000~8,000 3 8 8 16 8,000~9,000 3 9 9 18 9,000~10,000 3 10 10 20 10,000~11,000 6 11 11 22 以下抽出試験は、10,000㎡増える毎に3 個、密度及び厚さ確認は1,000㎡増える毎に3
											に1個追加する。 ・品質試験は、舗装面積が500㎡以上を対象とし、同一配合の重層アスファルトは、各層の合計面積を対象面積とする。・厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとしてが近しなければならない。ただし、ではのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。橋面舗装等において床版等に損傷を与えるできる。

								規格	 各 値			
編	章	節	条	金	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 ±	_	_	7	12	アスファ	ルト舗装工	厚さあるい は標高較差	-17	-2	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
木工事共通編	般施工	舗			(表層工)		平坦性		(σ) 2.4mm 以下 直読式(足 付き) (σ)	ナーを開いている。 一を開いている。 一を開いている。 一を開いている。 一ででは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土	2	6	8	1	半たわみ性舗装工	基準高▽	+0	_	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線		
木	般	般舗			(下層路盤工)	坐平向 ∨	-40		および端部で測定。厚さは各車 線80m毎に1箇所を掘り起こして		
工事	施工	装				厚さ	-45	-15	測定。		
共通		エ				幅	-50	_			
通編											

									規 棋	各 値			
級			節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 3 7	_ -	_ -	6 一 般	8	2	半たわみ付 (下層路標	盤工)	基準高▽	±90	+40 -15	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
]]	二 加	包含	舗装			(面管理の	の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	+40 -15	工事編) (案)」、「地上移動体搭 載型レーザースキャナーを用いた出 来形管理要領(舗装工事編)(案)」		
·	<u>f</u>										本来大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大		

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	6 —	8	3	半たわみ性舗装工	厚さ	-25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線		
木	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	_	および端部で測定。厚さは各車 線80m毎に1箇所を掘り起こして		
工事	施工	舗装			粒度調整路盤工	基準高▽	± 20	_	測定。		
共通編		エ									
編											

									規 棋	各 値									
稱	莆 青	至	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要
3 3 3 1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	二十二十五十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	一、実施に	6一般舗装工	∞	4	半 に 大 に と に に に に に に に に に に に に に	盤工) 络盤工	厚は標高較差	-54	-8	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次で用)一理「た案る測に適 々し 測で度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差と元が、で要下出)場構よ用 ので はのは以 は値 を直差と	上出)ス((形に、・出る)測10 計で点と 直の「高層均型来」キ舗ノ管基を計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理心の測形 のが 員高配る 層で 差目+	、後、ナミン型ぎら他密管・・現舎・負値(。 『の第二と標設が理地一事り領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計	に ・型上を編ズ(来基をを ・組みの ・大は、 ・たは、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・な、 ・					

							規 棋	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定簡	所	摘要
3 ±	2 —	6 —	8	5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	厚さ幅	-25 -50	-8 -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 厚さは、個々の測定の割とし、基準高は道路中心線 9個以上の割合で規格値はなどがある。	直を満足し	
木工事	般施工	般舗装			セメント(石灰)安 定処理工	基準高▽	±20	_	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 もしくは掘り起こして測定。)について	
尹共通編		五			人之是 <u>工</u>				もしくな品り起こして例だ。 し、厚さのデータ数が 場合は測定値の平均値	10個未満の	
が帰り									い。 コア採取について 橋面舗装等でコア採耳 版等に損傷を与える恐 合は、他の方法による	れのある場	

									規 棋	各 値							
á	前直	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定	基準	測	定簡	所	摘要
		2一般施工	6一般舗装工	8	6	半 (セ定 (セタル) では、	盤工) (石灰)安	厚さある較差	-54	-8	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場お一事型形た用)施る方合 .度 .、測た .の .合て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、「い(ザ要丁出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 のが 員高配る 層で 差目 できる できる しょうりょう (名) こうりょう (名) まる (る) しゃくしゃ (お) こうしゃ (は) こ	管「ナエプ要き也密管 現含 の直(の算 と票设理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さい動い案式工理規すす 計る とる面 当 すでにがは、がないでは、では、では、では、では、できば、できば、できば、できば、できば、できば、できば、できば、できば、できば				

							規 棋	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
3 土	2	6	8	7	半たわみ性舗装工	厚さ	-15	-5	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 厚さは、個々の測定値が10個に り割とし、基準高は道路中心線 9個以上の割合で規格値を満足し	
木工	般施	般舗			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅 基準高▽	-50 ±20		および端部で測定。厚さは、	
上事共通編	工	語装工 二				公子间 V			は、原とは、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方には、一方に	

									規 棋	各 値									
級	= 1	至 〔	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要
3 1 才 1 事	二十二季七百	一段也二	6一般舗装工	8		半たかなり (加定 面管 理 <i>a</i> で	ファルト L)	厚は標高較差	-36	-5	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とデ地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下平の	上出)ス((形に、・出る)測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理での測形 のが 員高㎡る 層で 差目+	、を「・トトミントー型ぎを他密管 ・規念・仮値(。 『の第二と標設が理地一事り領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計	に ・型上を編ズ(来基をを ・組みの ・大は、 ・たは、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・たな、 ・な、 ・					

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定簡所	摘要
3 土木工東	2 一般施工	6一般舗	8	9	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ 幅 基準高▽	-9 -25 ±20	-3 - -	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただ	
事共通編	エ	装工							取して測定。	満足しなければならない。たたし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
										橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来	

									規 棋	各 値							
ń	編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定力	基準	測	」 定 籄	 所	摘要
- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	L.	2 一般施工	6一般舗装工	8	10	半たお代(面管理の	ı	厚さ高較差	-20	-3	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場お一事型形た用)施る方合 .度 .、測た .の .合て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、「い(ザ要丁出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下	上出)ス((形に、・出る 測4m 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値が 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 のざ 員高記る 層で 差目 できている かいかい かいかい しょうりょう (利) できている でんしょう しんじょう (人) しょうしょう (人) しょうしょう (人) しょうしょう (人) しょうしょう (人)	管「ナエプ要き也密管 見ま の直(の算 と票设理地一事リ領出本度理 格れ 内を平 標出 し高計要 おいく (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X)	ト値 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	8	11	半たわみ性舗装工(表層工)	厚 さ 幅 平 坦 性 基準高▽	-7 -25 - ±20	3mプロフィ	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採 取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個末満し、厚さのデータ数が10個末間といる。コア採取について橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのあ出来る。維持工事においては出来る。維持工事におことが出来る。	

									規 棋	各 値			
ń	編	章	節	条	枝番	Ц	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
-	3 土	2	6	8	12	半たわみ(表層工)		厚さあるい は標高較差	-17	-2	1.3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	木工事共通編	般施工	般舗装工			(面管理の	の場合)	平坦性	-	(σ) 2.4mm 以下 直読式(足 付き) (σ)	ナーを用いて、 (無数 を) 」、 (東) 」、 (東)、 (東)、 (東)、 (東)、 (東)、 (東)、 (東)、 (東)	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測 定 基 準	測定箇所	摘要
3 土	2	6	9	1	排水性舗装工	基準高▽	+0	_	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線		
木	般	般			(下層路盤工)	坐平间 ∨	-40		および端部で測定。厚さは各車		
事	施工	舗装				厚さ	-45	-15	線80m毎に1箇所を掘り起こして 測定。		
共通		工				福	-50	1			
通編											

								規 棋	各 値			
編	前章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木	: -	- -	9	2	排水性舗装 (下層路盤	登工)	基準高▽	±90	+40 -15	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装		
工 事	施 . 工	舗装			(面管理の)場合)	厚さあるい は標高較差	±90	+40 -15	工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」		
- 	į	T								(大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方法では、)。 (大方法では、(大方法では、)。 (大方な、)。 (大方法では、)。 (大方な、)。		

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	6	9	3	排水性舗装工	厚さ	-25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線		
木工	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	ı	および端部で測定。厚さは各車		
上事	施工	舗装			粒度調整路盤工	基準高▽	±20	ı	線80m毎に1箇所を掘り起こして 測定。		
共通		エ									
編											

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基		測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	9		排水性舗 地	盤工) 各盤工	厚は標高較差	-54	-8	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とデ地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下平の	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ャ装ン理づの測形 のが 員高m2る 層で 差目+一管「ナエプ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設	ザ理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計一要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動い案方装管にた施 はい 面す影 と。 価直かゃ舗体た)式工理規すす 計る とる面 当 す下らす、議搭出」)事を定計る 測。 。積 該 る層求				

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		測定箇所	摘要
3 土	2 —	6 —	9	5	排水性舗装工 (上層路盤工)	厚き	-25 -50	-8 -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し	
木	般	般			セメント(石灰)安	幅 基準高▽	±20		および端部で測定。厚さは、	なければならないとともに、10個	
工事	施工	舗装			定処理工	33.7			1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 もしくは掘り起こして測定。	満足しなければならない。ただ	
共通		エ								し、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しな	
編											
										and the sea	
										コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床	
										版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来	
										る。	

									規 棋	各 値							
á	扁	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	,	定差	,	測	定 箇	所	摘要
	上 :	2 一般施工	6 一般舗装工	9	6	排(セ定 (盤工) 石灰)安	厚さ高較差	-54	-8	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場お一事型形た用)施る方合 .度 .、測た .の .合て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下	上出)ス((形に、・出る)測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 のが 員高配る 層で 差目十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	管するでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、				

							規 格	各 値								
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定	基	準	測	定 酱	 所	摘要
3 土	2	6	9		排水性舗装工	厚さ	-15	-5	基準高、幅は の割とし、基			毎に1箇所	厚さは、値 9個以上の割	国々の測 合で担ね	定値が10個に	
木	般	般			(加熱アスファルト	幅	-50	_	および端部で			国なけ			ともに、10個	
	施	舗			安定処理工)	基準高▽	± 20	_	1,000 m ² /C1/				の測定値の平			
事	工	装							して測定。				満足しなけれ	いばなら	ない。ただ	
共		エ													が10個未満の	
通													1.	重の平均	値は適用しな	
編													ν _°			
													版等に損傷を	きでコア と与える	採取により床 恐れのある場 ることが出来	

								規 棋	各 値							
編	前章	節	条	枝番		種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基	,	測	定酱	所	摘要
3 土木工事共通編		· 一 : 般 i 舗	9	8	排水性舗装了(加熱ア理)の場合では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	アルト	厚は標高較差	-36	-5	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密りて用)一理「た案る測に適 々し 測て度) 地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値 レ形、ャ装ン理づの測形 のが 員高m2る 層で 差目+一管「ナエプ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設	理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さに動い案式工理規すす 計る とる面 当 す下らまだ出」)事を定計る 測。 。積 該 る層求装搭出」)事を定計る				

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2 —	6 —	9	9	排水性舗装工 (基層工)	厚き	-9 -25	-3 -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し	
木工	般施	般 舗				基準高▽	±20	_	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採取	なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について	
事共	T	装工							して測定。	満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の	
通編										場合は測定値の平均値は適用しない。	
n/mm											
										コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床	
										版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来	
										る。	

								規 棋	各 値						
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X ₁₀) *面管理の場 合は測定値 の平均		基準	測	定酱,	听	摘要
3 土木工事共通編	般施工	6一般舗装工	9	10	排水性舗 () () () () () () () () () ()		厚さある較差	-20	-3	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のまるいを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次で用)一理「た案る測に適 々し 測で度) さ高 さ、較さ一上出)ス((形に、・出る 測4m 耐標/一次 は値 を直差との 高層均差 ではかけ は は は は は を 直差と で 下半 で ま ま は で で で で で で で で で で で で で で で で	レ形、ヤ装ン理づの側形の含 員高2る 層で 差目十一でで、ヤ装ン理づの側形の含 員高2。 層で 差標設で理地一事り領出本度理 格れ 内を平 標出 し高計では事に、本に動体た案式工理規すす はる の値(。 の算 と標設を編え、は来基をを 値て 側算面 高す てさ厚 はる 面も影 と。 価直か はる 正さり はる。 一直の はる 正の の の の の の の の の の の の の の の の の の の				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 模 個々の測定値 (X)	Marcon	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	11	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ 幅 平 坦 性 基準高▽	_	-2 -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線 および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について 満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の 場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等を与える恐れのある出来 版等に損傷を与える恐れのあ出来 合は、他の方法によることが出来 る。 維持工事においては、平坦性の 項目を省略することが出来る。	

									規 棋	各 値			
刹	ゴ 用 :	草	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
		2 —	6 —	9	12	排水性舗 (表層工)		厚さあるい は標高較差	-17	-2	1.3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
7.3. 事共遊紛	手上	般施工	般舗装工			(面管理		平坦性	_	(σ) 2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ)	ナーを用いて、 (無格性出) (無格性出) (素) 」、 (素) 」、 (表) 。 (表) 」、 (表) 、 (維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X)	Marcon	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	10		透水性舗装工(路盤工)	厚さ幅	t<15cm -30 t≥15cm -45 -50	-10 -15 -	基準高は片側延長20m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長80m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長20m毎に1箇所測定。		
世編 						基準高▽	±40	_	※歩道舗装に適用する		

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木	2 一般:	6 一般:	10	2	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	t<15cm +90 -70	+50 -10	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装 工事編) (案)」、「地上移動体搭		
工事共通	施工	舗装工			(面管理の場合)	△午□∨	t≧15cm ±90	+50 -15	載型レーザースキャナーを用いた出 来形管理要領(舗装工事編)(案)」 または「TS(ノンプリズム方式)		
編						厚さあるい	t<15cm +90 -70	+50 -10	を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を 実施する場合、その他本基準に規定 する計測精度・計測密度を満たす計		
						は標高較差	t≥15cm ±90	+50 -15	別方法により出来形管理を実施する 場合に適用する。		
									2. 個々の計測値の規格値には計測 精度として±10mmが含まれている。		
									3. 計測は設計幅員の内側全面と し、全ての点で標高値を算出する。 計測密度は1点/m2(平面投影面積 当たり)以上とする。		
									4. 厚さは、直下層の標高値と当該 層の標高値との差で算出する。		
									5. 厚さを標高較差として評価する 場合は、直下層の目標高さ+直下層 の標高較差平均値+設計厚さから求 まる高さとの差とする。		
									※歩道舗装に適用する。		

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	6	10	3	透水性舗装工	厚さ	-9	-3	基準高は片側延長20m毎に1箇所 の割で測定。		
木	般	般			(表層工)	幅	-25	_	厚さは、片側延長80m毎に1箇所		
工事共通編	施工	舗装工				基準高▽	±20	_	コアを採取して測定。 幅は、片側延長20m毎に1箇所測 定。		
通編									※歩道舗装に適用する		

								規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X ₁₀) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	10	4	透水性舗() () () () () () () () () () () () () (ı	厚は標高較差	-20	-3	1. 3、1 とる面 当 で に で に で に で に で に で に で に で に で に で	装搭出」)事を定計る 測 。積 該 る層	

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定箇所	摘罗	英
3 土	2 —	6 —	11	1	グースアスファル ト舗装工	厚さ	-15	-5	基準高、幅は延長20m毎に1箇 コア採取について 所の割とし、基準高は道路中心 橋面舗装等でコア採取によ		
木工	般施	般舗			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	ı	泉および端部で測定。厚さは、 版等に損傷を与える恐れのあ $000 $ ㎡に 1 個の割でコアを採取 合は、他の方法によることが)場 未	
事共	エ	装工				基準高▽	±20	_	して測定。		
通編									維持工事においては、平坦性 目を省略することが出来る。)項	

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基	, in the second second	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	般施工	6一般舗装工	11	2	グト(加定) 一は熱烈処 管 理理 (0)	ファルト E)	厚さある較差	-36	-5	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とデ地た案)領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下平の	上出)ス((形に、・出る 測10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値mm 幅標/す 下差 較の値レ形、ャ装ン理づの測形 のが 員高m2る 層で 差目+でで、ナエプ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設	ザ理地一事リ領出本度理 格ま 内を平 標出 し高計一要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動い案方装管にた施 はい 面す影 と。 価直かキ舗体た)式工理規すす 計る とる面 当 す下らず、舗体を)式工理規すす 計る とる面 当 す下らず、				

編	章	節	条	枝番	工 ;	種	測定項目	規 格個々の測定値(X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定:	基	準	測	定	箇 所	摘要
3 土	2	6	11	3	グースアスプ ト舗装工	ファル	厚さ	-9		基準高、幅/ 所の割とし、				コア採取に一		ア採取により床	
木	般	般					幅	-25		線および端語	部で測	定。	厚さは、	版等に損傷を	を与え	る恐れのある場	
工	施	舗			(基層工)		基準高▽	± 20	_	1000 m²に1	個の害	削で	コアを採取	合は、他のス	方法に	よることが出来	
事共通編	工	装工								して測定。				3.			

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番		種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基		測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	施工	6一般舗装工	11	4	グースアスフト舗装工 (基層工) (面管理の場	ŕ	厚さあるいと	-20	-3	にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場お一事型形た用)施る方合 .度 .、測た .の .合て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直地た案一領S来」合度りす 計土 設点1上 、と 標下	上出)ス((形に、・出る)測4m 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値が 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 の含 員高記る 層で 差目十二万要き他落管 対立フ要き他落管 対策	管理・ 理理・ 理理・ によりである。 には、 にい、 にい、 にい、 にい、 にい、 にい、 にい、 にい				

							規 棋	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定箇所	摘要
3 +	2	6	11	5	グースアスファル ト舗装工(表層工)	厚さ	-7	-2	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 コア採取について の割とし、基準高は道路中心線 橋面舗装等でコア採取により床	
木	般	般				幅	-25	_	および端部で測定。厚さは、版等に損傷を与える恐れのある場	
工事共通編	施工	舗装工				平 坦 性	-	3mプロフィ ルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式(足 付き)	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 して測定。 合は、他の方法によることが出来 る。 維持工事においては、平坦性の 項目を省略することが出来る。	
							±20	(σ) 1.75mm以下 —		

									規 棋	各 値			
希	证	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定簡所	摘要
-	3 E	2 —	6	11	6	グースア!		厚さあるい は標高較差	-17	-2	1.3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
- - - - : :	Ľ.	般施工	般舗装工			(表層工)		平 坦 性		(σ) 2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ)	ナーを用いて、 (無格性出) (無格性出) (素) 」、 (素) 」、 (表) 。 (表) 」、 (表) 、 (維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

							規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	1	コンクリート舗装 エ (下層路盤工)	基準高▽	+0	_	および端部で測定。厚さは各車	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個	
工	施	舗					-40		線80m毎に1箇所を掘り起こして	の測定値の平均値(X10)について	
事共	エ	装工				厚さ	-45	-15	測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の	
通編						幅	-50	_		場合は測定値の平均値は適用しない。	
										コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	

								規 棋	各 値			
稱	前	節	条	枝番	Ц	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 ± オ	: —	_	12	2	コンクリー (下層路	盤工)	基準高▽	±90	+40 -15	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
I I	施工	舗装			(面管理の	の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	+40 -15	工事編)(案)」、「地上移動体搭 載型レーザースキャナーを用いた出 来形管理要領(舗装工事編)(案)」		
+ 追	į	I								本の大学リース は は は は は は は な で で で で で で で で で で で で		

						規 格	各 値			
章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
2 —	6 —	12	3	コンクリート舗装 工	厚さ	-25	-8	の割とし、基準高は道路中心線		
般施	般 舗			(粒度調整路盤 工)	幅	-50	_	線80m毎に1箇所を掘り起こして	の測定値の平均値(X10)について	
エ	装工				基準高▽	±20	_	測定	満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の	
									い。	
									橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来	
	2 一般施	2 一 般 施 舗	2 6 12 一 一 般 般 施 舗	2 6 12 3 一 一 般 般 施 舗	2 6 12 3 コンクリート舗装工 ー ー (粒度調整路盤工)	2 6 12 3 コンクリート舗装 工 厚 さ (粒度調整路盤 工) 厚 さ 幅	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値(X) 2 - 6 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日 - 日	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値(X) 10個の測定値の平均(X10)*面管理の場合は測定値の平均 2 - 6 - 般般施 舗 12 3 コンクリート舗装工(粒度調整路盤工) 厚 さ -25 -8 -8	章 節 条 枝	章 節 条 核

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基		測	定箇	所	摘要
3 土木工事共通編	一般施工	6 一般舗装工	12	4	コンク と が を で で で で で で で で で で で で で	整路盤工)	厚さある較差	-55	-8	1にナ工載来まを編実す測場2精3し計当4層5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次で用)一理「た案る測に適 々し 測で度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 ので はのは以 は値 を直差とデ地た案) は値 を直差とデ地た案) は値 を直差と	上出 ス((形こ ・出る 則10 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値㎜ 幅標/す 下差 較の値レ形、ヤ装ン理づの測形 のが 員高23る 層で 差目+一管「ナー工プ要き他密管 規含 の値(。 の算 と標設	ザ理地一事リ頃出本度理 各ま 内を平 票出 し高計一要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動い案方装管にた施 はい 面す影 と。 価直かキ舗体た)」、工理規すす 計る とる面 当 す下的、				

							規 棋	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測	定箇所	摘要
3 土	2 —	6 —	12	5	コンクリート舗装 工	厚さ	-25	-8	の割とし、基準高は道路中心線 9個以上の害	個々の測定値が10個に 引合で規格値を満足し	
木工	般施	般舗			セメント(石灰・瀝青)安定処理工	幅	-50	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 の測定値の	らないとともに、10個 平均値(X10)について	
事共	工	装工				基準高▽	±20	_	し、厚さの	ればならない。ただデータ数が10個未満の	
編									い。 コア採取に 橋面舗装 版等に損傷	値の平均値は適用しなついて等でコア採取により床を与える恐れのある場方法によることが出来	

								規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X ₁₀) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	6	コ (灰理(ンセ・T面 クメ瀝)管 リン青 理	ト(石 安定処	厚は標高較差	-55	-8	1. 3次元 では、		

							規 格	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定箇所	摘要
3 土	2	6	12	7	コンクリート舗装工	厚さ	-9	-3	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 厚さは、個々の測定値が10個にの割とし、基準高は道路中心線 9個以上の割合で規格値を満足し	
木工事	般施工	般舗装			(アスファルト中 間層)	幅	-25	_	および端部で測定。厚さは、 なければならないとともに、10fl,000 ㎡に1個の割でコアを採取 の測定値の平均値(X10)についてして測定。 満足しなければならない。ただ	
共通		I				基準高▽	±20	_	し、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用した。	
編									い。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により 版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来 る。	<u>1</u>

								規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X ₁₀) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定簡所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	8	コ (間 (アルト中	厚は標高較差	-20	-3	1. 3次元 中型レーマース では、		

編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	規 相 個々の測定値 (X)	A 値 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	9	コンクリート エ (コンクリー		厚さ	-10	-3. 5		厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個	
工	施	舗			装版工)	ı Hin	幅	-25	_	に3箇所以上測定、幅は、延長	の測定値の平均値(X10)について	
事共通編	工	装工					平 坦 性	_	の硬化後3m プロフィル	20m毎に1箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。 基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線および端部で測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面接等を与える恐れのよるは、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
							目地段差	±2		隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。		
							基準高▽	± 20	_			

							規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	工、種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	10	コンクリート舗装コ (コンクリート舗 装版工) (面管理の場合)	厚は標高較差 単地段差	-22 - ±2	の平均 -3.5 コンクリートの硬化後3mプロフィルルーターによりの機械会(σ)2.4mm以力舗設の場合(σ)3mm以下	1. 3次元元年 (1 を 1 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を 2 を	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	11	コンクリート舗装 工 (転圧コンクリート	基準高▽	+0	_		厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個	
工	施	舗			版工)		-40		線80m毎に1箇所を掘り起こして	の測定値の平均値(X10)について	
事共	エ	装工			下層路盤工	厚さ	-45	-15	測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の	
通編						幅	-50	_		場合は測定値の平均値は適用しない。	
										コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来 る。	

								規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定簡所	摘要
3 ± 木	_	6 一 般	12		コンクリー (転圧コン		基準高▽	±90	+40 -15	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
工事	施工	舗装			版工) (下層路盤	监工)	厚さあるい は標高較差	±90	+40 -15	工事編)(案)」、「地上移動体搭 載型レーザースキャナーを用いた出 来形管理要領(舗装工事編)(案)」		
· 共通編		工			(面管理の	の場合)				本来では、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大		

							規 棋	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定簡所	摘要
3 土	2 —	6 —	12	13	コンクリート舗装 工	厚さ	-25	-8		厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し	
木工	般施	般舗			(転圧コンクリート 版工)	幅	-50	_	線80m毎に1箇所を掘り起こして	なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について	
事共	エ	装工			粒度調整路盤工	基準高▽	±20	_	測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の	
通編										場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について	
										橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合	
										は、他の方法によることが出来る。	

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X1o) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基		測	定箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12		コ (転工) に (クリート 隆路盤工)	厚さ高較差	-55	-8	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次で用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とといる。 でいた案一領S来」のきます。 はのは以 は値 を直差とといる。 はいはい はいはい はであるといる。 はいました。 ではのました。 ではではのはいいは、 は 標下平のでは、 は である。 では、 は 標下平のでは、 は である。 では、 は に、 ・ 出る 測に 計で点と 直の 高層な差	三十二、 $(((((((((((((((((((((((((((((((((((($	ザ里也一事リ質出本度里 各ま 内を平 票出 し高計で要上を編ズ(来基をを 値れ 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にて 全出投 値る 評+さキ(動いた)式工理規すす 計る とる面 当 す下的か (動いた)式工理規すす 計る とる面 当 す下のから (動いた)式工理規すす 計る とる 価直かま (動いた)式工理規すす 計る とる (動いた)式工理規模する 測。 る層求 を経出」)事を定計る 測。				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相個々の測定値(X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値	測定基準測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装 工 (転圧コンクリート 版工) セメント(石灰・瀝 青)安定処理工	厚 さ 幅 基準高▽	-25 -50 ±20	の平均 -8 - -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線はよび端部で測定。厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	時 足 し し し に に に に に に に に に に に に に

								規 核	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測	定基	準	測	定 籄	f 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12		コ (版 (灰理 (転工 セ・エ 面 アン 上) ン 大) で で で で で で で で で で で で で で で で で で	クリート ト (石 安定処	厚は標高較差	-55		1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次で用)一理「た案る測に適 々し 測で度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 ので はのは以 は値 を直差とが地た案一領S来」合度りす 計士 設点1上 、と 標下平のデ地た案一(形に、・出る 測り 計で点と 直の 高層均差	型来」や舗ノ管基を計来。 値加 幅標/ す 下差 較の値と標という。 を関する と標という。 では、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは、とは	が関している。 が関している。 が関している。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、				

							規 格	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準測定箇所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	17	コンクリート舗装 工 (転圧コンクリート	厚さ	-9	-3	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 厚さは、個々の測定値が10個に の割とし、基準高は道路中心線 9個以上の割合で規格値を満足し および端部で測定。厚さは、 なければならないとともに、10個	
工事	施工	舗装			版工)	幅	-25	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 の測定値の平均値(X10)について して測定。 満足しなければならない。ただ	
共通編		エ			アスファルト中間 層	基準高▽	±20	ı	し、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
									コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	

								規 棋	各 値							
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		定基		測	定箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	12		コ (版 ア層 (転工 ス 管 リン ア で	クリートレト中間	厚さ高較差	-20	-3	1にナ工載来まを編実す測場 2精 3し計当 4層 5場のま3いを編レ管はい(す計法に 個と 計全密り 厚標 厚は高高次て用)一理「た案る測に適 々し 測て度) さ高 さ、較さ元「い(ザ要T出)場精よ用 のて はのは以 は値 を直差とで地た案)領S来」合度りす 計土 設点」と 「と 標下平の	上出)ス((形に、・出る 測4m 計で点と 直の 高層均型来」キ舗ノ管基そ計来。 値が 幅標/す 下差 較の値レ形、ャ装ン理づの測形 のぎ 員高m2る 層で 差目+一管「ナエプ要き他密管 規ま の値(3 の算 と標設	ザ理地一事リ領出本度理 格記 内を平 標出 し高計一要上を編ズ(来基をを 値て 側算面 高す てさ厚ス領移用)ム舗形準満実 にい 全出投 値る 評+さキ(動い案方装管にた施 はる 面す影 と。 価直かキ舗体た)式工理規すす 計。 とる面 当 す下らず、諸体た)式工理規すす 計。 とる面 当 す下らず、				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値	A 値 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	19	コンクリート舗装 工 (転圧コンクリート	厚さ幅	-15 -35	-4. 5 -	厚さは各車線の中心付近で型枠 据付後各車線80m毎に水糸又はレ ベルにより1測線当たり横断方向	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個	
工事共通編	施工	舗装工			版工)	平 坦 性	-	転圧コンク リートの硬化 後、3mプロ フィルメロ ターにより (σ)3mm以 下	に3箇所以上測定、幅は、延長 20m毎に1箇所の割で測定。平坦 性は各車線毎に版縁から1mの線 上、全延長とする。 基準高は延長20m毎に1箇所の割 とし、基準高は道路中心線およ び端部で測定。	の測定値の平均値(X10)について 満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の 場合は測定値の平均値は適用しな い。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床	
						目地段差	±2		隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。	版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						基準高▽	±20	_		維持工事においては、平坦性の 項目を省略することが出来る。	

								規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一般	6 一般	12		コンクリート(転圧コンクリ	舗装工リート	厚さあるい は標高較差	-32	-4. 5	1. 3次元データによる出来形管理 において「地上型レーザースキャ ナーを用いた出来形管理要領(舗装		
小工事共通編		級舗 装工			版工) (面管理の場	} 合)	平 坦 性	_	転圧コンク リートの硬 化後、3mプ ロフィルメーターに より (σ)2.4mm以 下	工事編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
										2. 個々の計測値の規格値には計測 精度として±4mmが含まれている。		
										3. 計測は設計幅員の内側全面と し、全ての点で標高値を算出する。 計測密度は1点/m2(平面投影面積 当たり)以上とする。		
										4.厚さは、直下層の標高値と当該 層の標高値との差で算出する。		
										5. 厚さを標高較差として評価する 場合は、直下層の目標高さ+直下層 の標高較差平均値+設計厚さから求 まる高さとの差とする。		
							目地段差	±2		隣接する各目地に対して、道路 中心線及び端部で測定。		

							規 格	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土	2 —	6 —	13	1	薄層カラー舗装工	基準高▽	+0		基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し	
木工	般施	般舗			(下層路盤工)	左毕前∨	-40	_	および端部で測定。厚さは各車 線80m毎に1箇所を掘り起こして	なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について	
事共	エ	装工				厚さ	-45	-15	測定。	満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の	
通編						幅	-50	_		場合は測定値の平均値は適用しない。	
										コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場	
3 土	2 —	6 —	13	2	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	合は、他の方法によることが出来 る。	
木工	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	_	および端部で測定。厚さは各車 線80m毎に1箇所を掘り起こして		
事	施工	舗装			粒度調整路盤工	基準高▽	±20		測定。		
共通編		工									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均		萬要
3 土	2	6 —	13	3	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	-8	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 厚さは、個々の測定値が10個に の割とし、基準高は道路中心線 9個以上の割合で規格値を満足し	
木	般	般			(上層路盤工)	幅	-50	_	および端部で測定。厚さは、 なければならないとともに、10個	
工事	施 工	舗装			セメント(石灰)安 定処理工	基準高▽	± 20	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 の測定値の平均値(X10)について もしくは掘り起こして測定。 満足しなければならない。ただ	
共通編		工							し、厚さのデータ数が10個未満の 場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	
3 土	2	6	13	4	薄層カラー舗装工	厚さ	-15	-5	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	
木	般	般			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	_	および端部で測定。厚さは、	
工事	施 工	舗装			女足处理工)	基準高▽	±20	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 して測定。	
+共通編	<u>+</u>	工								
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工	厚さ	-9	-3	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線	
土木	般	般			(基層工)	幅	-25	_	および端部で測定。厚さは、	
工事	施 工	舗装				基準高▽	±20	_	1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 して測定。	
共通編		Ī								

							規 格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木 工	2 一般施	6一般舗	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	+0 -40	_	で測定。	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について	
事共通	工	競 装 工				厚さ	-45	-15	り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に 測定。	満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しな	
編						幅	-50	_	IRI AE o	い。 コア採取について	
3	0	С	14	2	ブロック舗装工				甘淮古	橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来	
土木	2 一 般	6 一 般	14	۷	(上層路盤工)	厚 さ 幅	-25 -50	-8 -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所 の割とし、基準高は道路中心線 および端部で測定。厚さは各車	る。	
工事	施工	舗装			(粒度調整路盤工)	基準高▽	±20	_	線80m毎に1箇所を掘り起こして 測定。		
共通編		工									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X)	を 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定処理工	厚 さ 幅 基準高▽	-25 -50 ±20	-8 - -	および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 もしくは掘り起こして測定。	厚さは、個々の測定値が10個に 9個以上の割合で規格値を満足し なければならないとともに、10個 の測定値の平均値(X10)について 満足しなければならない。ただ し、厚さのデータ数が10個未満の 場合は測定値の平均値は適用しな い。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	14		ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ 幅 基準高▽	-15 -50 ±20	-5 - -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線 の割とし、基準高は道路中心線 および端部で測定。厚さは、 1,000 ㎡に1個の割でコアを採取 して測定。	る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	14	5	ブロック舗装工(基層工)	厚 さ 幅 基準高▽	-9 -25 ±20	-3 - -	基準高、幅は延長20m毎に1箇所の割とし、基準高は道路中心線および端部で測定。厚さは、1,000 ㎡に1個の割でコアを採取して測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種)	定項目	規 相個々の測定値(X)	A 値 10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘	万要
3 土	2	6	15	1	路面切削工	厚	. ż	-7	-2	厚さは10m毎に現舗装高切削後の 基準高で算出する。	
木	般	般				悼	i W	-25	_	測定点は車道中心線、車道端及	
工事共通編	施工	舗装工								びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/ 施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変 えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によ ることが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	15		路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚 さ t のみ	(厚さt 標高較 差) i ₩	-17 (17) (面管理と して緩和) -25	-2 (2)	1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 3. 厚さ t または標高較差は、現舗装高切削後の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。	
3 土	2	6 —	16		舗装打換え工	路	幅 W	-3		路盤工舗装工各層毎、それぞれ の工種の基準に従うこと。	
木工	般施	般舗				盤工	延長L	- [w	
事	工	装					厚さ t	該当			
共通		エ				舗	幅 W	-1		⊢ L	
編						設工	延長L	E			
							厚さ t	該当	<u> </u>		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値 10個の測定値の平均 個々の測定値 (X10) (X) *面管理の場合は測定値の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土 木 エ	2 一般施	6一般舗	17	1	オーバーレイエ	厚さ t 幅 W	-9 -25	厚さは20m毎に現舗装高とオー	€. !	
上事共通編	施 工 ———————————————————————————————————					延長 L 平 坦 性	-50 3mプロフィ ルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下	型でその中心とする。 幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	t 十 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	

								規 棋	各 値			
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10) *面管理の場 合は測定値 の平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事	2一般施工	6一般舗装	17	2	オーバー(面管理の	·	厚さあるいは標高較差	-20	-3 3mプロフィ ルメーター	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザース		
#共通編 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #		茶工					平坦性		ルメーダー (σ) 2. 4mm 以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下	キャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」または		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土	2	7 地	2		路床安定処理工	基 準 高 ▽	±50	延長20m毎に1箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測	G.	
木工事	般施工	盤改良				施工厚さ t	-50	定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
井通	工	良工				幅 w		「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤	✓	
編						延 長 L	-50	改良工事編)(案)」による管理の 場合は、全体改良範囲図を用いて、 施工厚さt、天端幅w、天端延長Lを 確認(実測は不要)。	w	
								PERE (XIXIIG I X)		
3	2	7	3		置換工			施工延長20mにつき1箇所、延長40m		
土木	一般	- 地盤	3		「Fe石灰処理土を 含む)	基準高▽	± 50	以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	q,	
工事	施工	改良				置換厚さ t	-50	厚さは中心線および端部で測定。		
共通	1	Î				幅 w	-100		✓	
編						延 長 L	-50		w	
									t w	

編	章	節	条	枝番	工 種	重	測	定	項	目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	7 地	4	1	表層安定処理 (サンドマット		基	準	高	∇	特記仕	上様書に	明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。	Ø 3 A	
木工書	般施工	盤改					法		長	Q		-500			0 6	
事共通	工	良工					天	端	幅	w		-300		w. (L)は施工延長40mにつき1箇 所、80m以下のものは1施工箇所に	1	
編							天端	過延長	ŧ	L		-500		つき3箇所。 (L)はセンターライン及び表裏法肩	w.(L)	
														で行う。	1	
	_			_										West facility of the same of t		
3 土 木	2 一 般	7 地 盤	4	2	表層安定処理(サンドマット	海上)	基	準	高	∇	特記仕	比様書に	明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。	Ø 3 Đ	
十二事	施工	盈改良			(ICT施工の場	湯合)	法		長	Q		-500			0 6	
共通	1	I					天	端	幅	w		-300		「施工履歴データを用いた出来形管 理要領(表層安定処理・中層地盤改 良工事編) (案)」に記載の全体改	. w.(L)	
編							天端	過延長	ŧ	L		-500		良平面図を用いて天端幅w、天端延 長Lを確認(実測は不要)	2	
														200 Charles (2007)	1	
0	0	7	5		· 2 · 2 · 1	-								サフィ F 00 ファ o 大 1 体 記	44 Total	
3 土 木	2 一般	7 地 盤	Б		パイルネット	上	基	準	高	∇		±50		施工延長20mにつき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こし	q.	
二二事	施工	盗改良					厚		さ	t		-50		て測定。 杭については、当該杭の項目に準ず	w	
共通		Ĩ					幅			w		-100		る。	\(\frac{1}{2}\)	
編							延		長	L		-50				
															ППП	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	7 地	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長20mにつき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こし	٩. / .	
木工工	般施	盤改				幅 w	-100	て測定。		
事共通	工	良工				延 長 L	-50			
編									w	
3	2	7	7		バーチカルドレーンエ	位置・間隔 w	±100	100本に1箇所。	w	
土木	一般	地盤			(サンドドレーン工) (ペーパードレーン工)			100本以下は2箇所測定。1箇所に 4本測定。ただし、ペーパードレーン		
工事	般施工	改 良			(袋詰式サンドド レーン工)	杭 径 D	設計他以上	の杭径は対象外とする。	w I I w	
共通	1	Î			,	打込長さh	設計値以上	全本数	"	
編			8		締固め改良工 (サンドコンパク	サント゛ト゛レーン、袋詰式サント゛ト゛レーン、サンド		全本数 計器管理にかえることができる。	w	
					ションパイル工)	コンパクションパイルの砂投入量	_			
						VIN IX /V E			xe	
									h	
									※余長は、適用除外	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	7 地 盤	9	1	固結工 (粉体噴射攪拌工)	基準高 ▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。	w Ziit	
十二事	施工	盤改良			(高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工)	位置・間隔 w	D/4以内	1箇所に4本測定。	$\mathbf{w} \cap \mathbf{w} \cap \mathbf{w}$	
共通		I			(生石灰パイル工)	杭 径 D	設計値以上		<u>↓</u>	
編						深 度 0	設計値以上	全本数	√ w	
								L=Q1-Q2 Q1は改良体先端深度 Q2は改良端天端深度	C. L. G. L.	
3 土	2 -	7 地	9	2	固結工 (スラリー攪拌工)	基準高 ▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認	, #£D	
木工事共通編	般施工	盤改良工			「施工履歴データを 用いた出来形管理 要領(固結工(ス ラリー撹拌工) 編2000年200日 (2015年2月19日) (2015年2月19年2月2月2月) (2015年2月19日) (2015年2月2月2月2月2月2月2月2月19日) (2015年2月2月2月2月) (2015年2月2月2月) (2015年2月2月2月2月2月) (2015年2月2月2月2月2月2月2月2月2月2月2月2月2	位置	D/8以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位 置管理表により設計杭芯位置と施工 した杭芯位置との距離を確認 (掘起しによる実測確認は不要)		
利用					管理の場合	杭 径 D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確 認 (掘起しによる実測確認は不要)	C.L.	
						改良長L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設 結果表により確認 (残尺計測による確認は不要)		
									(2) (2) (3)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項	目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土	2	7 地	9	3	固結工 (中層混合処理)	基 準 高	∇		1,000m3~4,000m3につき1ヶ所、又は 施工延長40m(測点間隔25mの場合は	ÇL	
木工事	般施工	盤改良				施工厚さ	t	設計値以上	50m)につき1ヶ所。 1,000m3以下、又は施工延長40m (50m)以下のものは1施工箇所につき		
井通	<u></u>	良工				幅	w		2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を		
編						延長	L		出来形とする。 「施工履歴データを用いた出来形管理	! t	
									要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全	∀ W →	
									体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅 w、延長Lを確認(実測は不要)。		
3 土 木	2	10 仮	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭)	基準高	∇	±100	基準高は施工延長20mにつき1箇 所、延長40m以下のものは1施工箇	: \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
八工事	般施工	設 工			(鋼矢板)	根 入	長	設計値以上	所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	-remenen menen	
共通	上					変	位	100		li ii	
編											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一般	10 仮 設	5		土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さℓ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)	d	
工事共通編	施工	I				配置誤差d	100		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3 土木工事:	2 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張 り工)	法長り		施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
共通編						延 長 L1、L2	-50	1 施工箇所毎	L.	
3 土	2	10 仮	5	4	土留・仮締切工	基 準 高 ▽		施工延長20mにつき1箇所。 延長40m以下のものは1施工箇所に		
木工事	般施工	設工			(締切盛土)	天 端 幅 w	-100	つき2箇所。 (任意仮設は除く)	· * * * * * * * *	
事共通編	工					法 長 0	-100			
編									INITE	
3 土 木	2 一 ^{約几}	10 仮	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高 ▽		施工延長20mにつき1箇所。 延長40m以下のものは1施工箇所に		
工事	般施工	設 工						つき2箇所。 (任意仮設は除く)		
共通編	4									

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定 項 目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土	2	10 仮	9		地中連続壁工(壁式)	基注	準 高 ▽	±50	基準高は施工延長20mにつき1箇 所、延長40m以下のものは1施工箇所	<u> </u>	
木工事	般施工	設 工				連壁の	の長さ ℓ	-50	につき2箇所。 変位は施工延長20mにつき1箇所。	إصبا	
井通	上					変	位	300	延長20m以下のものは1施工箇所につ き2箇所。	▼	
編						壁(本 長 L	-50		L	
3	2	10	10		地中連続壁工(柱				基準高は施工延長20mにつき1箇		D: 杭径
土木	一般	仮設	10		列式)		準 高 ▽	±50	所、延長40m以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		D . 1761±
工事	施工	I I				連壁の	の長さ ℓ	-50	変位は施工延長20mにつき1箇所。延 長20m以下のものは1施工箇所につき	a Discourse In.	
共通編						変	位 d	D/4以内	2箇所。	T B B B T	
編						壁(本 長 L	-50			
										1 1 69 69 111	
3 土	2	12 工	1	1	鋳造費(金属支承工)		Lの直径差	+2	製品全数を測定。		
木工	般施	七場製				部 鋼 構		-ボスを基準			
事共	工	作 工				造 物		L位置のずれ 			
通編		共				中心距離	≦1000mm	1以下			
		通				ボ		-ボスを基準 L位置のずれ			
					次頁に続く	ル ト 孔	>1000mm	1.5以下			

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事	2一般施工	12 工場製	1		鋳造費 (金属支承工)	カー	孔 の 直 径 >100mm	+3 -1 +4 -2	製品全数を測定。 ※1)片面削り加工も含む。 ※2)ただし、ソールプレート接触面の 橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対				
事共通編	工	作工 共通				、ト用孔(鋳放し)	孔の中心距離	JIS B 0403 CT13	してはCT13を適用する。				
						センター	ボスの直径	+0 -1					
						ボス	ボスの高さ	+1 -0					
						角ブ	当の橋軸及び直 方向の長さ寸法	JIS B 0403 CT13					
						全移動	$\ell\!\leqq\!300\mathrm{mm}$	± 2					
						量	Q>300mm	± 0/100					
							上、下面加工仕 上げ	±3					
						組立	コ ン ク リ	±3					
						さ H	} H>300mm	(H/200+3)小 数点以下切り 捨て					
							鋳放し長さ寸法※ 1),※2) 鋳放し肉厚寸法	JIS B 0403 CT14 JIS B 0403					
						通	※ 1)	CT15					
						法	削り加工寸法	JIS B 0405 粗級					
							ガス切断寸法	JIS B 0417 B級					

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土	2	12 工	1	2	鋳造費(大型ゴム 支承工)	幅w長	W, L, D≦500	0~+5	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t)		
木工事	般施工	場製				たちし直	500 <w, d≦<br="" l,="">1500mm</w,>	0~+1%	の最大相対誤差	補強材	
工事共通	工	作工				區 径 D	1500 <w, d<="" l,="" td=""><td>0~+15</td><td></td><td>t L</td><td></td></w,>	0~+15		t L	
編		共通				厚	t≦20mm	±0.5		w ·	
		Ų				子さ t	20< t ≦160	±2.5%		☐¹	
							160< t	±4		D	
							平 面 度	1			
3 土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	1		仮設材製作工	部材	部材長 ℓ(m)	$\begin{array}{c} \pm 3 & \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 & \cdots \ell > \\ 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工	天外	J 口 高 さ h (m) 小周長 L (m)	± 2 ···h≤0.5 ± 3 ··· 0.5 < h≤1.0 ± 4 ··· 1.0 < h≤2.0 $\pm (10+L/10)$	図面の寸法表示箇所で測定。	h	

編	章	節	条	枝番	工	種	涯	1 定	項目	規格	値	測定	基 準	測定	箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3		桁製作工 (仮する (近する (シ の の の の が の り の り り る り る り る り る り る り る り る り る	合) ノーショ		フラン腹板高腹板間	w (m)	$\pm 3 \cdots$ 0.5 < w $\pm 4 \cdots$ 1.0 < w $\pm (3+w)/2$	$y \le 0.5$ $y \le 1.0$ $y \le 2.0$ $y \le 2.0$ $y \le 2.0$ $y \le 2.0$	主げた、主構 各支点及び各支間ロ 床組など 構造別に、5部材に た部材の中央付近る JISマーク表示品を は、製造工場の発行 く試験成績表に替え る。	.つき1個抜き取っ を測定。 使用する場合 庁するJISに基づ	上	h	
								ラ	げた及びト ス等の部材 腹板	h /2	250	主げた 各支点及び各支間ロ h:腹板高(mm) b:腹板又はリブの w:フランジ幅(m	の間隔 (mm)		b	
							部材	るりつい	ずた及びト ス等のフラ ジ鋼床版の ッキプレー	b / 1	150					
							// 精度		´ジの直角 (mm)	w / 2	200				<u>w</u> /2 <u>I</u> δ	
								村長 -	げた ラス、アーチ ご		$2 > 10$ $2 \le 10$	原則として仮組立る 材について、主要者	をしない状態の部 部材全数を測定。		£	
												鋼桁等	トラス・アーチ等		δ	
									の曲がり (mm)	0/1,0	000	_	主要部材全数 を測定。 Q:部材長(mm)		e.	
												道はm単位の数値で		- 1016-65		
									、「板の平 [はmm単位			/ジの直角度δ、圧	縮材の曲がりδ」	の規格値のh、	b、w、ℓに代入す	

編	章	節	条	枝番	工	種	浿)定	項目	規	格値	測定	基準	測定箇所	摘要
3 土	2	12 工	3		桁製作工 (仮組立物	全木も宝						鋼桁等	トラス・アーチ等	単径間の場合 多径間の場合 L1	
木工事	般施工	場製作			施する場合 (シミュレ ン仮組立植	合) ノーショ		全 長 支間長	L1 (m) L2 (m)		0+L1/10) 10+L2/10)	主げた、主構全数	を測定。		
共通編		工 共通			う場合)			主げた 中心間 B (m			… B≦2 +B/2) …B>2	各支点及び各支間	中央付近を測定。	E THE STATE OF THE	
		Ą						主構の h (m)組立高さ ı)	\pm (2	·· h≦5 .5+h/2) ··· h>5	-	両端部及び中 心部を測定	hII	
								主げた 通り δ	、主構の (mm)	25 100	…L≦100 … L>	最も外側の主げた 支点及び支間中央 L:測線上(m)	又は主構について の 1 点を測定。	ま を た	
							仮組立精度	主げた そり δ (mn	:、主構の n)	20 -5~ 40 -5~	20 <l≦< td=""><td>各主げたについて 10〜12m間隔を測 定。 L:主げたの 支 間長 (m)</td><td>各主構の各格点 を 測定。 L:主構の支間 長 (m)</td><td>L b</td><td></td></l≦<>	各主げたについて 10〜12m間隔を測 定。 L:主げたの 支 間長 (m)	各主構の各格点 を 測定。 L:主構の支間 長 (m)	L b	
									、主構の おける出 n)	設詞	計値±10	どちらか一方の主測定。	げた(主構)端を	# ± 17 ft	
								主げた 直度 δ	、主構の鉛 (mm)	3+	-h/1,000	各主桁の両端部を測 定。 h:主げたの高さ (mm)	支点及び支間中央 付近を測定。 h : 主構の高さ (mm)	δ <u>1</u> h	
								き間	巻手部のす δ2 (mm)	設	計値±5	主げた、主構の全流 定。 δ 1、 δ 2のうち大 設計値が5mm以下の ス側については設	きいもの)場合は、マイナ	δ ₁	
												る数値はm単位の数(A直度δ」の規格値の を表する。		直はmm単位の数値とする。	

編	章	節	条	枝番	工	種	浿	定	項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 共通	3		桁製作工 (仮組立札 施しないり			フラン腹板高	₩ (m)	$\pm 3 \cdots$		h 工工	
								板の平	間げた等の は材の腹板	h / 250	主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔 (mm)	b	
							部材	δ ラ (mm)の	げた等のフ ンジ鋼床版 デッキプ ート		w : フランジ幅 (mm)	7 . 8 7	
							精度		/ジの直角 δ (mm)	w/200		w/2 → δ	
								部材長 Q (m)	間げた等の 3材の腹板	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots & \ell \leq 0.5 \\ \pm 4 \cdots & \ell > 0.5 \end{array}$			
											値はm単位の数値である。 ンジの直角度δ」の規格値のh、b、	wに代入する数値はmm単位の数値とす	る。

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	一定 項 目	規格値	測定基準 測定箇所	摘要
3 土	2	12 工	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工	台	『材の水平度	10	全数を測定。	
木工事	般施工	場製			(仮組立時))	埙	是 長 L	±30	H	
事共通	工	作工				埙	長見	±10	H H	
編		共通				坊	星 幅 W	±30	W.W.W.	
		Ą)				埙	星 幅 w	±10	н н	
						肩	БВН	±10	www.ell	
						ベー	スプレートの高さ	±10		
						本	体の傾き	±H/500	_	
3 土木 工事	2一般施工	12 工場 製作	4		検査路製作工	部材	部材長 ℓ(m)	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots & \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。	
事共通編	<u> </u>	工 共通								
3 土 木 工	2 一般施	12 工場製	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w(m)	0~+30	製品全数を測定。 	
事共通編	工	作工 共通				仮組	組合せる伸縮装 置との高さの差 δ1(mm)	設計値 ±4	両端及び中央部付近を測定。	
							フィンガーの食 い違い	±2	(実測値) δ:	
							δ 2 (mm)			

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	〕定	項	目	規	格	値	測定基準	測定	箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	6		落橋防止装置製作工	部材	部材县	Ē Q	(m)	±3··· ±4···	Q Q	$2 \le 10$ $2 > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。			
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材土	ž Q	(m)	±3··· ±4···	Q Q	2 ≤ 10 2 > 10	図面の寸法表示箇所で測定。			
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工	8		アンカーフレーム製作工			5水平 1(mm)		b,	/5(軸心上全数測定。	* 一	b ↑ ↓ ↓ δ₁	
通編		共通				仮組立時		直 2(mm)		h,	/50	00		h ∫ ∰	δ_2	
							高さ	h (mm)		±5	5				

編	章	節	条	枝番	エ	種	浿)定	項目	規	格	値	測定基準 測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工 #	9		プレビー 作工	- ム用桁製		フラン腹板高	w (m)	±3 0. ±4 1.0	 5 <w 0<w 3+w/2</w </w 	≤ 1.0 ≤ 2.0	各支点及び各支間中央付近を測定。 h I型鋼げた	
л уна		共通					部材	フラン 度 δ (m	ジの直角 m)		w/20	0	各支点及び各支間中央付近を測定。	
								部材長	Q (m)		0 0		原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	
							仮組立時	主げた	のそりδ	-5~	~+5 ···] ~+10 ·20<]	L≦20 L≦40	各主げたについて10~12m間隔を測 定。 L	
3 土木工事共通	2一般施工	12 工場製作工	10		鋼製排水	《管製作工	部材	部材具	Ē ℓ(m)				図面の寸法表示箇所で測定。	
編		共通												

編	章	節	条	枝番	工	種	測定	望 月	規格値	測 定 基 準	測	定箇	所	摘要
	¹ 2 一般施工	12工場製作工 共通	11		工場塗装コ				a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の分の%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とす]间女

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共	2一般施工	13 橋梁架設			ン架設) (ケーブ	ン架設) ルクレー ルエレク	全 長 L1 (m) 支間長 L2 (m)		各けた毎に全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	全長 L ₁ L ₂ L ₂ L ₂	
通編		工			ション架 (架設桁 (送出し (トラン架 レーン架	架設) 架設) ラーク	通 りδ (mm)	± (10+2L/5)	L:主げた・主構の支間長(m)	t if the table to table to the table to	
						HX /	そ りδ (mm)	± (25+L/2)	主げた、主構を全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	L S	
							※主げた、主構の 中心間距離B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots B>2$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							※主げたの橋端に おける 出入差δ(mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主げた(主構)端を 測定。	きまげた	
							※主げた、主構の 鉛直度δ(mm)		各主げたの両端部を測定。h:主げた・主構の高さ(mm)	ô In	
							※現場継手部のすき間 δ1,δ2(mm)		主げた、主構を全継手数の $1/2$ を測定。 δ 1, δ 2のうち大きいもの。 設計値が 5 mm以下の場合は、すき間の許容範囲の下限値を 0 mmとする。	δ;	
									※は、仮組立検査を実施しない工事 に適用。		
							※規格値のL、Bに代 ただし、「主げた、			単位の数値とする。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
3 土 木	2 一般	13 橋梁			架設工(コンク リート橋) (クレーン架設)	全長	・支間	_	各桁毎に全数測定。		
工事共通	施工	架設工			(架設桁架設) 架設工支保工	桁の中	心間距離	_	一連毎の両端及び支間中央について 各上下間を測定。		
編					(固定) (移動) 架設桁架設	そ	Ŋ	_	主桁を全数測定。		
					(片持架設) (押出し架設)						
3 土 木	2 一般:	14 法 面	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工)	法	長ℓ	-200	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。		
工事共通	施工	工 共通			(筋芝工) (市松芝工) (植生シートエ)	延	長 L	-50	1 施工箇所毎		
通編		进			(植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)				ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「TS等光」と 「TS等光」と 「TS等光」と 「TS(プリ)を 出来形管理のは、 、「TS(プリ)を 、「TS(プリ)を 、「TS(プリ)を 、「RTK-GNSSを用いた」 、「RTK-GNSSを 、「全理のので 、「大工編) 、「会有のので 、「会有のので 、「会有のので 、「会力ので 、「会力ので 、「大調で 、「大調で 、「大調型と 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型型 、「大調型 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大 、「大		

編	章	節	条	枝番	エ	種	測定	項目	規格	値	測 定 基 準	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	2	2	植生工 (植生基 ² (客土吹作	材吹付工)	法	長0	-200)	施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ノンプリ)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「成正する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。				
							但し、吟 最小吹付	き t 付面に凹凸 厚は、設計 均厚は設計	厚の50%」	合の	施工面積200㎡につき1箇所、面積 200㎡以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 検査孔により測定。				
							延	長 L	-50		1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ノンプリ)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で居TK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上移型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。				

編	章	節	条	枝番	工	種	測定	項目	規	格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	3		吹付工(仮 (コンク) (モルタ <i>)</i>	リート)	法	長 ℓ		-50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ノンプリ)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動などができる。		
							但し、吹 最小吹付	き t 付面に凹凸 厚は、設計 均厚は設計	┃ ₁がある ├厚の50	0%以上	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下 は2箇所をせん孔により測定。		
							延	長 L		-50	1施工箇所毎ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ノンプリ)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事	2 一般施	14 法面工	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工	法長0	-100	施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。	L a J	曲線部 は設計 図書に よる
事共通編	エ	共通				幅 w	-30	枠延延長100mにつき1箇所、枠延延 長100m以下のものは1施工箇所につ き2箇所。	a h	
孙田						高 さ h	-30			
						枠中心間隔 a	±100			
						延 長 L	-50	1 施工箇所毎		
3	2	14	4	2	法枠工					
土木	一般	法面	1	2	(プレキャスト法 枠工)	法長 ℓ	-100	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。		
工事共	施工	工				延 長 L	-50	1 施工箇所毎		
事共通編		通								
3 土木工事	2 一般施	14 法 面 二	6		アンカー工	削孔深さ 0	設計値以上	全数(任意仮設は除く)	d V	
- 事 共 通	工 工	工共通				配置誤差 d	100		H 1	
編		更				せん孔方向 θ	±2.5度		x	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

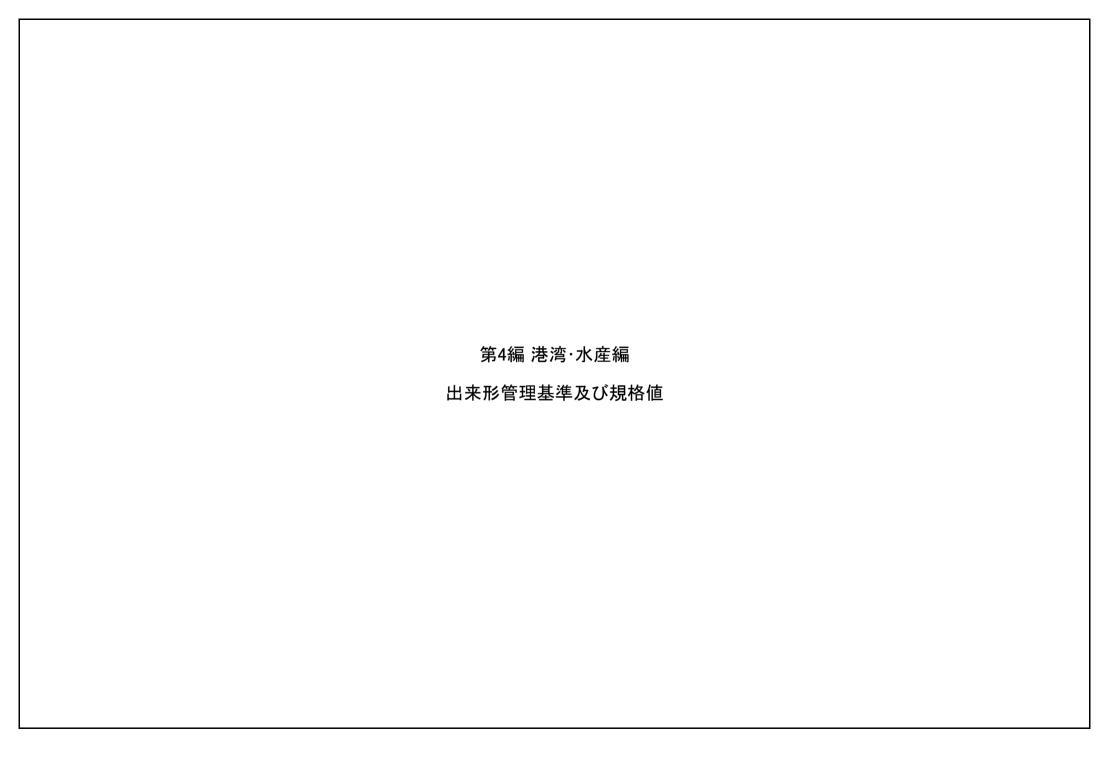
編	章	節	条	枝番	工 種	測	三 項		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事	2 一般施	15 擁壁工	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基準	自	∇	±50 (±20)	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。 但し、高さまたは法長の変化点は必		
共通	工	土井通				厚	5	t	-20	ず測定する。 () 書きは舗装面に接する基準 高。	h	
編						裏辺	. 厚	さ	-50		w ₁	
						幅	V	71 , W 2	-30		h Bh	
						高	さ :	ı	-50			
						延	£	ŧL	-50	1 施工箇所毎		
											t t t t	
3 土 木	2	15 擁	2		プレキャスト擁壁工	基準	上 古		±50 (±20)	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	1960 October 11	
木工事共通	般施工	壁工								()書きは舗装面に接する基準高。 1施工箇所毎		
井 通編		共通				延		È L	-50	1 //C [E] / / PP		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木 エ	2 一般施	15 擁壁工	3		補強土壁工 (補強土(テール	基準高▽	±50 (±20)	施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 但し、まさまたは法長の変化点は必		
工事共通	工	土			アルメ) 壁工法) (多数アンカー式 補強土工法)	高さ h	-50	ず測定する。 () 書きは舗装面に接する基準 高。	h	
編					(ジオテキスタイ ルを用いた補強土 工法)	鉛 直 度 △	±0.03hかつ ±300以内		<u> </u>	
						控え長さ	設計値以上		<u> </u>	
						延 長 L	-50	1 施工箇所毎	h	
3 土 木 エ	2 一般	15 擁 壁	4		井桁ブロックエ	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。		
工事共通	施工	工 共通				法 長 0	-50			
編		~				厚さ t 1, t 2, t 3	-50		L:	
						延 長 L1, L2	-50	1施工箇所毎	1/2 ts	
									t ₁ t ₂ t ₃ t ≥ 3 m t ₃ t ≥ 3 m	

編	章	節	条	枝番	工	種	浿)定	項目	規	格値	測 定 基 準	測	定箇所	摘要
3 土 木	2 一般	16 浚渫	3	1	浚渫船運転 (ポンプ液					上限	下限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。			
工事	施工	工						走	200ps	+200	-800	また、斜面は法尻、法肩とし必要に 応じ中間点も加える。ただし、各測			
共通編		共通						電気船-	500ps	+200	-1000	完値の巫均値の設計其淮高以下であ			
形冊							基準	刈口	1000ps	+200	-1200		<u></u>		
							準高▽	ディ	250ps	+200	-800				
							·	イーゼル	420ps 600ps	+200	-1000		Ĺ		
								船	1350ps	+200	-1200				
									幅	-	200				
								延	長	-	200				
3 土	2	16 浚	3	2	浚渫船運転 (グラブ液		差	生 準	高▽	上限	+200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。	\ \ \ \ \	,	
木工工	般施	渫工							幅	-	200	横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に	=		
事共通	工	共通					:	延	長	-	200	応じ中間点も加える。ただし、各測 定値の平均値の設計基準高以下であ ること。			
編		į													

編	章	節	条	枝番	エ	種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準 測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	16 浚渫工 共通	3	3		トウ浚渫船		標高	較差		平均(0以)	^造 計	100以 下	1. 3次元データによる出来形管理において「音響測深機器を用いた出来形管理要領(河川浚渫) (案)」、「施工履歴が一分を用いた出来形管理要領(河川浚渫) (案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する場合・計測密度を実施する計別情の出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±100mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	

編	章	節	条	枝番	エ	種	測	匀	È	項	目	規	見す	各値		測定基準	測	Ţ	定 籄	i j	所		摘要
3 土 木 =	2 一般	18 床版	2		床版工		基	1	售	高	∇		±	20	1	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、						コン ト構	新設の クリー 造物
工事共通	施工	エ					幅	Î		,	w		0~	+30]	厚さは型枠設置時におおむね10㎡に 1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって						下部び重	梁上・ 工 ま ま ま ま き る 内
編							厚	Ī	٥	Ž	t		-10~	~+20		代える。)						空断が以ボッ	面積25 上の クスカ
							鉄		のカ	ぶい	ŋ	部	殳計 信	直以上	ž	1径間当たり3断面(両端及び中央) 測定。1断面の測定箇所は断面変化 毎1箇所測定する。						のプスト	場製作 レキャ 製品は
							鉄角	筋の)有	効高	うさ		±	10								にお象外	の工種 いて対)) の の配筋
							金	失負	筋 『	間隔	召符		±	20	1	1径間当たり3箇所(両端及び中央) 測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は 全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形						状況がなる。では、	及びか につい 、「非 試験に
							交	功高		がマ	の有		±	10		主鉄、福和區內分間の動用を測定。 状毎に2mの範囲を測定。						より物状ぶり	コトの及別を 大配び定併 は併せ



1. 共通工種

1-1 圧密・排水工

港:港湾工事共通仕様書 漁:漁港漁場関係工事共通仕様書 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.サンドドレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀等により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1ст	管理図に測定結果を記 入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作 動状況が確認されていれ ば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表 を作成して提出	天端高 +規定しない 0 先端深度 0 -規定しない	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 -;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	全数	$0.1\mathrm{m^3}$	打込記録紙に砂の圧入 量を記入し提出		
2.敷砂均し	延長	スチールテープ、間縄、 光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提 出	+規定しない 0	港漁様式·出来形1-1-2 参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、 法尻、天端幅及び法面勾 配を記入し提出	天端高±30cm 天端幅、 法面勾配は特による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	_		
3.載荷土砂	延長	スチールテープ、間縄等 により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提 出	+規定しない 0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、法肩、 法尻、天端幅及び法面勾 配を記入し提出	天端高±50cm 天端幅、 法面勾配は特による。	

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3.載荷土砂	天端高 天端幅 法面勾配	水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4.ペーパードレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀により測定	移動毎及び監督職員の 指示による。	1 ст	管理図に測定結果を記 入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作 動状況が確認されていれ ば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	を作成して提出	天端高 +規定しない 0 先端深度 0 -規定しない	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 -;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙に打込長を 記入し提出		
5.グラベルマット	延長	スチールテープ、間縄、 光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提 出	+規定しない 0	港漁様式·出来形1-1-2 参照
	天端高 天端幅 法面勾配	プ、レベル、光波測距儀 等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、 法尻、天端幅及び法面勾 配を記入し提出		
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
6.グラベルドレーン	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀により測定	移動毎及び監督職員の 指示による。	1cm	管理図に測定結果を記 入し提出		自動位置決め装置の作 動状況が確認されていれ ば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表 を作成して提出	+規定しない 0 先端深度	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 -;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。
	砕石の投入量	打込記録の確認	全数	$0.1\mathrm{m}^3$	打込記録紙に砕石の投 入量を記入し提出		

1-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.ロッドコンパクション		自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀等により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出		自動位置決め装置を使 用している場合、その作 動状況が確認されていれ ば不要
	充填材の投入量			1.0 m³	測定記録等の提出		
	天端高	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録の提出	天端高 +規定しない 0	
	先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録の提出	先端深度 0 一規定しない	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 -;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
2.サンドコンパクションパイル	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀等により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 ст	管理図に測定結果を記 入し提出	±10cm	港漁様式・出来型1-2-2 参照。自動位置決め装置 の作動状況が確認されて いれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない 0 先端深度 0 -規定しない	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 一;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	$0.1\mathrm{m}^3$	打込記録紙に砂の圧入 量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又は レッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特によ る。	10cm	盛上り量の平面図を作成 し提出		
3.盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又は レッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特によ る。	10cm	撤去量の平面図を作成し 提出		
4.敷砂均し							1-1-2 敷砂均しを適用する。

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.深層混合処理杭	位置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距 儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は特による。	1cm	管理図に測定結果を記 入し提出	トランシット及び光波測定 距儀により測定する場合 は特による。	港漁様式・出来形1-3-1 参照。自動位置決め装置 の作動状況が確認されて いれば不要
	鉛直度 接合		改良杭全数 深度方向に 2~5m程度毎に測定(引 抜きと貫入時)	1分又は1cm	改良杭先端部の軌跡図 を作成し提出	特による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	1cm	打込記録紙又は打込記録データに天端高、先端深度を記入し管理表を提出	+規定しない	+;設計値より浅い(高い) ことをいう。 -;設計値より深い(低い) ことをいう。 ()は陸上。
	固化材吐出量	流量計等により固化材の m当りの吐出量を確認	改良杭全数	10又は1t	打込記録紙又は打込記録データに固化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	10cm	盛上り量の図面を作成し 提出		
2.敷砂均し							1-1-2 敷砂均しを適用する。
3.事前混合処理	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提 出	+規定しない 0	
	天端高、天端幅	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、天端幅 を記入し提出	特による。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定		10cm			

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
4.表層固化処理		スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない 0	
		スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定			管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	特による。	

1-4 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇 所毎並びに20mに1箇所 以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出		様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維 系マット、ゴムマット、合成 樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により 測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスフアルト マット、繊維系マット、ゴム マット)30cm以上(合成樹 脂系マット)	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

1-5 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.砂•石材中詰		レベル、スチールテープ 等によりケーソン天端面 からの下りを測定		1cm		陸上±5cm 水中±10cm	様式・出来形1-5-1参照
2.コンクリート中詰 3.プレパックドコンクリート 中詰	天端高	レベル、スチールテープ 等によりケーソン天端面 からの下りを測定	1室につき1箇所 (中心)	1cm		陸上±3cm 水中±5cm	

1-6 蓋コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.蓋コンクリート		レベル、スチールテープ 等により測定	1室につき1箇所 (中心)	1cm		陸上±3cm 水中±5cm	様式·出来形1-6-1参照

1-7 蓋ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅+2cm,-1cm 高さ+2cm,-1cm 長さ+2cm,-1cm 壁厚±1cm	
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
2.蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	レベル、スチールテープ 等により測定	1室につき1箇所	1cm	管理表を作成し提出		

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.先行掘削	位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全数	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	掘削長掘削深度	レベル等により測定	全数	10cm	測定表を作成し提出	特による。	+:設計値より浅いことを いう -:設計値より深いことを いう
	掘削径	スチールテープ等により 測定(水中の場合はケー シング径等により確認)	全数(水中の場合は適宜)	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
2.鋼矢板							
イ) 鋼矢板	打込記録	港 <u>漁</u> 第1編5-3-13-2-(10)	40枚に1枚		打込記録を提出		漁様式•出来形1-8-2参 照
	矢板壁延長	スチールテープ等により 測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 0	
	矢板法線に対する出入	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全部数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	-	施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未 満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)			 観察結果を報告		
口)鋼管矢板	打込記録	港 <u>漁</u> 第1編5-3-13-2-(10)	20本に1本		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により 測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	特による。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
口)鋼管矢板	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	打込完了時、10本に1本 及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
		トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、全数確認後 10本に1本及び変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未 満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観測(水中部は潜水士)	全数		観測結果を報告		

管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
打込記録	港漁第1編5-3-14-2-(10)	40枚に1枚		打込記録を提出		港漁様式・出来形1-8-2 参照
矢板壁延長	スチールテープ等により 測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅	
矢板法線に対する出入	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未 満 10/1000以下	
矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全数		観察結果を報告		
打込記録	港漁第1編5-3-14-3-(8)	20本に1本		打込記録を提出		 港漁様式・出来形1-10-2 参照
杭頭中心位置		打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
杭の傾斜	トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°以下 斜杭3°以下	
	打込記録 矢板壁延長 矢板法線に対する出入 矢板法線に対する傾斜 矢板法線方向の傾斜 矢板天端高 矢板米手部の離脱 打込記録 杭頭中心位置 杭天端高	打込記録 港漁第1編5-3-14-2-(10)	打込記録 港漁第1編5-3-14-2-(10) 40枚に1枚 矢板壁延長 スチールテープ等により 測定(天端付近) 施工中適宜 打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点 及び計画法線の変化点 とり測定 矢板法線に対する傾斜 失板法線に対する傾斜 たより測定 トランシット、光波測距 儀、アげ振り、傾斜計等 により測定 打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点 施工中適宜 打込完了時(両端部) 矢板法線方向の傾斜 施工中適宜 打込完了時(両端部) 矢板乗部の離脱 観察(水中部は潜水土) 全数 打込記録 港漁第1編5-3-14-3-(8) 20本に1本 抗頭中心位置 成、スチールテープ 抗天端高 村び記号で時、全数 抗の傾斜 レベルにより測定 、アげ振り、傾斜計等 打込完了時、全数 打込完了時、全数 打込完了時、全数 下げ振り、傾斜計等	打込記録 港漁第1編5-3-14-2-(10) 40枚に1枚	一方	打込記録 港通第1編5-3-14-2-(10) 40枚に1枚

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3. プレキャストコンクリー ト控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	特による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所	1cm	管理表を作成し提出		
4. 場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は特による。
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	1
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
5.腹起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端(継手 年)全数	1cm	管理表を作成し提出		港漁様式·出来形1-9-5 参照
	継手位置	観察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付	観察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	矢板と腹起しとの密着	観察	タイロッド毎、全数		観察結果を報告		
6.タイ材							

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
イ)タイロッド取付 取付け高さ及び水	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		港漁様式・出来形1-9-6 参照 腹起しに取り付ける場合 は不要
	矢板法線に対する取付 角度及び取付間隔	スチールテープ等により 測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観察	全数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き 出していること。	
	ターンバックルのねじ込 み長さ	観察	全数	1cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンク リートへの埋込み	観察	全数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適宜	1cm	管理表を作成し提出		
ロ)タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		腹起しに取り付ける場合 は不要
	矢板法線に対する取付 角度及び取付間隔	スチールテープ等により 測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観察	全数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き 出していること。	
	定着具端部栓の取付け	観察	全数		観察結果を報告		
	トランペットシースの取付	観察	全数		観察結果を報告		

1-10 鋼杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.先行掘削							1-8-1先行掘削を適用す る。
2. 鋼杭	打込記録	港 <u>漁</u> 第1編5-3-15-2-(9)	20本に1本		打込記録を提出		港漁様式·出来形1-10-2 参照
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
		トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、全数	1°		直杭2°以下 斜杭3°以下	

1-11 コンクリート杭エ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート杭	打込記録		支持杭は全数、支持杭以 外は20本に1本		JIS A 7201付表5打込み 工法記録を作成し提出		
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距 儀、スチールテープ等に より測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	10㎝以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出	$\pm 5 \mathrm{cm}$	
		トランシット、光波測距 儀、下げ振り、傾斜計等 により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭2°以下 斜杭3°以下	

1-12 防食工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.電気防食	取付位置	目視(承諾された図面より確認)潜水士による。	取付完了後、全数	1cm	測定表を作成し提出	±20cm ※水深の変状等 により図面通りに取付が 困難な場合には別途協 議とする。	様式・出来形1-12-1参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取 付箇所毎	1mV	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準;- 770mV 海水塩化銀基準;- 780rnV 又は飽和硫酸銅電極基 準;-850mV	
2.FRPモルタル被覆	取付高さ (被覆範囲)	レベルにより測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全数 矢板;1打設3箇所以上	特による。	測定表を作成し提出	特による。	測定密度における矢板の 1打設とは、コンクリートモ ルタルの配合1回当たり の打設を示す。
3.ペトロラタム被覆	取付高さ (被覆範囲)	レベルにより測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ(被覆範囲の確認)鋼管杭;全数 矢板;監督職員の指示による	特による。	測定表を作成し提出	特による。	
4.コンクリート被覆	高さ (被覆範囲)	レベルにより測定	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全数 矢板;1打設3箇所以上	特による。	測定表を作成し提出	特による。	測定密度における矢板の 1打設とは、コンクリートモ ルタルの配合1回当たり の打設を示す。
5.防食塗装	高さ (被覆範囲)	レベルにより測定	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭;全数 矢板;50㎡に1箇所以上	特による。	測定表を作成し提出	特による。	

1-13 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 下層路盤 高	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部 の3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±4cm	港漁様式·出来形1-13-1 参照
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000㎡に1箇所、 道路舗装は特による、	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
2.上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000㎡に1箇所、 道路舗装は特による、	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
3.コンクリート舗装版	厚さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部 の3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -1cm	コンクリート版の厚さ、そ の他を確認するため、監 督職員が必要と認めたと きは、コアを採取する。
幅	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3.コンクリート舗装版	平坦性	3mプロフィルメータにより 測定	各レーン各全延長		記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗装の場合2mm以 下 人力舗装の場合3mm以 下	

1-14 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部 の3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000㎡に1箇所、 道路舗装は特による、	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
	幅		舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
2.上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000㎡に1箇所、 道路舗装は特による、	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -3cm	
	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3.基層	厚さ	抜き取りコアをスチール テープ等で測定	1,000㎡に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -1.2cm	港漁様式・出来高1-14-3 参照
	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
4. 表層	厚さ	抜き取りコアをスチール テープ等で測定	1,000㎡に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -9mm	港漁様式・出来高1-14-3 参照
	幅	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測 距儀等により測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	平坦性	3mプロフィルメーターにより測定	各レーン各全延長	1mm	記録紙及び測定表を作 成し提出	2.4mm以下	•

1-15 植生工 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.張芝 2.筋芝	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅(面積)	スチールテープ等により 測定	施工完了後	10cm (0.1 m²)	管理表を作成し提出	+規定しない 0	
	植生状況	観察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
3. 播種 4. 種子吹付	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提 出		
	長さ、幅(面積	スチールテープ等により 測定	施工完了後	10cm (0.1 m²)	管理表を作成し提出	+規定しない 0	
	植生状況	特による。	特による。		特による。	特による。	
	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提 出		
	樹高、枝張り幅、幹周り	スチールテープ等により 測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅10cm 幹周り1cm	管理表を作成し提出	+規定しない 0	
	植え付け状況	観察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

2. 土捨工

3. 海上地盤改良工

3-1 床堀工

特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
2.グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘		音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特による。	10ст	平面図に実測値を記入し提出		断面図は監督職員が指 示したとき作成し提出
5. バックホウ床掘		音響測深機、レッド又は レベル等により測定	特による。	10ст		外側2m(法面に直角)内 側30cm(法面に直角)又 は特による。	

3-2 置換工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.置換材均し	延長	スチールテープ、間縄、 光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出		港漁様式・出来形3-2-1 参照
	天端高、天端幅、法面	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm	法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm又は特に よる。 天端幅 法面は特によ る。	
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10ст			

3-3 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密・排水工							1-1圧密・排水工を適用 する。

3-4 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-2締固工を適用する。

3-5 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3固化工を適用する。

4. 基礎工

4-1 基礎盛砂工

港:港湾工事共通仕様書 漁:漁港漁場関係工事共通仕様書 特:図面および特記仕様書

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.盛砂均し	延長	スチールテープ、間縄、 光波測距儀等により測定	施工完了後	10ст	管理図に延長を記入し提 出		港漁様式·出来形1-1-2 参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、 レッド又は音響測深機等 により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下		管理図に天端高、法肩、 法尻、天端幅及び法面勾 配を記入し提出	天端高 ±30cm天端幅、 法面勾配は特による。	

4-2 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

4-3 基礎捨石工 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は 10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測 点3点以上、但し、マウン ド厚2m以下の場合は2点 以上	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10ст	出来形図を作成し提出	特による。	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の 指示による	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
2.捨石本均し	天端高	レベル又は特により測定	測線及び測点間隔は 10m以下	1cm	出来形図を作成し提出	±5cm	様式・出来形4-3-2参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の 指示による	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
3.捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又は レベル等により測定	測線及び測点間隔は 10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	注)-1 ±50cm、岸壁前面+0,-20cm又は特による。 異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角) ±30cm又は特による。	注)-1 係留施設・護岸・ 土留壁等の背面につい ては、荒均しを適用しない。
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測 点3点以上、但し、マウン ド厚2m以下の場合は2点 以上	10cm	出来形図を作成し提出	注)-2 ±50cm(法面に直 角) 異形ブロック据付面(整 積)の高さ(法面に直角) ±30cm又は特による。	注)-2 係留施設・護岸・ 土留壁等の背面につい ては、荒均しを適用しな い。

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3.捨石荒均し		スチールテープ、間縄等により測定		10ст	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の 指示による	10ст	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	

4-4 基礎ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形6-1-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	全数		観察結果を報告		-
2.基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延長	スチールテープ等により 測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		_
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

5. 本体工(ケーソン式)

5-1 ケーソン製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.ケーソン製作	摩擦増大用マット敷設位置	スチールテープ等により 確認	始・終端及び変化する箇 所毎	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	
	高さ	スチールテープ等により 測定	完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	+3cm -1cm	様式・出来形5-1-1参照
	帕	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及 び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	+3cm -1cm	
	長さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及 び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	+3cm -1cm	
	壁厚	スチールテープ等により 測定	各層完成時、各壁1箇所	1cm	管理表を作成し提出	±1cm	
	底版厚さ	レベル、スチールテープ 等により測定	底版完成時、各室中央部 1箇所	1cm	管理表を作成し提出	+3cm -1cm	
	フーチング高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	+3cm -1cm	
	対角線	スチールテープ等により 測定	底版完成時及び完成時	1 cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部1箇所	1cm	管理表を作成し提出	砕石・砂±10cm コンクリート±5cm	投入量管理

5-2 ケーソン進水据付工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端2箇所	1cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸壁 ケーソン質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端2箇所	1cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸壁 ケーソン質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅中	1cm	管理表を作成し提出		
	延長	スチールテープ等により 測定	据付完了後、法線上	1cm	管理表を作成し提出		

5-3 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

5-4 蓋コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適 用する。

5-5 蓋ブロックエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用する。

6. 本体工(ブロック式)

6-1 本体ブロック製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm		高さ+2cm,-1cm 長さ+2cm,-1cm	様式・出来形 <u>6</u> -1-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形 <u>6</u> -1-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	型枠形状寸法 (異形プロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	全数		観察結果を報告		

6-2 本体ブロック据付工 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.本体ブロック据付	法線に対する出入		据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により 測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1ст	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3cm以下	
	延長	測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高		据付後ブロック1個につき 2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

6-3 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

6-4 蓋コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適 用する。

6-5 蓋ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用 する。

7. 本体工(場所打式)

7-1 場所打コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
場所打コンクリートエ	•						
イ)防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン 4箇所以上 パラペット頂部は 1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±2cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -2cm	天端高さ又は厚さの管理
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±3cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -3cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	±5cm 注)又は特による。	
口)岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ 等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理 項目の選定は特による。
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	防絃材ベッド	スチールテープ等により 測定	スパン毎	1cm	測定表を作成し提出		

特:図面および特記仕様書

7-2 水中コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中コンクリート工							7-1場所打コンクリート工 を適用する。

7-3 プレパックドコンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
プレパックドコンクリート工							7-1場所打コンクリートエ を適用する。

7-4 水中不分離性コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
水中不分離性コンクリート工							7-1場所打コンクリートエ を適用する。

8. 本体工(捨石・捨ブロック式)

8-1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

8-2 本体捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
本体捨石工							4-3基礎捨石工を適用する。

8-3 捨ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		様式・出来形6-1-1参照 ブロック(方塊)
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
2.捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により 測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により 測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最下段、最上段)	1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延長	スチールテープ等により 測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき 2箇所(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

8-4 場所打コンクリートエ 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン 2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±2cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -2cm	天端高さの管理項目の選
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±3cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -3cm	
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出		様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は特による

9. 本体工

9-1 鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
鋼矢板工							1-8鋼矢板工を適用す る。

9-2 控工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
控工							1-9控工を適用する。

10. 本体エ(コンクリート矢板式)

10-1 コンクリート矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート矢板	矢板壁延長		施工中適宜 打込完了時	1cm	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 0	
	矢板法線に対する出入		打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1cm	管理表を作成し提出	特による。	全数を目視で確認
		トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	特による。	
		トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)	1cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未 満 2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全数		観察結果を報告		

10-2 控工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
控工							1-9控工を適用する。

11. 本体工(鋼杭式)

11-1. 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
鋼杭工							1-10鋼杭工を適用する。

12. 本体工(コンクリート杭式)

12-1. コンクリート杭エ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート杭工							1-11コンクリート杭工を適用する。

13. 被覆•根固工

13-1 被覆石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.被覆石 (均しを行わない面)	天端面		測線及び測点間隔は 10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	様式・出来形13-1-1参照
2.被覆石均し	天端面		測線及び測点間隔は 10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 岸壁前面 +0、-20cm又は特によ る。	
	法面	音響測深機、レッド又は レベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異 形ブロック据付面(整積) の高さ(法面に直角)±30 cm 又は特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10ст	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
	延長	スチールテープ、間縄等 により測定	天端中心上又は監督職 員の指示による	10ст	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

13-2 被覆ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
	ブロック出来形寸法		種別による打設量100m3 に1回以上もしくは10個に 1個以上		管理表を作成し提出		監督員と協議のうえ決定すること。
2.被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等により 測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)	10cm	管理表を作成し提出		

13-3 根固ブロックエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm, -1cm 高さ+2cm, -1cm 長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	様式・出来形13-3-1参照
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
2.根固ブロック据付							13-2-2被覆ブロック据付 を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
上部コンクリート工							
イ)防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±2cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -2cm	天端高さ又は厚さの管理
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は ±3cm 天端幅10mを超える場合 は+5cm -3cm	2,00000XI = 000m
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±5cm 注)又は特による	
口)岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ 等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理 項目の選定は特による
	天端幅	スチールテープ等により 測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により 測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチール テープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により 測定	スパン毎	1cm	測定表を作成し提出		
ハ)桟橋							14-1上部コンクリートエロ)岸壁を適用する。梁 (高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

14-2 上部ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.上部ブロック製作		スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅 +2cm,-1cm 高さ+2cm,-1cm 長さ+2cm,-1cm 壁厚±1cm	
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
2.上部ブロック据付							
イ)防波堤							14-1上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。
口)岸壁							14-1上部コンクリートエロ)岸壁を適用する。
ハ)桟橋上部コンクリート							14-1上部コンクリート工 ハ)桟橋を適用する。

15. 付属工

15-1 係船柱工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出	曲柱±2cm 直柱±2cm	様式·出来形15-1-1参照
		トランシット、スチール テープ等により測定	据付完了時、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	中心間隔	スチールテープ等により 測定	据付完了時、各スパン毎 中心部、各基	1cm	管理表を作成し提出		
		スチールテープ等により 測定	完了時、全数、天端両端	1cm	管理表を作成し提出		
	(長さ)	スチールテープ等により 測定	完了時、全数、前後面	1cm	管理表を作成し提出		
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	1cm	管理表を作成し提出		

15-2 防舷材工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.防舷材		レベル又はスチールテー プ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
	中心間隔	スチールテープ等により 測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		

15-3 車止・縁金物工

特:図面および特記仕様

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
車止•縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
		トランシット、スチール テープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1cm	管理表を作成し提出	±3cm	
	取付間隔	スチールテープ等により 測定	上部工1スパンに2箇所	1cm	管理表を作成し提出		
	塗装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等により 測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15-4 防食工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
防食工							1-12防食工を適用する。

15-5 付属設備工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
係船環	取付位置	スチールテープ等により 測定	取付け完了時、中心部、 全数	1cm	管理表を作成し提出		

16. 消波工

16-1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を参照する。

16-2 消波ブロックエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.消波ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロッ ク)	観察	10個に1個以上測定		観察結果を報告		
	ブロック出来形寸法	スチールテープ等により 測定	種別による打設量100m3 に1回以上もしくは10個に 1個以上		管理表を作成し提出	図面寸法による 幅、高さ +2cm、-1cm	監督員と協議のうえ決定 すること。
2.消波ブロック据付	延長	スチールテープ等により 測定	据付完了後法線上(最上 段のみ)	10cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点問隔は 10m以下	陸上1cm 水中10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	 法面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	延長	スチールテープ、間縄等 により測定	天端中心上又は監督職 員の指示による	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
2.裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は 10m以下	陸上1cm 水中10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
	法面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等 により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等 により測定	天端中心上又は監督職 員の指示による	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
3.吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等 により測定	始・終端及び変化する箇 所毎並びに20mに1箇所 以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維 系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスフアルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	-
	延長	スチールテープ、間縄等 により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
裏埋材	地盤高 (陸上部)		測線間隔20m以下 測点間隔20m以下		平面図に実測値を記入し 提出		変化点は測定する
	(水中部)		測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	平面図に実測値を記入し 提出	特による。	変化点は測定する

17-3 裏埋土工

港:港湾工事共通仕様書 漁:漁港漁場関係工事共通仕様書 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延 長20mに1箇所以上	1cm	測定表を作成し提出		港漁変様式·出来高17- 3-1参照
2. 土砂盛土	幅	スチールテープ等により 測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	法線	スチールテープ等により 測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	延長	スチールテープ等により 測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出	特による。	

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
圧密·排水工							1-1圧密・排水工を参照 する。

18-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
締固工							1-2締固工を参照する。

18-3 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3固化工を参照する。

19. 土工

19-1 掘削工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂掘削							17-3-1土砂掘削を参照 する。

19-2 盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用 する。

19-3 路床盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 土砂盛土	高さ		舗装は中心及び両端部 の3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所		測定表を作成し提出	±5cm	
	幅	スチールテープ等により 測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延長	スチールテープ等により 測定	両端2箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない 0	

19-4 法面工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 法面							17-3-1土砂掘削、17-3-2 土砂盛土及び1-15植生 工を適用する。

20. 舗装工

20-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を 参照する。

20-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工 を参照する。

21. 維持補修工

21-1 維持塗装工 特:図面および特記仕様書

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.係船柱塗装	塗装箇所	目視(承諾された図面より 確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
2.車止塗装							
<i>1</i>)鋼製	塗装箇所	目視(承諾された図面より 確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
ロ)その他	塗装箇所	目視(承諾された図面より 確認)	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
3.縁金物塗装							21-1-2車止塗装を適用する。

21-2 防食工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
防食工							1-12防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22-1 取壊しエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. コンクリート取壊し		トランシット、スチール テープ等により測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告	特による。	

22-2 撤去工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチール テープ等により測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	特による。	
	外観	潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
2.鋼矢板等切断撤去	幅、高さ、延長	スチールテープ等により 測定	特による。	1cm	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
3.腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により 測定	特による。	特による。	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
4.舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチール テープ等により測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	特による。	
	外観	目視による観察	特による。		観察結果を報告		
5.石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチール テープ等により測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
6.ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により 測定	特による。	特による。	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
7.ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により 測定	特による。	特による。	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		
8.鋼矢板・H形鋼杭引抜 き撤去	形状寸法	スチールテープ等により 測定	特による。	1cm	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	特による。		観察結果を報告		

23. 仮設工

23-1 仮設鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1,仮設鋼矢板·H形鋼杭	矢板天端高		打込完了時、20枚に1枚 (H型鋼杭は全数)		管理表を作成し提出	±10cm	
	根入長		打込完了時、20枚に1枚 (H型鋼杭は全数)	10cm	管理表を作成し提出	+規定しない 0	

23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1,先行掘削							1-8-1先行掘削を適用する。 (任意仮設は除く)
2. 仮設鋼管杭·鋼管矢板工							1-8-2鋼矢板工 ロ)鋼管矢板及び1-10-2 鋼杭を適用する。(任意 仮設は除く)

23-3 仮設道路工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1,仮設道路工							1-13コンクリート舗装工及 び1-14アスファルト舗装 工を適用する。

24. 雑工

24-1 現場鋼材溶接工

港:港湾工事共通仕様書 漁:漁港漁場関係工事共通仕様書 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1,現場鋼材溶接	形状寸法(のど厚、脚長、 溶接長等)	スチールテープ、ノギス、 溶接ゲージ等により測定	適宜	1mm	測定表を作成し提出	特による。	港様式・出来形24-1-1漁 <u>様式・出来形26-1</u> 参照
	 ひずみ	目視による観察	全数		観察結果を報告		
	有害な欠陥の有無	目視による観察	適宜		観察結果を報告		
		スチールテープ、ノギス、 溶接ゲージ等により測定	適宜	1mm 溶接長は1cm	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	潜水士による観察			 観察結果を報告 		
3.スタッド溶接(水中)							港24-1-2漁 <u>26-1-</u> 2被覆 溶接(水中)を適用する。

24-2 現場鋼材切断工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.現場鋼材切断							
1)陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により 測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視による観察	全数		観察結果を報告		
口)水中切断	形状寸法	スチールテープ等により 測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外観	目視又は潜水士による観察	全数		観察結果を報告		

24-3 その他雑工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1. 清掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により 測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	特による	
	外観	目視又は潜水士による観察	全数		観察結果を報告		
2. 削孔	形状寸法	スチールテープ等により 測定	全数	1mm	測定表を作成し提出	特による	
	外観	目視又は潜水士による観察	全数		観察結果を報告		

25. 浚渫工

25-1 ポンプ浚渫エ

港:港湾工事共通仕様書 漁:漁港漁場関係工事共通仕様書 特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
3.硬土盤浚渫 4.岩盤浚渫	水深(底面)	音響測深機、レッド又は レベル等により測定	特による。	10cm	業務共通仕様書第2編1- 2-5の6平面図に実測値 を記入し提出	-規定しない又は特によ	+;設計値より浅いことをいう。
5.バックホウ浚渫	(法面)	音響測深機、レッド又は レベル等により測定	特による。	10cm	業務共通仕様書第2編1- 2-5の6平面図に実測値 を記入し提出	0 一規定しない又は特によ る	-;設計値より深いことをい う。

25-2 グラブ浚渫エ

特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.グラブ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25-3 硬土盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.固土盤浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

25-4 岩盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.砕岩浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25-5 バックホウ浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.バックホウ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

26. 埋立工

26-1 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
固化工							1-3固化工を適用する。

26-2 埋立土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.土砂掘削							17-3-1土砂掘削を適用 する
2.土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用 する

27. 道路舗装工

27-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を 適用する。

27-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工 を適用する。

27-3 道路付属工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.縁石	高さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	総延長	スチールテープ等により 測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -5cm	
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により 測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±1cm	
	長さ	スチールテープ等により 測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±10cm	
3. 道路標識	高さ	スチールテープ等により 測定	1箇所に1回	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
4. 防護柵	高さ	スチールテープ等により 測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	+3cm -2cm	
	総延長	スチールテープ等により 測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	

28. 緑地工

28-1 植生工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
植生工							1-15植生工を適用する

29. 魚礁工

29-1 魚礁製作工・単体魚礁製作

特:図面および特記仕様書

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.単体魚礁製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後10基に1基 以上測定	1cm		幅+2cm,-1cm 高さ+2cm,-1cm 長さ+2cm,-1cm 壁厚±1cm	様式·出来型29-1-1参照
	対角線	スチールテープ等により 測定	型枠取外し後10基に1基 以上測定	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観	観察	全数		観察結果を報告		

29-2 魚礁製作工・組立魚礁製作

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.コンクリート部材 組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により 測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	幅、高さ、長さ +10mm×部材連数 -5mm×部材連数	様式·出来型29-2-1参照
	ボルトの取付け	観察	全箇所		観察結果を報告		1
	ボルトの締付け	トルクレンチ等による測定	特による。	特による。	管理表を作成し提出	特による。	-
2.鋼製部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により 測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	幅+30mm,-10mm 高さ+30mm,-10mm 長さ+30mm,-10mm	
	のど厚、脚長、溶接長	スチールテープ、ノギス、 溶接ゲージ等により測定	特による。	1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	有害な欠陥の有無	観察	全数		観察結果を報告		
	溶接部 非破壊試験	JISZ3104放射線透過試 験の他、特による。	特による。		写真又はフイルムを提出	特による。	
		カラーチェック	特による。		写真を提出	特による。	

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
3. FRP部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により 測定	10基に1基以上測定	1mm	管理表を作成し提出	特による。	様式·出来型29-2-1参照
	接続帯の取付け	観察	接続終了後、全箇所		観察結果を報告	特による。	
4.重錘コンクリート製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により 測定	10基に1基以上測定	1cm		幅+3cm,-1cm 高さ+3cm,-1cm 長さ+3cm,-1cm	

29-3 魚礁沈設工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.魚礁沈設	位置 集中配置 (乱積配置)	GNSS及びD-GNSS等に より測定	魚礁沈設時に10基に1基 以上測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	配置中心点:±30mその 他は特による。	様式·出来型29-3-1参照
	位置 ゾーン配置	GNSS及びD-GNSS等に より測定	魚礁沈設時に10基に1基 以上測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	ゾーン内	
	位置 計画配置 (相対配置)	GNSS及びD-GNSS等に より測定	魚礁沈設時に全基測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	
	高さ	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は 中心点から8方位を測定 計画配置は特による	10cm		集中配置; +規定しない 0 (Hは魚礁1基の高さ) ゾーン配置、計画配置: 重ならないこと、その他は 特による。	集中配置:最高部の許容 範囲
	長さ、幅	音響測深器等により測定	集中配置、ゾーン配置は 中心点から8方位を測定 計画配置は特による	10cm	出来形図を作成し、記録 紙にも寸法を表示し提出	特による。	

30. 増殖場工

30-1 着定基質製作工・単体着定基質製作

特:図面および特記仕様書

	工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1		型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		魚礁タイプは、 <u>29</u> . 魚礁 工を適用する。
		ブロック外観(異形ブロッ ク)	観察	全数		観察結果を報告		

30-2 着定基質製作工・組立着定基質製作

特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.着定基質組立							<u>29</u> -2 魚礁製作工・組立 魚礁製作を適用する

30-3 着定基質設置工

特:図面および特記仕様書

工種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
		GNSS及びD-GNSS等に より測定	着定基質設置時に全基測定	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出		様式·出来型29-3-1(計画配置)参照
	長さ、幅	音響測深器等により測定	特による。		出来形図を作成し、記録 紙にも寸法を表示し提出		
	天端高	音響測深器等により測定	特による。		出来形図を作成し、記録 紙にも寸法を表示し提出		

30-4 石材着定基質工

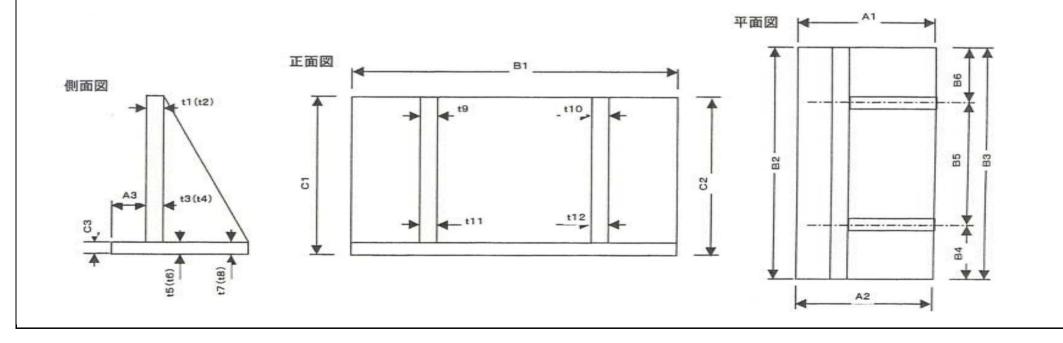
工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1.石材投入	投入位置	GNSS及びD-GNSS等に より測定	特による。	緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出		様式・出来型30-4-1(計画配置)参照
	長さ、幅	音響測深器等により測定	各3測線以上		出来形図を作成し、記録 紙にも寸法を表示し提出		様式・出来型30-4-1(計 画配置)参照

工事名:

様式・出来型6-1-1(2) 令和 年 月 日

現場代理人

製作者	モニ		幅				長	さ				高	4					2	子部	材厚	2				
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	t9	t10	t11	t12
	設計値											1									1	1	-	1	1
	設計値 実測値		8																						
	差			1											9		10								+
					T.																				
			1																	1/1				100	
- 1			-	-	-	-		_		1		-								. S.					
-			-	-	-	-	-	-		-		-	-	-	-	-	-	-	-						
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	_	-	-	-	-	-				-
		_	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	1
		_	-	-		+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	+	-	-	-	-	_
1	-	-	-	-	+	+	+	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	+-	-	-	-	-	-	-	-
-	_	-	+	-	+	+-	+	-	-	+	-	-	-	-	+	-	+-	+	-	+-	-	+	-	-	-
1		_	-	-	+	+	-	+-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	+-	+-	-	-
1				-	-	1	-	_	-	-	-	-	+	-	+-	+-	-	+-	+	-	+-	+-	-	-	+-
			-	-	+-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-	+-	-	+-	-	-	-
1	_		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	_	-	-		_	-	



ケーソン据付出来形管理表

工事名:

現場代理人

アーソン		法線に対	付する出	入り			据付	目地間隔			測定位置	天	端高さ		
番号	測定位置	法線に対 測定月日	設計值	実測値	差	測定位置	測定月日	設計值	実測値	差	測定位置	測定月日	設計值	実測値	差
								_			① ② ③ ④				
NO. 1											(2)				
							9				(3)		11		
											(4)				
							6 9				(i				
		/													
					1					1					
					į į		4					1			
														W.	
- 3															
										8					
													9		
						10									
					1	1		_							
													- 1		
						1				11).					
					ŀ	4→			-	-	_				
					- 1	1.			20						
					a	(1)			1					_	
		法線	ŧ		0	7 /				<u>(1)</u> _			(3	
	①\$				- 2 V	4 /			2						
	₩	3			(3)				3	7				1	
	1	D			1	10			0	1				1	
	4				1				1	10				a	
									1	2				-	
	1	(3)			(4				_ (A)						
		2							7	2					
						(2)			1-4						

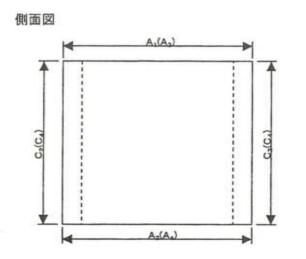
	00段目												
原定項目	規格	箇所	測定值	検査値	差	鹽所	湖定值	検査値	差	皇所	測定值	枝壺值	楚
					_	1				1		-	+
壁 輝>	L L												
型=00	±00			-	_								
型=00	E									 			
フーチング・>				-	_								
=00	+00												
=00	-00												
1=00	-				_				_	 		-	-
底版厚>	+00												
00=1	+00	-		-		+			_			-	+
=00	-00												
框 >	+00				71								
対 角>	±00												1
高 さ>	+00			-	_								+
d=00	-00											1	
	港内側				海内側							a -a	
	港外側		h H		港外側			港外側				<u></u>	

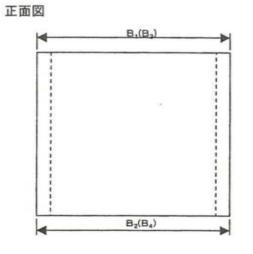
セルラーブロック製作出来形管理表

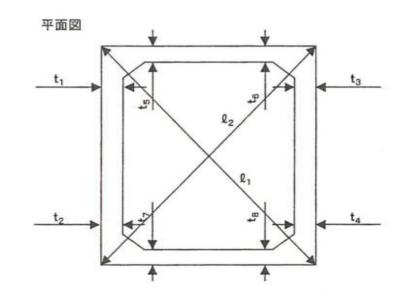
工事名:

現場代理人

製作番号			ф	昌		長さ				高さ				各 部 材 厚 さ								対角線	
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	21	02
設	計値																						
実	計値				1																		
差																							
-																							
_	-			_																		_	_
	-										-			-		-	-	_	-	_	-	-	\vdash
																_			-		_		-
																							\vdash
_																							
-	-			_	_																		_
-	-			-					_	-	-											_	_
_	_	_																			_		-
		_								7													
	\neg																						







令和 年 月 日

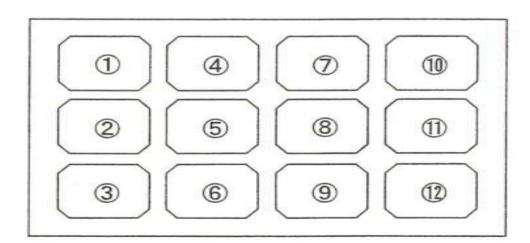
現場代理人 工事名:
 長さ
 幅
 高さ
 凸部幅

 上側 下側 上側 下側 右側 左側 上側 下側 右側 左側
 突起よりの距離 対角線 製作番号 B1 B2 B3 B4 A1 A2 A3 A4 C1 C2 C3 C4 D1 D2 D3 D4 h1 h2 h3 h4 D5 D6 D7 D8 h5 h6 h7 h8 E1 E2 E3 E4 E5 E6 E7 E8 T1 T2 設計値 実測値 差 A1(A2) B1(B3) B1(B2) E3(E4) 侧面図 h3(h4) h1(h2) 正面図 C3(C4) C1(C3) C1 (C2) ← E5(E6) ← D7(D8) ← E7(E8) ₩ M D5(D6) h7(h8) - A3(A4) -B2(B4) B3(B4)

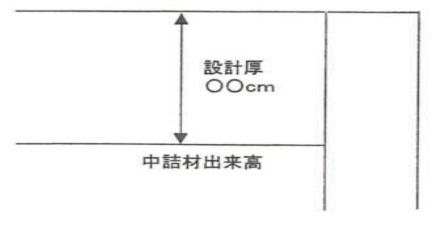
蓋コンクリート出来形管理表 現場代理人

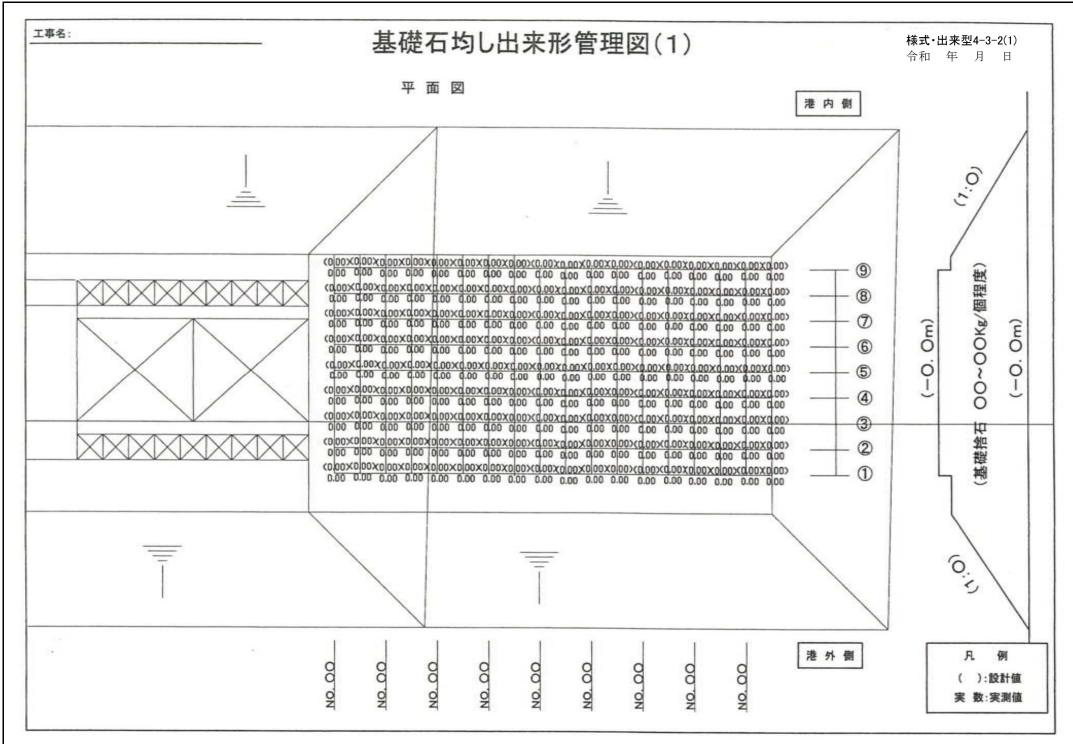
工事名:

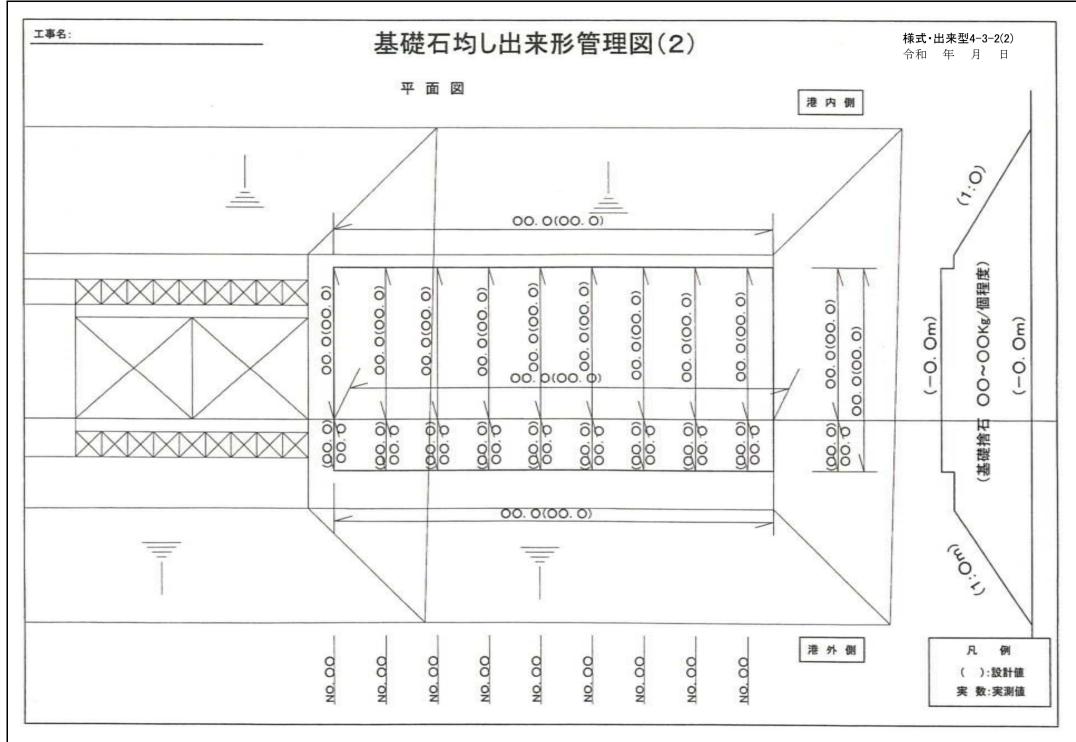
測定位置	ケー	ーソン天端からの		測定位置	ケー	ーソン天端からの	値
	実測値	設計値	差	別足世世	実測値	設計値	差
2)							
3)							
1) 2) 3) 4)							
				1			
				1			
				 			











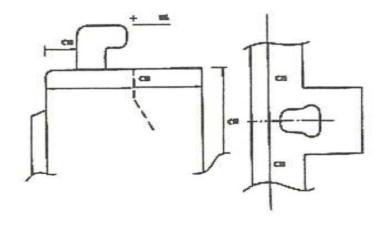
係船柱出来形管理表

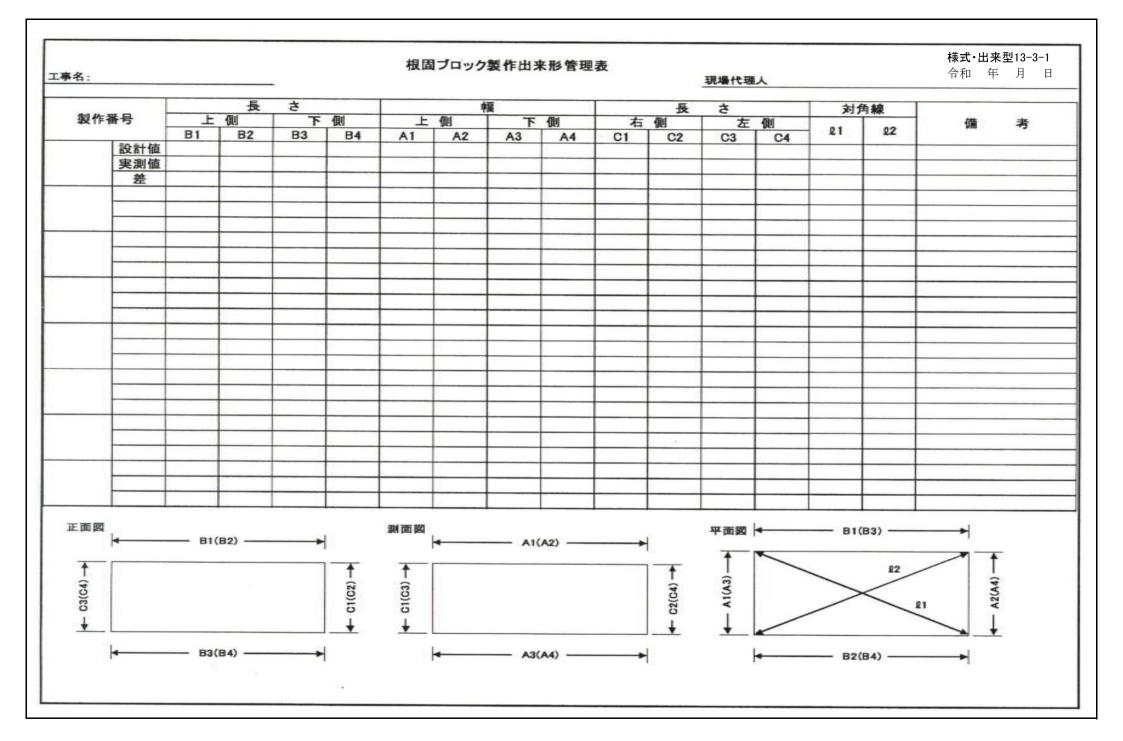
工事名:

現場代理人

番号	岸壁前面に対する出入り	工姓立	中心間隔	基礎二	ンクリート	(直柱)	備	考
40001100404	产生的面に対する山八9	八州间	十七日日	幅	長さ	高さ	ин	73
基点のより	_	-	-		_	_		
					<u> </u>	7		
			-					
			-			/		

係船柱測定位置図

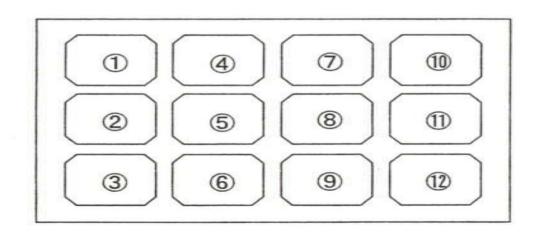


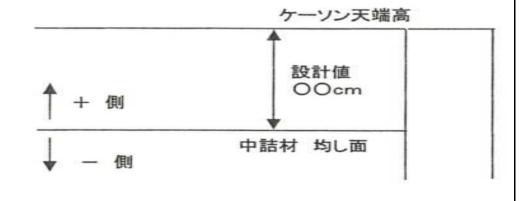


砂・石材中詰出来形管理表 現場代理人

工事名:

測定位置	ケー	ーソン天端からの	値	測定位置	ケー	ーソン天端からの	値
	実測値	設計値	差	例足世旦	実測値	設計値	差
3)							
D 20 30 40	3						





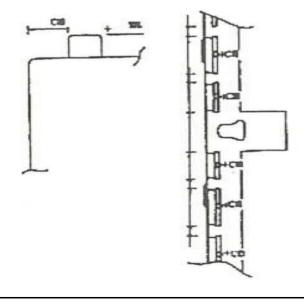
車止出来形管理表

工事名:

現場代理人

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	取付間隔	備	考
基点0より		_	-		

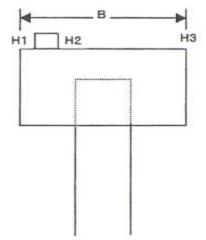
車止測定位置図

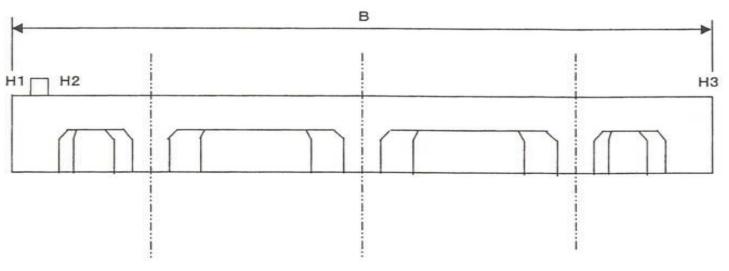


上部コンクリート(岸壁)出来形管理表

工事名:

			Э	影。	高	(厚	さ)			天	端	幅	3	正長		法	線に対す	る
則点		H1			H2			Н3			В			L		1	出入り	
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
				-														
				-			-		_	-	-							
				-	-		-			-	-		-			+		
																_		
				-						-								
		-		-	-		-		-	-						-		
				-		-					-	-				-	-	
							1			1	-					-		
					7													
_				-						-			-					
						_	-						-					

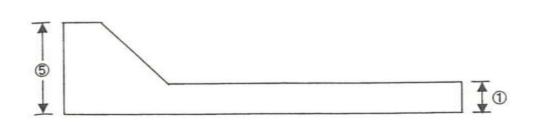




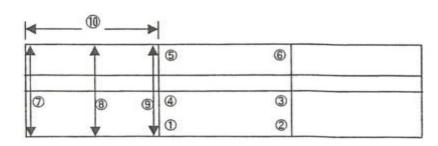
上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

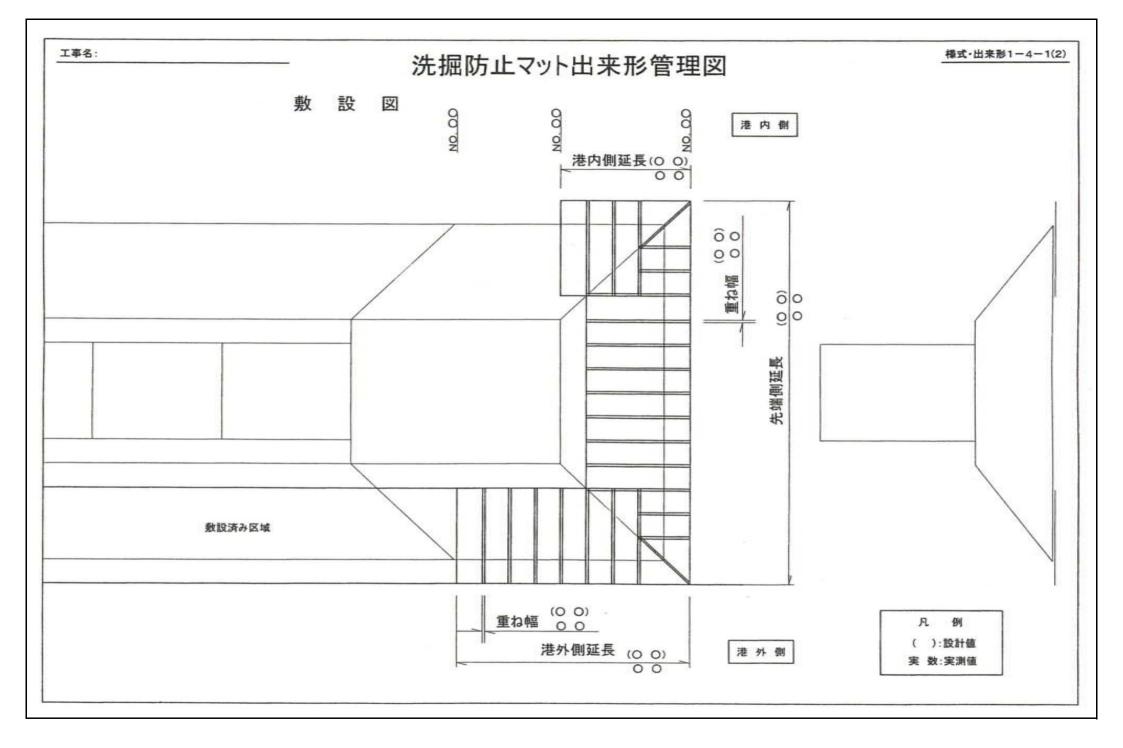
現場代理人

ケー・アノ等			天 端	高 (厚 さ)			天	端幅			延	長			法線に対	する出入り	
NO.	測定月日	測点	設計値	高 (厚 さ) 測定値	差	測点		測定值	差	測点		測定値	差	測点	設計值	測定値	差
		1	HART III	MIZE I		7				10							
		ŏ l				(8)											
		3				<u>®</u>											
		② ③ ④										1+					
		(5)								1	IJ.						
		6															
						1											
2						+											
						+											_
		-		-		-		1	_	1							
				-		+		-									
				-		-				-							
						-				1				1		 	_
				-		-		-		-				+			
						1			-					-			
										-	<u> </u>			-			_
										-				-			
					u.					-				-			
				1 4										-			
		1		4													
							N. Committee										
										1				1			



工事名:





洗掘防止マット出来形管理表

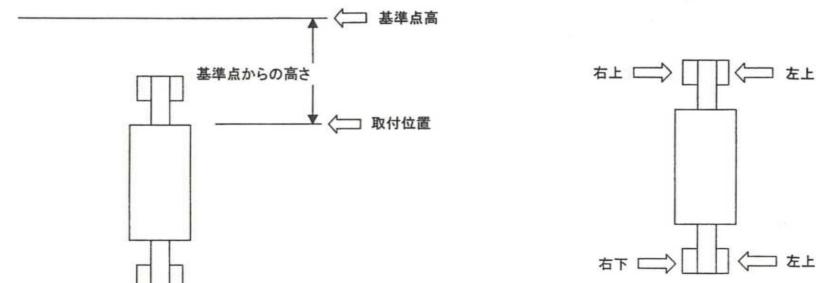
工事名:

マットNO.	敷	設 月	В		測	值		備考
	私	ix n	н	敷設位置	重ね幅	敷設幅	延長	1/用 - 1/5
設計値								
実測値								
差			1					
設計值								
設計値実測値			ŀ					
差			ŀ					
設計值								
実測値			1					
差			1					
設計値								
実測値			1					
关则但			1					
差 設計値								
設計但			1					
実測値			1					
麦								
差 設計値 実測値								
実測値								
差 設計値 実測値								
設計值			N.					
実測値			Г					
差			1					
差 設計値 実測値								
実測値			T T					
342			1					
設計值								
宝测值			H					
定計値 実測値 差計値 実差計値 実差計値			- 1					
記計店								
安别族			1					
天冽胆			F					
左 記引 法								
設計但			L					
夫別 世			1					
差								
設計値実測値					(€			
実測値					7			
差			Γ					

電気防食出来形管理表

工事名:

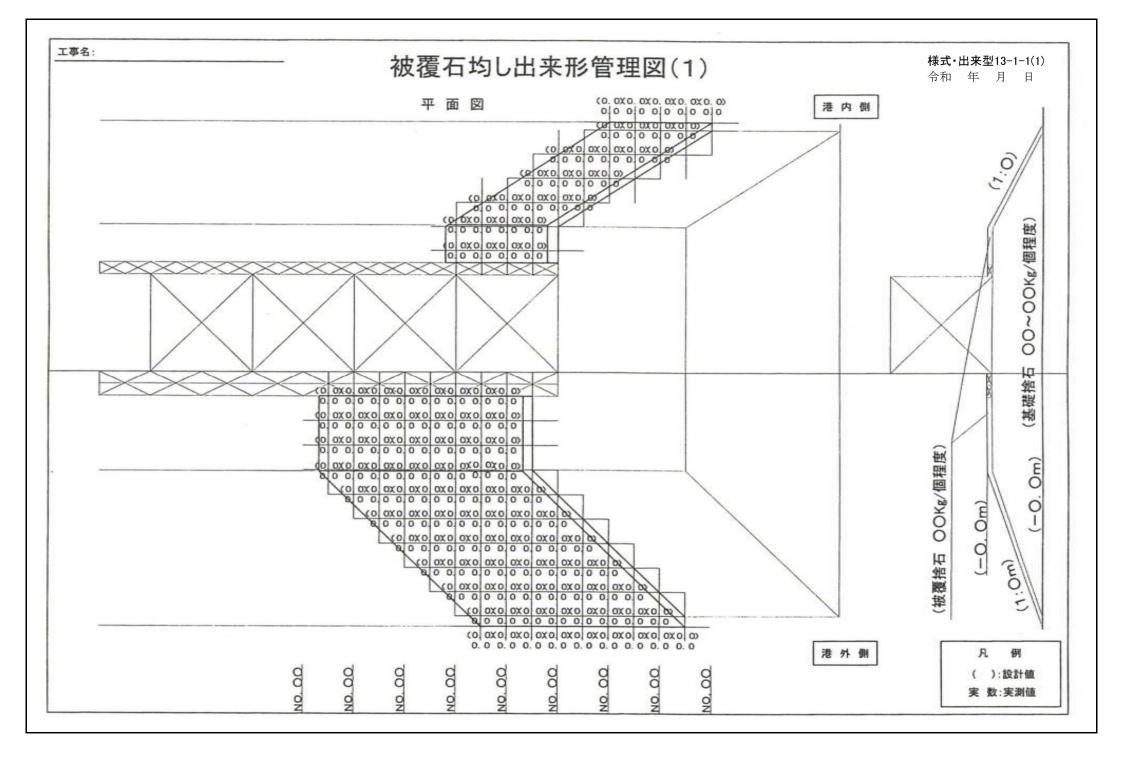
			陽	極取	付					溶	Ŧ	妾	部		
		取付位置			基準点が	らの高さ			溶析				脚	長	
陽極NO	設計値	実測値	差	基準点高	設計値	実測値	差	右上	左上	右下	左下	右上	左上	右下	左下
				-		-									
											-				
	-			-											

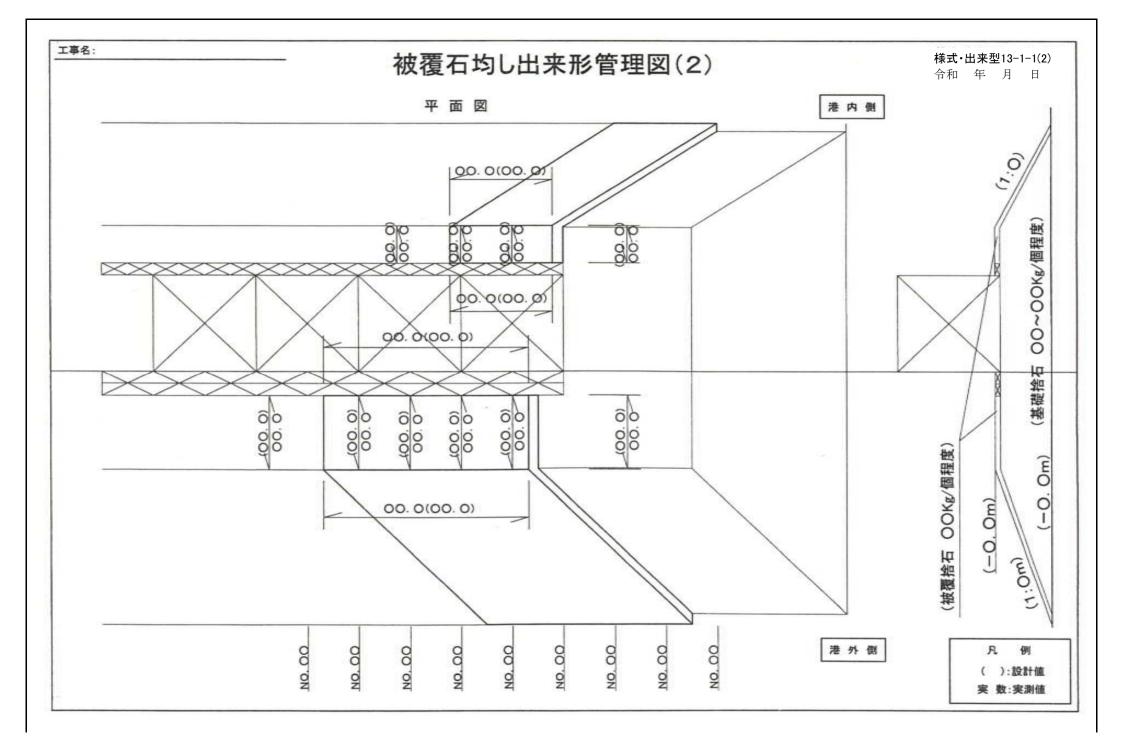


工事名:

電気防食電位測定管理表

測定水深					測	定	位	置					/#	±br.
别 足 小 床	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12	備	考
		1310		-	+	-		-	-	-	-			
			+		+	+	+	-	-	-	1	-		
	-			-	-	-	-	-	-		-			
				1	+	-	+	+	-	-	-			_
			11											
	-		-	-	-			-						
	1				+	+	1	-	-	-	-			
	-		1		-									
	+	-	+	1	-	-	1	-		-	-			
	-			-					-					
	+		1		+		-	-	-	-				
											1			
	-	-	-	-	-	-				-				
-		7												
			\bigcirc P-7		P-8									
			P-7		P-8		P-9		P-10		P-11		P-12	
-		1			\bigcirc				\bigcirc					
			P-1		P-2		P-3		P-4		P-5		P-6	





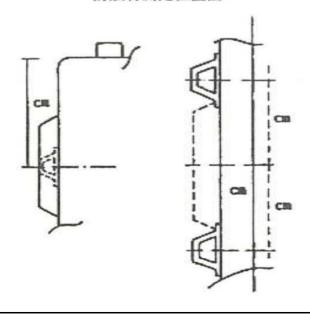
防舷材出来形管理表

工事名:

現場代理人

番号	取付高さ	中心間隔	備	考	
番号 点のより	—	22.—. 21			
		<u> </u>			
-					
			the state of the s		

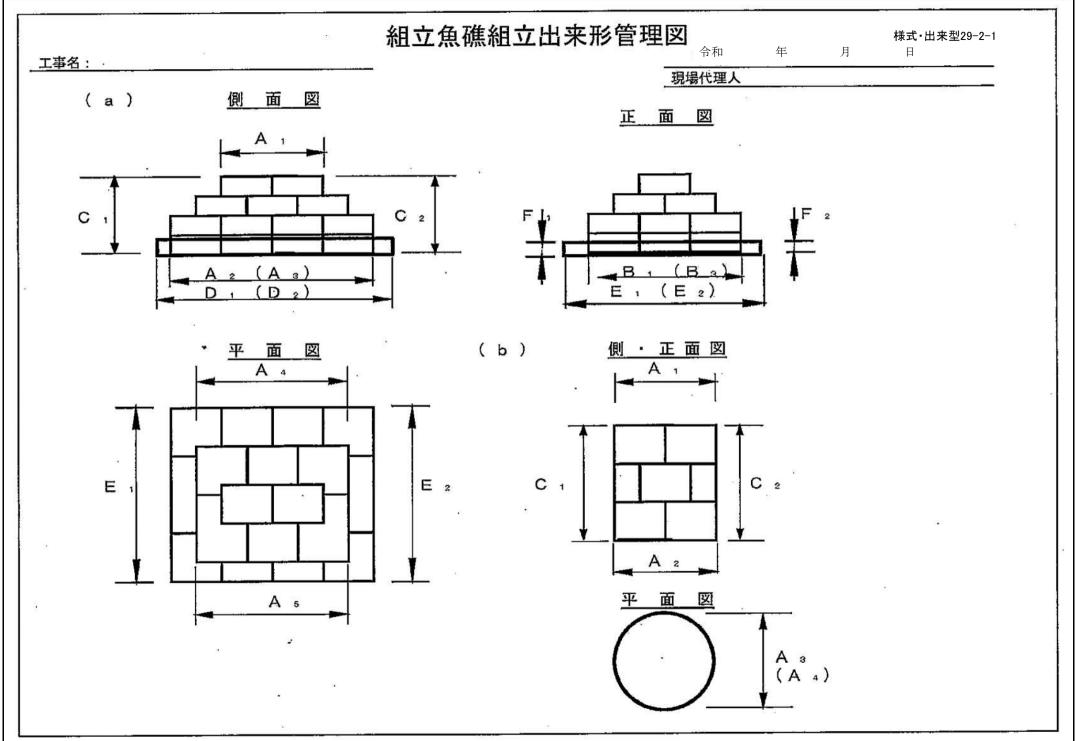
防舷材測定位置図



工事名:	単体魚礁製作出来形管理	様式・出来型29-1-1 令和 年 月 日 現場代理人
側面図	正面図	平面図
A 1 (A s) (C 1) (C 2) (C 3)	B ₁ (B ₃) B ₂ (B ₄)	t1 t2 t3

製作番号	A 1	A 2	A 3	A 4	B 1	B 2	B 3	B 4	C 1	C 2	C 3	C 4	t1	t2	t2	t4	L1	L,
設計値													-					
実測値				c								2.5000						Г
差											500 5000		711780					
設計値				- SIGN											200 2000			
実測値																		
差						l												
設計值							1								in the second			
実測値			,	y.														
差								13.55-233						(3)				
設計値					, .													
実測値														100 III	10			
差														energy (
設計值			j j															
実測値																		
差										V.9988								

組立魚礁についても上記の表を準用する。



魚礁沈設出来形管理表(1)

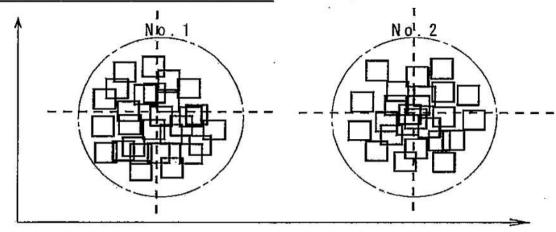
工事名:

様式・出来型29-3-1(1) 月 日

令和

現場代理人

魚礁沈設位置 (集中配置)



] 沈 設 位 置

-				1000				<u> </u>	*	
測点番号	魚名	礁称	製 作番号	沈	設	X 座 標	(緯度)	Y_座 標	(経度)	偏心距離
番号	名	称		月	日	設計位置	沈設位置	設計位置	_ 沈 設 位 置	(m)
			中心点				20.755			5 ts
No.1	İ		1-1							
			1-10			' /			10 TH NO	
	Notes Neu		1-20				U.S. William			
			中心点				100	TAMES - AME		0.040A 00.440AA
No.2			2-1				2000			
			2-10		100.00					
			2-20							-
•			中心点			35 AC 5000			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
No.3									NO PARAGO	

			中心点							
No.4										
್ರಾವಾಲಕ್ಷಕ ಚಿ				di tire i tomo i estitue a contra			3.0			
			*						2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
				l.						

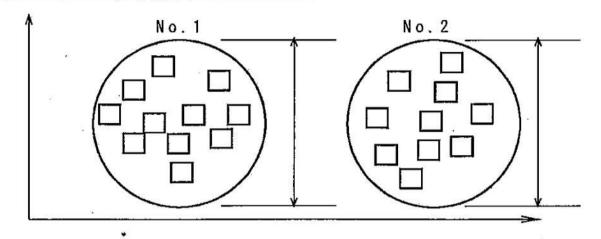
魚礁沈設出来形管理表(2)

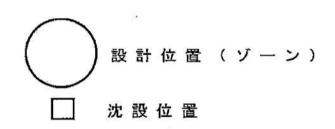
		様式・出来型29-3-1(
_	_	

工事名:	

	— TJ (TI	+	月	Н	
	現場代理人			57.00 25.00 (20.00)	
_					

魚礁沈設位置(ゾーン配置)





測 点番号	魚名	礁称	製作番号		設	X座標	(緯度)	Y座標	(経度)	偏心距離
番 号	卷	杯		月	日	設計位置	沈設位置	設計位置	沈設位置	(m)
1			中心点							
No.1			1-1						- TOTOLINIANA	
			1-10	5000 Day (1988)			2010.0 Apr			
			1-20							Commence (1) Alberta (ASSAIRA)
			中心点							
No.2			2 – 1	0 0 00						
1 1000			2-10							
			2-20	*1			**			
			中心点	1W 1410				Secondary of the second		
No.3							S=4004 10			
									Sh Shikiki iliyad	0335 N
			中心点							
No. 4									######################################	355 30 30
1										
İ										DESCRIPTION OF MARKETING
			I							

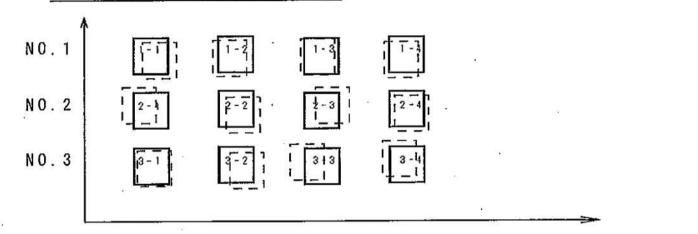
魚礁沈設出来形管理表(3)

		様式・出来型29-3-1(
	H	-

山,州	干	Л	Ħ	
現場代理人				

魚 礁 沈 設 位 置 (計 画 配 置)

工事名:



	7				
1	1	設	計	位	置
1	1		~ .	•	

222222222			
沙	野	位	置
110		-	_

測点番号	魚 名	礁称	製作番号	沈 設 月 日_	X座標 設計位置	(緯 度) 沈 設 位 置	Y 座標 設計位置	(経度) 沈設位置	偏心距離(m)
No. 1			1-1	•					
1000-1		÷	1 - 3						
No. 2			2-1						
			2-3						, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
No.3	22-22-12								
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	v			100					
No. 4.	57202 (S								

魚礁沈設出来形管理表(4)

様式・出来型29-3-1(4)

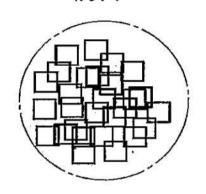
令和

現場代理人

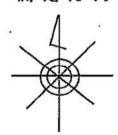
魚礁沈設位置(集中配置・ゾーン配置)

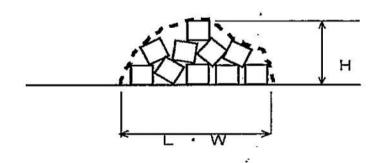
No.1

工事名:



測定方向





	(測定単位: 0.1m)										
測点	測定方向	144000-0-1	2000	TO A SAME OF THE S							
番号		m	m m	m							
No. 1		*****									
	•										
No. 2											
No.3		25 41									
No. 4											
			•								

魚礁沈設出来形管理表(5)

様式・出来型29-3-1(5)

令和

年.

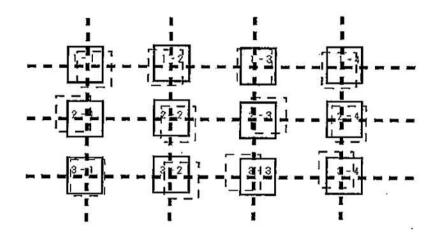
月

日

現場代理人

魚礁沈設位置(計画配置)

工事名:



	No
L · W	N o

			(測定単位	z : 0.1m)
測点番号	測定方向	長 さ (L)	幅(W)	
番号		m	m	
No. 1				
No. 2				
No.3			-	
No. 4				
			- M. M. M. M. M. M. M. M. M. M. M. M. M.	

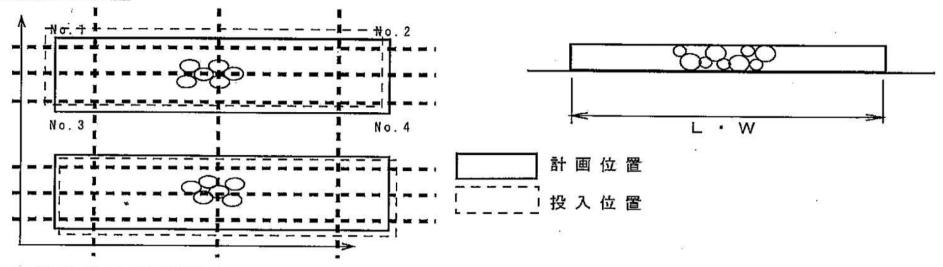
石材投入出来形管理表

様式・出来型30-4-1 令和 月

現場代理人

石材投入位置

工事名:



石材投入出来形管理表

r ====================================									S 32)		(測定 単	位 : 0.1m)
積 載	石材	投入量	投月	入	測点	X座標	(緯度)	Y座標	(経度)	偏心	測線	長さ	幅
船名	規格	(m³)	月	日	番号	計画	投入	計画	投入	偏心距離	測線番号	(L)	(W)
10 10 10						位置	位 置	位 置	位 置	m		m	(m
	12.5		Alle Bio		NO.1						339%		
					NO.2								· .
			i		NO.3		3735		2	1000		1.32-0.0	
	77.00	Control of the Contro	N-20	200	NO. 4			************	N 1000 ***				
6 100					- 10								
1					715	ASSAM MA							
	3				1/10/1					944		<u> </u>	h
	0.00			-				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
		*1											
							1						
ſ			<u>l</u> d						— —				
L									J				1000

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	管理基準値	規格値 (参考)	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
5	1	3			堤体工	規準高(V)		± 100	線的なものについては、施工延長おおむね20 mにつき1箇所の割合で測定する。		1 刃金土(W3)、さや土(W4)の幅は盛土高 1 m 毎に管理する。
農林	ため	堤				基準高 (V1)	V1:+65 -0		mic of Tannond Conce, of	. 52	M(CBST) 00
土木	池	体工				刃金土基準高 (V2)	V2:+65 -0		上記未満は2箇所測定する。		2 測定は原則として、水平距離とするが、法 長の場合は斜距離とする。
編						トレンチ基準高(V3)	V3:+65 -0				女の場合は料起離と9 0。
						トレンチ基準高(V4)	V4:+0 -65			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3 出来形測定と写真は同一箇所で行う。
						堤幅 (W)		-100	1	THE AND THE AN	
						堤頂幅(W1)	W1:-65				4 出来高図は横断図面を利用して測定する。
						小段幅 (W2)	W2:-65				
						刃金土幅 (W3)	W3:+300 -0				
						さや土幅 (W4)	W4:+300 -65				
						トレンチ上幅(W5)	W5: +300 -0				
						トレンチ下幅(W6)	W6 : +300 −0				
						法長 (L)	L : -65	-100			
						法勾配 (n)	n:+1分 -0				
						施工延長		-200			
5	1	4			洪水吐工	基準高 (V)	± 20	± 30	基準高、厚さ、幅、高さについては施工延長 1スパン(変化点)につき1箇所の割合で測	Cr	スパン長の標準を9mとした場合
農林	ため	洪水				厚さ (T)	± 13	± 20	定する。		
土木	池	吐工				幅 (B)	± 20	± 30	箇所単位のものについては適宜構造図の寸法 表示箇所を測定する。		
編		_				高さ (H)	± 20	± 30			
						中心線のズレ (e)	直線部 ± 35	直線部 ± 50 曲線部 ±100		\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
						施工延長	曲線部 ± 65				
						(又は長さ)		-150			
						スパン長 (L)	直線部 ± 13	直線部 ± 20	4		
							曲線部 ± 20	曲線部 ± 30			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	管理基準値	規格値 (参考)	測定基準	測定簡所	摘 要
5 農林土木編	ため池	5 取水施設工			樋管工 (土砂吐 ゲー ト等)	基準高(V)	± 20	± 30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレについては施工延長10mにつき1箇所の割合で測定する。 ジョイント間隔については、1本毎に測定する。 箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。	+ +5 H	1 基準高(V) は管底を原則とする。 2 コンクリート二次製品使用の場合である 3 底樋及び斜樋は、土木工事施工管理基準3編 2章3節29条2側溝(場所打水路工、暗渠工)に 準ずる。
						幅 (B)	7	-20		<u>B2</u>	
						高さ (H)	± 13	-20			
						中心線のズレ(e)	直線部 ± 35 曲線部 ± 65	直線部 ± 50 曲線部 ±100			
						施工延長	-100	-150			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 農	2 林				林道土工	基準高		± 100	基準高は、測点の中心線上及び両端について 測定する。	/	
農林土木編	道整備	開設工				幅員 W		200 -100	IP、中心線のズレは、全交点及び全測点について測定する。	*	
						IP間距離 (≦40m)		± 200		= 5	
						IP間距離 (>40m)		± 0.5%		<u>L</u> <u>L</u>	
						測点間距離		± 100			
						施行延長		C		BM No MC	
						IP点交角 θ		± 1°		BC BC EC	
						中心線のズレ		± 30			
						素掘側溝 幅・高さ		50 -50		\vee	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項	目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6 河	1 築 堤	7 法	4		護岸付属物工	幅		w	-30	各格子間の中央部1箇所を測定。	~ "	
川編	•	覆護				高	さ	h	-30			
	護岸	護岸工									E.	
											经会	
6 河	1 築 堤	10 水	8		杭出し水制工	基準	高	∇	±50	1組毎	w <u>-</u> 1	
川編	•	制工				幅		w	±300	_		
	護岸					方		向	±7°	_		
						延	長	L	-50			
]	Йііі	
											11 ' ' '	
6 河	1 築 堤	13 光	3		配管工	埋設	深	t	0~+50	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。		
編編	堤 • 護	ケーブ				延	長	L	-50	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	G 1	
	岸	ァ ル 配									(i) (i)	
		管工										
											按統部 按統部	
											(地上機器部) (地上機器部)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	1築堤・護岸	13 光ケー ブル配管工	4		ハンドホール工	基準高▽ ※厚さt1~t5 ※幅 w1, w2 ※高さh1, h2	±30 -20 -30 -30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合	t ₃ w ₃ t ₄ t ₁ w ₂ t ₂ h ₃ t ₄ t ₁ t ₂ t ₅	
6 河 川	3 樋 門	5 樋 門	6	1	函渠工 (本体工)	基準高▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷 前)に測定する。	ts T	
編	· 樋 管	・樋管本体				厚さ t 1~ t 8	-20	函渠寸法は、両端、施工継手箇所及 び図面の寸法表示箇所で測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示 箇所で測定。	t ₃	
		I.				幅 W1, W2	-30	プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。	t ₂ w ₃ t ₂	
						内空幅 w 3	-30	定。	t ₅ T t ₈	
						内空高 hı	±30		17	
						延 長 L	-50		L	
6河川編	3 樋門・5	5 樋門・2	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ)	基準高▽	±30	施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	樋 管	樋管本体工			(ダクタイル鋳鉄 管)	延 長 L	-50	1 施工箇所毎		

出来形管理基準及び規格値 単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河	3 樋	5 樋	7 8		翼壁工 水叩工	基	準	高	∇		±30		図面の寸法表示箇所で測定。	t w t	
川編	門・	門•				厚		さ	t		-20			T h	
	樋 管	樋 管-				幅			w		-30			t w	
		本体				高		さ	h		±30				
		エ				延		長	L		-50			7\\\ ///7	
6 河	4 水	6 水	7 8		床版工 堰柱工	基	準	高	∇		±30		図面の寸法表示箇所で測定。		
川編	水門	州本	9		門柱工	厚		<u></u>	t		-20				
,,,,,		体	10 11		ゲート操作台工			<u> </u>	l .						
		工	11		胸壁工	幅			W		-30				
						高		さ	h		±30				
						延		長	L		-50				
6 河 川	5 堰	6 可	13 14	3	開門工 土砂吐工	基	準	高	∇		±30		図面の寸法表示箇所で測定。		
編		動堰				厚		さ	t		-20				
		本				幅			W		-30				
		体工				高			h		± 30				
		_	0		IE L. H. T	延		長	L		-50				
6 河	5 堰	7 固	8		堰本体工	基	準	高	∇		±30		基準高、幅、高さ、厚さは両端、施	w d	
Ш		定	9 10		水叩工 土砂吐工	<u>厚</u> 幅		さ	t		-20 -30		工継手箇所及び構造図の寸法表示箇 所で測定。		
編		堰本	10			高		さ	w h		± 30			h I t	
		体				1111	堰長		11		-50			14 20 2 PP 4	
		エ													

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6 河	5 堰	8 魚	3		魚道本体工	基準高 ▽	±30	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	tı w tı	
川編		道工				厚さ t 1, t 2	-20		T T T	
						幅 W	-30		he	
						高さ h 1、h 2	-30		h ₁	
						延 長 L	-50		*	
6 河	5 堰	9 管	2		管理橋橋台工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は図面の寸法表示箇所で	w ₂ w ₁	
川編		理橋				厚 さ t	-20	測定。	ha ha	
		下部				天端幅 w ₁ (橋軸方向)	-10		t l hi	
		エ				天端幅 w 2 (橋軸方向)	-10		İ	
						敷 幅 w 3 (橋軸方向)	-50		w ₃ w ₃	
						高 さ h 1	-50		wz wi wz wi	
						胸壁の高さ h 2	-30		The The	
						天 端 長 01	-50		h ₁ h ₂ t	
						敷 長 ℓ₂	-50		++++++	
						胸壁間距離 0	±30		ws ws	
						支 点 長 及 び 中心線の 変 化	±50			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河	6 排	4 機	6		本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所で測定。	L L	
編編	水機場	場本体				厚 さ t	-20		911.	
	勿	14 工				幅 w	-30			
						高さ h 1、h 2	±30			
						延 長 L	-50		h ₂	
6 河	6 排水	4機	7		燃料貯油槽工	基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。	L	
川編	水機場	場本体				厚 さ t	-20			
	芴	I				幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50		h h	
									1	
6 河	6 排	5 沈	7		コンクリート床版工	基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で測定。	L 1	
川編	水機場	砂池				厚 さ t	-20			
	場	エ				幅 w	-30		w	
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50		h	
									<u>↓</u> <u>↓</u> <u></u>	
									1	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 河 川	7 床 止	4 床	6		本体工 (床固め本体工)	基 準 高 ▽	±30	図面に表示してある箇所で測定。	Li wi	
編	め	止めて				天端幅 W 1, W 3	-30			
	床固	工				堤 幅 W 2	-30			
	め					堤 長 L1, L2	-100		L ₂ w ²	
						水通し幅01,02	±50			
6 河	7 床	4	8		水叩工		±30	基準高、幅、延長は図面に表示して		
川編	水止め	床止め				 厚 さ t	-30	ある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。	L L	
ЛУПП	· 床	I				幅 w	-100			
	が固め					 延 長 L	-50			
									w	
6	7	5	6		側壁工		T (I)	1. 図面の寸法表示箇所で測定。	L	
河川	床止	床固						2. 上記以外の測定箇所の標準は、天 端幅・天端高で各測点及びジョイン	h -i-	
編	め・:	め エ						ト毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、	Ř Z Z	
	床固					堤 幅 W 2	-30	又は、測点に直角な水平延長を測 定。		
	め					長 さ L	-50		w ²	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
7 河	1 堤	5 護	5		場所打コンクリート工	基準高 ▽		施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。		
川海岸	防•	岸基				幅 w	-30		188	
戸編	護岸	礎工				高 さ h	-30			
						延 長 L	-200		h _ w _	
7 河	1 堤	5 護岸	6		海岸コンクリート ブロックエ	基準高▽	±50	ブロック個数40個につき1箇所の割 で測定。基準高、延長は施工延長	1 89	
川海	防・	基				ブロック厚 t	-20	20mにつき1箇所、延長40m以下のも のは1施工箇所につき2箇所。		
岸編	護岸	礎工				ブロック縦幅wı	-20		t	
						ブロック縦幅w2	-20			
						延 長 L	-200		w ₁	
									w ₂	
7 河	1 堤	6 護岸	4		海岸コンクリート ブロック工	基準高 ▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	入▽	
川海	防・業	岸 工				法 0<5m 長	-100	「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(護岸工編)(案)」の規定	15	
岸編	護岸					ℓ ℓ≥5m	ℓ× (-2%)	による測点の管理方法を用いること ができる。	1/2//	
						厚 さ t	-50		//// t	
						延 長 L	-200			
									60004-0	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定 項 目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	1 堤	6 護	5		コンクリート被覆工	基	準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。		
川海岸	防・	岸工				法長	ℓ<5m	-50	「TS等光波方式を用いた出来形管 理要領 (護岸工編) (案)」の規定	1 8000 m	
岸	護岸					ℓ	$\ell \ge 5 \mathrm{m}$	-100	による測点の管理方法を用いること ができる。		
						厚さ	t <100	-20			
						t	t≧100	-30		15300	
						裏	込材厚 t'	-50		t.	
							E 長 L	-200			
7 河	1 堤	8 天	2		コンクリート被覆工	基	準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	\ ⊢ w	
川海	防・	端被悪				幅	i W	-50			
岸編	護岸	覆工				厚	Ē さ t	-10		/ t	
						基	礎 厚 t'	-45		7.:1	
						延	長 L	-200			
7	1	9	3		波返工	其		±50	施工延長20mにつき1箇所、40m以下	W ₁ W ₂	
河川海	堤防	波返						-30	のものは1施工箇所につき2箇所。		
海岸編	護岸	工					あさ h<3m	-50		. h _z	
ЛУНН	<i>/</i>					1	h1,h2,h3 あさ h≧3m	-100		h ₁	
						 延	h1, h2, h3 長 L	-200		7/	
								200			

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定	項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
7河川海岸編	2 突堤・人工岬	4 突堤基礎工	4		捨石工		表 正 異元 付i 荒 のi	均 し i 均 し 形ブロック据 面(乱積) 高さ	±50 ±100 ±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上。	00	
						基準高▽	付記	形ブロック据 面(乱積) 外の高さ	±300		w ₁ ,(L ₁)	
						\ 	址 付直	形ブロック据 面(乱積) 高さ	±500		<u> </u>	
							均異が	形ブロック据 面(乱積) 外の高さ	±300			
							法長0 天端幅W1		-100	幅は、施工延長20mにつき1箇所、延 長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所、延長はセンターライン及び 表裏法肩。		
									-100			
						天端延長 Lı		技 L ₁	-200			
7河川海岸編	2突堤・人工岬	4 突堤基礎工	5		吸出し防止工	幅 w		W	-300	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	I 1	
						3	延 長 L		-500			
7 河川海岸編	2突堤・人工岬	5 突堤本体工	2		捨石工	基準	異形ブロ (乱積)	1ック据付面 の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上。 幅は、施工延長20mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき2箇 所、延長はセンターライン及び表裏法 肩。	0 0	
								1ック据付面) 以外の高	±300			
						注	;	長 0	-100			
							端	幅 Wı	-100			
						天	端延	長 L ₁	-200		<u>V</u>	

7 2 河 突		_	枝番			測	足	項	Ħ	芨	見 格	値	測定基準	測定箇所	摘要
川堤	突堤堤	5		海岸コンクリー ブロックエ		基 -	(層厚 ク規格	〔)ブ 526 t	ロッ 未満		±300)	幅は、施工延長20mにつき1箇所、 延長40m以下のものは1施工箇所に つき2箇所、延長はセンターライン	w L	
海岸編出					ì	準	(層厚 ク規格				±500)	で行う。		
							(舌	L 積	;)		ブロッ さの1/2				
						天	媏	幅	W		゛ロック さの1/:				
						天	端延	長	L		「ロック さの1/2				
7 2 突 堤	突	9		石枠工		基	準	高	∇		±50		施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	t H	
海	本					厚	Ĺ	さ	t		-50			1 	
岸編	体工				Ī	高 き -	h	<3m	1		-50			h // *	
						h	h	≧3m			-100				
						延	=	長	L		-200		1 施工箇所毎	} 	
7 2 河 突 川 堤		10		場所打コンクリート	工	基	準	高	∇		±30		施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	₩ ₩	
川 海 海 岸 人	本					幅	î		w		-30			h I	
岸 人 編 工 						盲	·····································	さ !	h		-30				
H ⁺	T'					延	=	長	L		-200				

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
7 河 川	2 突 堤	5 突堤	11		ケーソン工 (ケーソン工製作)	バ ラ基 ス準	砕 石、砂	±100	各室中央部1箇所		
海岸編	・人工岬	本体工				ト高 の▽ =	コンクリート	±50		\mathbf{h}_1	
	нŢ					壁	厚 t 1	±10	底版完成時、各壁1箇所	t _z t _z h _z	
						幅	w	+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
						高	さ hı	+30, -10	完成時、四隅	11:14:11	
						長		+30, -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
							返厚さ t ₂	+30, -10	底版完成時、各室中央部1箇所		
)—	チング高さ h 2		底版完成時、四隅	L -	
7 河	2 空	5	11	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)			ケーソン重量 2000 t 未満	据付完了後、両端2箇所	1'	
1 ¹ ¹	突堤	突堤			(クープン <u>工加刊</u>)	注線 <i>l</i>	こ対する出入	2000 t 水和 ±100		1 2 1	
海岸	•	本				12/10/1	1, 2	ケーソン重量			
岸	工	体					ŕ	2000 t 以上			
編	岬	工						± 150			
									据付完了後、両端2箇所	2'	
						据在	寸目地間隔	2000 t 未満 100以下			
							', 2'	ケーソン重量			
							•	2000 t 以上			
<u> </u>								200以下	to the second of		
7 河	2 突 堤	5 突堤	11	3	ケーソン工 (突堤上部工)	基	陸上	±30	1室につき1箇所(中心)	<u>₩</u>	
川海	•	本			場所打コンクリート 海岸コンクリート	高▽	水中	±50			
岸編	人工岬	体工			ブロック	厚	さt	±30			
	PT'					幅	W	±30		▼ ▼ † t	
						長	ž L	±30			

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項	B	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	2 突	5 突堤	12		セルラー工 (セルラー工製作)	壁	厚	t	±10	型枠取外し後全数	t t	
川海	堤	本				幅		W	+20, -10			
岸編	人工岬	体工				高	さ	h	+20, -10		h t	
	一种中					長		L	+20, -10		t t	
7 河	2 突	5 突堤	12	2	セルラー工 (セルラー工据付)		-対する 1,2		±50	据付後ブロック1個に2箇所(各段 毎)	1'	
海岸	堤	本					ブロック 隔 1',		50以下			
編	人工畑	体工										
7	2	5	12	3	セルラーエ	基	 陸	<u></u> 上	±30	1室につき1箇所(中心)	w	
河川海	突 堤 •	突堤本			(突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ	準 高 ▽	水	中	±50		Timi	
海岸編	人工	体工			ロック	厚	さ	t	±30			
	岬					幅		w	±30		▼ ▼ † t	
						長	さ	L	±30			
7 河 川	2 突 堤	6 根 固	2		捨石工	基準	形ブロッ (乱積)	· ク据付 の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上。	* * *	
海岸編	・人工岬	め エ				高異	形ブロック 乱積)以タ	ク据付面 外の高さ	±300		Sun Guy	
	岬					法	長	Q	-100	幅は、施工延長20mにつき1箇所、延 長40m以下のものは1施工箇所につき		
						天	端幅	W	-100	2箇所、延長はセンターライン及び 表裏法肩。		
						天	岩延 長	E L	-200			

編	章	節	条	枝番	工	種	涯	ij	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
7 河	2 突	6 根	3		根固めブロ	コック工	基準		層積	±300	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	L:	
川海	堤	固め					高▽		乱積	± t/2			
岸編	人工	工					厚	킱	さt	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	Wa L	
別冊	一岬						幅 W1		層積	-20		L:	
							W 2		乱積	- t /2			
							延 長 L1		層積	-200	1 施工箇所毎		
							L2		乱積	- t /2		; <u>I</u> O-O-	
7 河	2 突 堤	7消:	3		消波ブロッ	ックエ	基準		層積	±300	施工延長20mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。	w, L,	
海岸	坂 ・ 人	波工					高▽		乱積	± t/2		w ₂	
編	工岬						厚		さt	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	L:	
							幅		W1, W2	-20			
7	3	3	3		捨石工		处	長	L1、L2 本均し	-200 ±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5		
- 河川海岸	海域堤	海域堤	J		1671 -			荒均	異形ブロック 据付面(乱 積)の高さ	±500	点以上測定。	Ø ® •	
掃	防(人工	基礎工					基準高	りし	異形ブロック 据付面(乱 積)以外の高 さ	±300		w ₁ (L ₁)	
	リーフ							被覆	異形ブロック 据付面(乱 積)の高さ	±500			
	離岸							均し	異形ブロック 据付面(乱 積)以外の高 さ	±300		<u>V</u>	
	堤、						汐	去	長 0	-100	幅は、施工延長20mにつき1箇所、延 15.40m以下のよのは15年で第5年のま		
	潜坦						天	₹ 5	端 幅 W1	-100	長40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所、延長はセンターライン及び		
	堤)						天	三站	端延長 L₁	-200	表裏法肩。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
8 砂防編	1砂防えん堤	3 工場製作工	4		鋼製えん堤仮設材 製作工	部	$\begin{array}{c} \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		
8 砂防編	1砂防えん堤	8コンクリートえん堤工	4		コンクリートえん 堤本体工	基準高 ▽ 天端幅 W1,W3 堤幅 W2 水通しの幅 ℓ1,ℓ2 堤長 L1, L2	±30 -30 ±50 -50	図面の表示箇所で測定。	L ₁	
8 砂防編	1砂防えん堤	8コンクリートえん堤工	6		コンクリート側壁工	基準高▽ 幅 w1, w2 長 さ L	±30 -30 -50	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、 天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延 長、又は測点に直角な水平延長を測定。	L W1	

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	一定 項 目	1	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
8 砂	1 砂	8 ⊐	8		水叩工	差	。 準 高 ∇	abla	±30	基準高、幅、延長は図面に表示して ある箇所で測定。	L L V	
防編	防え	ンクリ				悼	Î V	N	-100	厚さは目地及びその中間点で測定。		
	ん 堤	リト				厚	i さ t	t	-30			
		えん				3	E 長 I	Ĺ	-50		w	
		堤 工										
8	1	9	5	1	鋼製えん堤本体工		堤 高 ▽	7	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。	, Wi	
砂防	砂防え	鋼製			(不透過型)	水通	長さ 01、1	Q_2	±100	2. ダブルウォール構造の場合は、 堤高、幅、袖高は+の規格値は適用		
編	んん堤	えん				世し部	幅 w ₁ , v	W 3	±50	しない。		
		堤 工				ч	下流側倒れる	\triangle	±0.02H ₁			
						袖	袖高	abla	±50		w · · · · · · · · · · · ·	
						,,,,	幅 W 2	2	± 50			
						部	下流側倒れ/	Δ	$\pm 0.02 H_2$			
8 砂	1砂	9 鋼	5	2	鋼製えん堤本体工 (透過型)	堤長	L 格		±50	(備考) 格:格子型鋼製砂防ダム		
防編	防え、	製え				堤長	l 格・B・	L	±10	A:鋼製スリットダム A型 B:鋼製スリットダム B型	TH H	
	ん 堤	ん堤工				堤幅	W 格		±30	L:鋼製スリットダム L型	W 2 2 W	
		上				堤幅	w 格・B・	L	±10		図a 図 b 格子形 鋼製スリット 鋼製砂防ダム ダムA型	
						堤帽	iw A		±5			
						高さ	H 格・B・	L	±10		H H1	
						高さ	Н А		±5		W. W. W. W.	
											図 c 図 d 鋼製スリット 鋼製 L型 ダム B型 スリットダム	

編	章	節	条	枝番	工	重	測	定項	目	規	 見 格	値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
8	1 砂	9 鋼	6		鋼製側壁工		堤		∇		±50		1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォールの構造の場合	<u> </u>
防編	防 え	製え					長	さ	L		±100		は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。	
	ん 堤	ん 堤 工					幅	W 1,	W 2		±50			\\\\\\ H
		Т-					下流	三側倒れ かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	\triangle		± 0.02	Н		L WE A
							高 さ	h < 3	m		-50			w ₂ Δ
							h	h ≧3	m		-100			
8 砂	2 流路	5 床	8		魚道工		基	準 高	∇		±30		施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇	t1 W t2
防編	哈	固め					幅		W		-30		所。	
		工					高	さ h	ı, h 2		-30			h _i h ₂
							厚	さ tı	, t 2		-20			
							延	長	: L		-50			
8 砂	3 斜	6 日:	4		山腹明暗渠工	•	基	準 高	∇		±30		施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇	t ₁ w t ₂
防編	面対策	腹水					厚	さ tı	, t 2		-20		所。	Th ₂
	朿	路 工					幅		W		-30			h ₁
							幅	W 1	, W2		-50			THEIR STATE OF THEIR STATE OF THE STATE OF T
							高	さ h	1, h2		-30			h _a
							深	さ	hз		-30			w ₂ w ₃
							延		: L		-50			F 1

編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項	B	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂	3 斜	7 地	4		集排水ボー	-リング工	削孔深さ	Q	設計値以上	全数	d A	
防編	面対策	下水排					配置誤差	d	100			
	策	排除工					せん孔方向	θ	±2.5度		H /	
		4									x	
					<i>**</i>					A Ver you I	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
8 砂 防	3 斜 面	7 地 二	5		集水井工		基準高	∇	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	d >	
編	田 対 策	下水排					偏心量	d	150			
	*	除工					長 さ	L	-100) H	
		1					巻立て幅	i W	-50		x	
							巻立て厚さ	t	-30			
											$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
										A Ver you I	54 AT 4454010 134	
8 砂	3 斜	9 抑	6		合成杭工		基準高	∇	±50	全数測定。		
防編	面対策	止杭工					偏心量	d	D/4以内かつ 100以内			
	來	上										

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項	〔 目	規	格値	測定基準	測	定酱	所	摘要
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部材	材長	ℓ(m)		$ \begin{aligned} & \cdot \cdot \cdot \ell \leq 10 \\ & \cdot \cdot \cdot \ell > 10 \end{aligned} $	図面の寸法表示箇所で測定。				
10 道路編	1 道 路	9 力	6		場所打函渠工	基	準言	5 🗸	=	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示 箇所で測定。	t ₁ w	ts - -	L	
路編	改	ルバ				厚	さ tı	~ t 4	-	-20		t 3 +	î F		
	良	ا ا				幅(内法)	w	-	-30		h 🗸			
		エ				恒	さ	h	11	±30		į.			
							延長L	,	-	-50					
10 道 路	1 道路	11 落	4		落石防止網工	幅		W	_	200	1 施工箇所毎				
路編	改	石雪				延	£	Ē L	-	-50					
	良	害防止工													
10 道路編	1道路改良	11 落石雪害:	5		落石防護柵工	蕳	ż	S h	=	±30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	T _h	,	L	
		防止工				延	£	Ē L	-	-50	1 施工箇所毎				
		工													

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	1道路改	11 落石雪:	6		防雪栅工	高 さ h	±30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	L L	
	良	害防・				延 長 L	-50	1 施工箇所毎		
		止工				基 幅 W1, W2	-30	基礎1基毎	h A	
						礎 高さ h	-30		W ₁ W ₂	
10 道路編	1道路改	11 落石雪:	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。		
	良	害防				延 長 L 基 幅 w1, w2	-50 -30	1 施工箇所毎 基礎1 基毎		
		止工				選 幅 W1, W2	-30	本版 1 本 中		
						アン打込みし	-10%		h	
						カ 	-5%	全数	w, w ₂	
10 道路編	1道路改	12 遮音壁	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長20mにつき1箇所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。	h h	
孙田	良	型工				高 さ h	-30			
						延長り	-50	1施工箇所毎		
10 道	1 道	12 遮	5		遮音壁本体工	間隔w1,w2 す れa	±15 10	施工延長5スパンにつき1箇所	d wi	
路編	路改	遮音壁				柱 ねじれb-c 倒れ d	5 h × 0. 5%			
	良	エ				高 さ h	+30, -20			
						延 長 0	-50	1 施工箇所毎	工一样 。 b *** **	

									 ;	<u> </u>									
編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	個々の測定 値 (X)	1	測	定	基	準		測	定	筃	所	摘要
10	2	4			歩道路盤工	基	[準高▽	±40	ı	基準高は片色の変化を		₹20n	n毎に1筐						
道路編	舗装	舗装工			取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	厚	t<15cm	-30		の割で測定。 厚さは、片(掘り起こし	則延長 て測定	È.		所 いとと (X10) N	さもに、こつい	、10個 て満足	回の測 足し	則定値の なければ	ならな
						さ	t≧15cm	-45	-15	幅は、片側3 定。 ※両端部2ヵ				の場合	は測	定値の	平均	アータ数に対値は値が	が10個未満 用しない。
							幅	-50	-						装等	でコア	·一擅		り床版等に は、他の方
												Landa		 	、	E 73. (<i>"さ</i> 々	O ₀	
10	2	4			歩道舗装工		厚さ	-9	-3	基準高、幅/ 1 箇所の割			E長20m毎	に					
道路編	舗装	舗装工			取合舗装工 路肩舗装工 表層工		幅	-25	-	厚さは、片のコアーを採り	則延長	₹80n		所					
77113						基	準高▽	±20	-										

出来形管理基準及び規格値 単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路 肩排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長20mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 なお、従来管理のほかに「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」の規定に よる測点の管理方法を用いること ができる。		
						延 長 L	-50	1箇所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「TS等 光波方式を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」の規定に よる測点の管理方法を用いること ができる。		
10	2 舗	7	4		踏掛版工	基 準 高	±20	1箇所/1踏掛版		
道 路	装	踏掛			(コンクリート工)	各部の厚さ	± 20	1箇所/1踏掛版		
編		版工				各部の長さ	± 30	1箇所/1踏掛版		
					(ラバーシュー)	各部の長さ	±20	全数		
						厚き	_			
					(アンカーボルト)	中心のずれ	±20	全数		
						アンカー長	±20	全数		
10 道	2 舗	9 標	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 W1, W2	-30	基礎1基毎	w ₁	
路編	装	識工				高 さ h	-30		w ₂	
									w _z	

出来形管理基準及び規格値 単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	9標識工	4	2	大型標識工(標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基	H	
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	1	ケーブル配管工	埋設深t 延長L	±30 -50	接続部間毎に1箇所接続部間毎で全数	(地上機器部) (地上機器部)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道 路	2 舗装	12 道	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基準高▽	±30	1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合	t ₃	
路編	装	路付品				※厚さ t₁∼t5	-20		w ₁	
		属施設工				※幅 W1, W2	-30		t ₄	
		I I				※高さ h 1, h 2	-30		h; hz	
									t,	
10 道	2 舗 装	12 道	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所/1施工箇所	w w	
道路編	装	路付員				高 さ h	-30		(°) [□] [w	
		属施設								
		Ī							h	
									4 199 117	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプ レートの鉛直度 δ (mm)	w / 500	各脚柱、ベースプレートを測定。	脚柱 δ W ベースプレート	
						材	ベ スの位置 スプレ 孔の径 d	±2 0~5	全数を測定。 全数を測定。	oo 8	
							ト 柱の中心間隔、 対角長L (m)	$\begin{array}{c} \pm 5 \cdots L \leq 10 \text{m} \\ \pm 10 \cdots \\ 10 < L \leq 20 \text{m} \\ \pm (10 + (L - 20) / 10) \\ \cdots 20 \text{m} < L \end{array}$	両端部及び片持ばり部を測定。		
						仮組立時	はりのキャン バーおよび柱の 曲がりδ(mm)	L/1000	各主構の各格点を測定。	δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ	
							柱の鉛直度 δ (mm)	10··· H≤10 H··· H>10	各柱及び片持ばり部を測定。 H:高さ (m)	δ 	
										側面図 正面図	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	3 橋	6 橋	8		橋台躯体工	基	準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	$w_z \ w_t \qquad \qquad w_z \ w_1$	
路編	梁下郊	台工				厚		-20	箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。	hal W hall	
	部						. 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10		t hi t	
							端 幅 W2 (橋軸方向)	-10		I A	
						敷	幅 w3 (橋軸方向)	-50		W2 W1 W2 W1	
						高	さ hı	-50			
						胸	壁の高さ h2	-30		h ₁ h ₂	
						天	端 長 01	-50		+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
						敷	長 02	-50	Ģ	與使用亦非 C	
							壁間距離 0	±30	L1 >		
						支 間	引 長 及 び中 心線の変位	±50	h1 a1		
						支承部ア	計画高	+10~-20	L2		
						アンカー ボルトの箱抜き規格値	平面位置	±20	(a2:橋軸方向)		
						ポルトの 根格値	アンカーボルト孔の鉛 直度	1/50以下	al [a2	
											

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	3 橋	7 R	9		橋脚躯体工 (張出式)	基	準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両 端部、その他は寸法表示箇所。	W ₁	
路編	梁下	C 橋			(重力式) (半重力式)	厚	さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。	-	
	部	脚工					端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-20		<u> </u>	
						敷	幅 w ₂ (橋軸方向)	-50		w ₂	
						高	さ h	-50			
						天	端 長 ℓ1	-50] [h] [<u></u>	
						敷	長 02	-50		k w 2 + 1 + 22 + 1	
						橋貼	中心間距離 θ	±30			
						中	間 長 及 び ・心線の変位	±50	E L1		
						支承部アンカ	計画高	+10~-20	h1 s1		
						ーボルトの	平面位置	±20	中心線の変位 (al:橋軸直角方向) (a2:橋軸方向)		
						箱抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下		a2	
									/ 11 \ /11	\	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	3 橋	7 R	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基	準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	w1	
路編	梁下翠	C 橋				厚	さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。	h	
	部	脚工				天	端 幅 W1	-20			
						敷	幅 W2	-20		**************************************	
						高	さ h	-50			
						長	さし	-20			
]中心間距離 ℓ	±30			
							間 長 及 び 心線の変位	±50		機関中心関節機 支配機	
						支承部	計画高	+10~-20			
						アンカー カー抜	平面位置	±20		中心線の変位 (a1: 機軸直角: (a2: 機軸方向)	
						ボルトの	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下		a1 a2	
10 道 路	3 橋梁	8	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基	準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	T I	
路編	下	製橋				幅	w (橋軸方向)	-50			
	部	脚工				高	さ h	-50		W	
						長	さし	-50		7 1 h	
										F _w →	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	3 橋梁	8 鋼	9		橋脚フーチング工 (門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	h I	
路編	架下 部	製橋脚				幅 W1, W2	-50			
	ㅁμ	脚 工				高 さ h	-50		W ₁	
									w ₂ w ₂	
10 道	3 橋	8 鋼	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	77₹	
路編	梁下	製橋				橋脚中心間距離 Q	±30			
	部	脚工				支間長及び 中心線の変位	±50		中心線の変位 (al: 機軸直角:a2	
									a1 (a2: 模軸方向)	
10 道	3 橋	8 鋼	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	П	
路編	梁下	製橋				橋脚中心間距離 ℓ	±30	中心線の変位 (al: 槭軸直角: 11		
	部	脚工				支間長及び 中心線の変位	±50	a1 (a2: 擴軸方向)	a2	
10	3	8	11		現場継手工	現場継手部のすき間	5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。	t t	
道路	橋梁	鋼製)	δ 1, δ 2 (mm)	※ ±5	※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		
編	下部	橋脚								
		工								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測	定	笛 彦	摘要
10 道路編	4 鋼橋上	3工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部 材 部材長ℓ(m)	$\begin{array}{ccc} \pm 3 & \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。				
	船	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1) 可動支承の移動可能量 注2) 支承中心間隔 (橋軸直角方向) 下沓の 水平度 橋軸方向 本平度 橋軸直角方向 可動支承の橋軸方向のず れ 同一支承線上の相対誤差	世方 設計移動量 +10以上 コンクリート橋 鋼橋 生方 4+0.5×(B-2) 1/100	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La、Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量を考慮して、移動可能量を道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。				
				0	+7	可動支承の移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量計 算値の1/2以上	注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。				
				2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1) 可動支承の移動可能量	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m) 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に				
						注 2) 支承中心間隔 (橋軸直角方向) 支承の 水平度 橋軸直角方向 可動支承の橋軸方向のず	設計移動量 +10以上 コンクリート橋 鋼橋 ±5 4+0.5×(B-2) 1/300	肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を勾配なりに据付ける場合を 除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定				
						れ 同一支承線上の相対誤差 可動支承の移動量	温炎炎に「」フラダ宝町	する。 注2) 可動支承の遊間 (La、Lb) を計測し、 支承据付時のオフセット量δを考慮して、 移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満				
						注3)	算値の1/2以上	たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	4 鋼橋上	8 橋梁付	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	全数測定		
	部	属物工				アンカーボルト定着長	-20以内 かつ-1 D以内	全数測定 D:アンカーボルト径 (mm)		
10 道 路	4 鋼	8 橋	5		地覆工	地覆の幅 wı	-10~+20	1径間当たり両端と中央部の3箇所 測定。	w ₁ w ₂	
路編	橋上郊	梁付品				地覆の高さ h	-10 ~ +20			
	部	属物工				有効幅員 w2	0~+30		h	
10 道	4 鋼	8 橋	6		橋梁用防護柵工	天 端 幅 w1	-5 ∼ +10	1径間当たり両端と中央部の3箇所 測定。	W	
路編	橋上郊	梁付品	7		橋梁用高欄工	地覆の幅 w2	-10~+20		h1	
	部	属物工				高 さ h1	-20 ∼ +30			
						高 さ h2	-10~+20		W1 W3	
						有効幅員 w3	0~+30		h1	
10								S 2 LI (II) This ha		
10 道 路	4 鋼 橋	8 橋	8		検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
路編	橋 上 部	梁付属				高さ	±4			
	цη	物工								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	5コンクリート橋上部	6 プレビーム桁橋工	2		プレビーム桁製作工(現場)	幅 w 高 さ h 析 長 0 スパン長 横方向最大タワミ	±5 +10 -5 &<15…±10 &≥15… ± (ℓ-5) かつ -30mm以内 0.8ℓ	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長	h w	
10 道路編	6 トンネル (NATM)	4 支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚さ	設計吹付厚以上。 ただし、良好な岩盤で施工端部、突 出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚 の1/3以上を確保するものとする。	施工延長20m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注)良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。	(2) (1) C (3) 東エコンタリート (4) 大付コンクリート (5) S. L., (7)	
10 道路編	6トンネル (NATM)	4 支保工	4		ロックボルトエ	位置間隔 角度 削孔深さ 孔 径 突 出 量	ー ー ー プレート下面から 10cm以内	施工延長20m毎に断面全本数検		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
10 道	6 	5 覆	3		覆エコンクリート	基準高▽(拱頂)	±50	(1)基準高、幅、高さは、施工20m につき1箇所。	106.7	
路編	ンネル	エ				幅 w (全幅)	-50	(2)厚さ (4)コンクリート打設前の巻立空間を	E E	
	N A					高さh(内法)	-50	1打設長の終点を図に示す各点で測 定。中間部はコンクリート打設口で測 定。	h (2) (3) 種エコングリート (4) (5)	
	T M					厚 さ t	設計値以上	(ロ)コンクリート打設後、覆エコンク リートについて1打設長の端面(施工 継手の位置)において、図に示す各点	(6) S.L.	
						延 長 L	_	の巻厚測定を行う。		
								(ハ)検測孔による巻厚の測定は図の(1)は20mに1箇所、(2)~(3)は50mに1箇所の割合で行う。	- • -	
								なお、トンネル延長が50m以下のもの については、1トンネル当たり2箇所以 上の検測孔による測定を行う。		
								ただし、以下の場合には、左記の規格 値は適用除外とする。		
								・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。		
								なお、変形が収束しているものに限る。		
								・異常土圧による覆工厚不足で型枠の 据付け時には安定が確認されかつ別途		
								構造的に覆工の安全が確認されいる場 合。		
								・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突 出。		
10 道	6 ト ン	5 覆	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長20mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき		
路編	ネル	工				厚 さ t	-30	2箇所。		
	N									
	A T									
	M									

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	6 -	6 イ	4		インバート本体工	幅	w(全幅)	-50	(1)幅は、施工延長20mにつき1箇所。 (2)厚さ	C	
路編	ンネル	ンバー				厚	さt	設計値以上	(イ)コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に	ę.	
	N A T M	- トH				延	長 L	_	示す各点で測定。 (ロ)コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。	(1) (2) (3) (2) (3)	
										**	
10 道 路	6 - -	8 坑	4		坑門本体工	基	準高▽	±50	図面の主要寸法表示箇所で測定。	L w ₁	
路編	ンネル	門工				幅	W 1, W 2	-30			
	N N					高さ	h < 3 m	-50		h \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	A T					h	h ≧3m	-100			
	\underbrace{M}					延	長 L	-200		 € s W±	

	ı			++ -				Ī		1
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	6 トン	8 坑 門	5		明り巻工	基準高▽(拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工 延長20mにつき1箇所を測定。	t V	
道路編	マネル	門工				幅 w (全幅)	-50	なお、厚さについては図に示す各 点①~⑩において、厚さの測定を	h	
	N					高さh(内法)	-50	行う。		
	A T M					厚 さ t	-20		φ Φ Φ	
	M					延 長 L	_		(アーチ部) 60 60	
									(個壁部)	
									(インパート部)	
									8 9 8	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道	11 共 同	6 現場	2		現場打躯体工	基準	高▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸 法表示箇所で測定。		
道路編	同 溝	打				厚	さ t	-20		2000	
		構築工				内 空	幅 w	-30		twtwtwt	
						内 空	高 h	±30		 	
						ブロック	7長 L	-50		h h h h	
										कि कि कि कि	
10 道	11 共	6 現	4		カラー継手工	厚	さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。		
道路編	共同溝	現場打造				幅	W	-20]	t]	
		構築工				長	さ L	-20			
										w	
10 道 路	11 共	6 現	5	1	防水工	幅	W	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側 壁・頂で測定。		
路編	同溝	場打							<u> </u>		
		構築工								"w"	
10 道 路	11 共	6 現	5	2	防水工 (防水保護工)	厚	さt	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で 測定。	. 1	
路編	同溝	場打							-	t <u>1</u>	
		構築工									
		工									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	11 共 同	6 現場	5		防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	-1 r	
編	溝	打				幅 w	±50		h _	
		構築工				厚 さ t	-20		<u>↓</u>	
		<u></u>								
10 道路編	11 共同溝	ヤス	2		プレキャスト躯体工	基準高▽	±30	施工延長20mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につき 2箇所。ただし、基準高の適用は 据付後の段階検査時のみ適用す る。	L L	
		ト構築				延 長 L	-50	延長: 1 施工箇所毎		
		エ			hole ple and Abbe ple day					
10 道 路	12 電	5 電:	2		管路工 (管路部)	埋設深t	0~+50	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。	MANAMAN	
路編	線共同	線共同				延 長 L	-50	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	G G G G G G G G G G G G G G G G G G G	
	溝	溝工								
									接続部 接続部 (地上機器部)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
10 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	3		プレキャスト ボックスエ (特 殊部)	基準高▽	±30	接続部(地上機器部)間毎に1箇 所。		
10 道路編	12 電線共同溝	6 付帯設備工	2		ハンドホールエ	基準高▽ ※厚さt1~t5 ※幅 w1, w2 ※高さh1,h2	±30 -20 -30 -30	1 箇所毎 ※ は現場打部分のある場合	t ₃	

出来形管理基準及び規格値 単位:mm

								規 格	6 値						
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定 値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10)	測	定	基準	測定箇	所	摘要
10 道 路	14 道	4 舗	5	1	切削オーバ	ベーレイエ	厚さ t (切削)	-7		後の基準高の	差」	!舗装高と切削 「切削後の基準 後の基準高」で			
編	路維持	装工					厚さ t (オーバーレイ)	-(n	算出する。 測定点は車道	11年心紀	線、車道端及び			
							幅 w	-2	5	し、延長20m	0m毎に 未満の	1箇所の割と 場合は、2箇所	0.000 92	€ I	
							延長 L	-5	0	/施工箇所と 断面状況で、 ることができ	間隔、	測点数を変え	T - 1881-1-	4	
							平坦性	-	3mプロフィルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm 以下				維持工事においてがいます。		項目を省

								規格	値				
編	章	節	条	枝番	工 種	Į į	則定項目	個々の測定 値 (X)	10個の測定 値の平均 (X10)	測	定	基準	測定箇所摘要
10 道路編	14 道路維持	4 舗装工	5		切削オーバーレイ 工 (面管理の場合) 厚さtまたは標高 較差 (切削)のみ	(村	厚さ t 票高較差) (切削)	-17 (17) (面管理と して緩和)	-2 (2)	形管理要領編)に基づる場合に適所を 2.計測はは べての点で記	(案) き出来 引削する 設計面	来形管理を実施 る。 面の全面とし、 面との厚さ t ま	す
	拧						享さ t オーバーレイ)	– ()	計測密度は1	点/n	削)を算出する ㎡ (平面投影面	
							幅 w	-2	5		またに	する。 は標高較差(切 高と切削後の基	
						延	€長 L	-5	0	高との差で第 4. 厚さ(オ	算出す		T
							平坦性	_	ルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式(足 付き)	後の基準高高 利定の中は、近 5.とし、列 2ヶ所/施 2ヶ所/施	の道す延長工 差中る長8箇間 80月降	で算出する。 ご線、車道端及 10m毎に1ヶ所 n未満の場合は 所とする。 鬲、測点数を変	類舗装 ▼
10		4	7		路上再生工		厚さ t	-3	0	幅は、延長2 定。	20m毎	に1箇所の割で	
道路編	道路維	舗装工				路盤工	幅 w	-5	0	厚さは、各国 及び中央の3		00m毎に左右両 掘り起こして涯	
	持						延長 L	-5	0	定。			t +
													現舗装 ×

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 鋼桁等	基準 トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4	1	桁補強材製作工	フランジ幅w(m) 腹板高h(m) 腹板間隔b'(m)	$\begin{array}{c} 0.5 < w \le 1.0 \\ \pm 4 \cdots \\ 1.0 < w \le \\ 2.0 \\ \pm (3+w/2) \cdots \end{array}$	主げた、主構	各支点及び各支間定。 大変を表現である。 本が近を測に、5部では、5部では、5部では、1個では、1個では、1個ではである。 本ができる。	1 亜側げた トラス強村	
						フランジの直角度 δ (mm)	w/200	主桁	各支点及び各支 間中央付近を測 定。	*/2 8	
						圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ/1000	_	主要部材全数 を測定。 &:部材長(mm)	e.	

編	章	節	条	枝番	I	種		測定	三項目	規 格 個々の測 定値	10個の測 定値の平	· 測 定 基 準	測定箇所	摘要
					1 - 6 hall			1		(X)	均 (X10)			
11 公 園	3 施設	7 園路	10 土系	1	土系舗装			基準	信○	±40	-	基準高は延長20m毎又は、施工面 積500m ² 毎に1箇所の割で測定。 厚さは延長80m毎又は、施工面積 500m ² 毎に1箇所を掘り起こして測		
緑地編	整備	広場整備工	舗装工				路盤工	厚さ	t <150	-30	-10	定。 幅は延長20m毎又は、施工面積 500m ² 毎に1箇所の割に測定。 なお、延長、施工面積が上述の規		
		1					工	わ	t ≧150	-45	-15	模以下の場合は、1施工箇所につ き2箇所を測定。		
								幅		-100	-			
								基準	高▽	±2	20	基準高は延長20m毎又は、施工面 積500m ² 毎に1箇所の割で測定。 幅は、延長20m毎又は、施工面積 500m ² 毎に1箇所の割とし、厚さ は、延長80m毎又は、施工面積		
							表 層 工	厚さ	;	-1	0	500m ² 毎に1箇所を掘り起こして測定。 なお、延長、施工面積が上述の規 模以下の場合は、1施工箇所につ き2箇所を測定。		
								幅		-2	5			

編	章	節		枝番	工種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11	3	9	3	1	ブランコ	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基	- (11-11-1	
公園	施設整備	遊戯	遊具			基	幅 W	-30	基礎 1 基毎		
緑地	整備	施設整	組立			礎	高さ h	-30			
編		整備工	設置工				根入れ長	設計値以上		上	
				2	ジャングルジム	設置	高さ H	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅W	-30	基礎1基毎	± = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	
						礎	高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上		W	
				3	滑台	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅 W1, W2	-30	基礎1基毎	두 기월	
						礎	高さ h1, h2	-30			
							根入れ長	設計値以上		W1 W2	
				5	鉄棒	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅W	-30	基礎 1 基毎	H2	
						礎	高さ h	-30		<u> </u>	
							根入れ長	設計値以上		w	

編	章	節	条	枝番			測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11	3	9	3	6	ラダー	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基		
公園	施設整備	遊戯施	遊具組			基	幅W	-30	基礎 1 基毎	I	
園緑地編	整備	施設整	組立設			礎	高さ h	-30			
が抽		盤備工	段 置 工				根入れ長	設計値以上		₩ ∐	
				7	はん登棒	設置	高さ H	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅 W1, W2	-30	基礎 1 基毎		
						礎	高さ h1, h2	-30			
							根入れ長	設計値以上			
				8	スプリング遊具	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅W	-30	基礎 1 基毎		
						礎	高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上		<u> w </u>	
				9	複合遊具	設置	- 高さ H1∼Hn	±30	1ヶ所/1基		
						基	幅 W	-30	基礎1基毎		
						礎	高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上		w	

単位:mm

編	章	節	条	枝番	エー種		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11	3	9	3		健康器具	設置	高さ H1,H2	±30	1ヶ所/1基		
公園	施設	遊戯	遊具			基	幅W	-30	基礎1基毎	£ 2	
緑地	整備	施設	組立			礎	高さ h	-30	※監督員との協議による		
編		整備工	設置工				根入れ長	設計値以上		w	
			4 小	1	砂場	基準	島▽	±30	1ヶ所/1施工箇所	t1 W1 t2	
			規模			厚さ	t1~t4	-20	※標準図を持っている、又は 単一断面の場合に適用する。	\$ (w)	
			現場打			幅 V	V1, W2	-30		2	
			打遊具工			高さ	h1, h2	-30			
		10サ	4 水	1	水飲み場	設置	高さ H1∼H3	±30	1ヶ所/1基		
		ا ا	飲みに			基	幅W(D)	-30	基礎1基毎	H H2	
		ス施設	場 工			礎	高さ h	-30		دا	
		整備工					根入れ長	設計値以上		_w(D) _	
		4	6 テ		ベンチ 縁台	設置	高さ H1∼H3	±30	1ヶ所/1基		
			ーブル	4	テーブル スツール	基	幅 W1, W2	-30	基礎1基毎		
			ル・ベ	5	野外卓	礎	高さ h1, h2	-30			
			ンチエ				根入れ長	設計値以上		w ₂ w ₁	

	番号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
			基 準 高 ▽	±30		. Т	
			水平蛇行	D<800 目視により円形に見えるこ と	1 スパンの両端マンホール及びスパン中央部		
	1	開 削 工 (管布設工)		D≧800 ±50	で測定する。尚、測定間隔 (Q) は施工延長 20mに1箇所の割合で測定する。		
			勾 配	設計勾配に対して ±15%			
			延 長 L	300 -50			
			基 準 高 ▽	±20		t + -	
12		間 业 子	水平蛇行	±50	寸法は、両端、施工継手箇所及び構造図の寸		
	2	開 削 工 (現場打ボックス カルバート)	幅 (内法) a 	±20 ±20	法表示箇所で測定する。	h	
下水 道工		カルハート)	同され 厚さt、t1、t2	+20, -10		<u> </u>	
関係			延 長 L	+100, -50	1スパン毎に測定	4 0000 0000 0000	
			基 準 高 ▽	±20	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のも		
		FIFE Med	水 平 蛇 行	±50	のは1施工箇所につき2箇所。	├── L ─	
	3	開 削 エ (プレキャストボック	延 長 L	+100, -50	1スパン毎に測定		
	3		業者購入製品の幅、高さ、 準ずること。	厚さの規格については、北九州	市下水道指定製品規格(ボックスカルバート)に		
			幅 W	-10		クラッシャラン コンクリート コンクリート コンクリート 基礎 基礎 L	
	4	基礎工	高 さ h, h ₁	-10	1スパンの両端マンホール付近及びスパン中 央部で測定する。尚、測定間隔(0)は施工 延長20mに1箇所の割合で測定する。	基礎	
					/ =:八台vmt- 1 回 //1 * / 口1 C だけん 7 * ジ 。		

	番号	エ	種	測 兌	定 項 目	規 格 値		測定基準	測 定 箇 所	適要
		小口径: トンネ	¬大口径推進工 小口径推進工 基 準 高 ▽ トンネルエ シールドエ		中大口径推進工小口径推進工トンネルエシールドエ中大口径推進工	± 50 ± 30 ± 50 ± 50 ± 50	中大口径推進工、小口径推進工の基準高、水平蛇行は1スパンの両端及び施工延長20mに1箇所の割合で測定する。 トンネルエ、シールドエの基準高、水平蛇行、二次覆工厚さは測点番号及び施工延長20mに1箇所の割合で測定する。			
	5			水 平 蛇 行 勾 配		小口径推進工		中大口径推進工、小口径推進工、トンネル 工、シールド工の勾配は、1スパンの両端で 測定する。	マンホー管渠	
12						設計勾配に対して	±20%			
下水道工				延	長	中大口径推進工小口径推進工トンネルエシールドエ	300 -50 0. 20% -50			
関係				二次覆工厚さ		トンネルエ シールドエ	-20 -50			
			基礎工	幅	\mathbf{w}_1	-50	1			
		マンホール基礎工	本 떖上	高	さ h ₁	-10	1			
	6		コンクリー	幅	\mathbf{w}_2	-10	ı	1箇所ごとに測定する。		
			卜工	高	さ h ₂	-10		Ⅰ 回別 ことに例足り る。		
			_		_				マンホール底部エの其淮真の担故値は字めわい	
									マンホール底部工の基準高の規格値は定めないが、実測値を測定し管理表に記入すること。	

	番号	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	適要
			基準高▽	準 高 ▽ ±20		GL	
	7	組立マンホールエ	深 度 H	±30	1 箇所ごとに測定する。	H	
12			基準高▽	±20		□ GL	
下水道工関係	8	小型マンホールエ	深 度 H ±30 マンホールエ 1 箇所ごとに測定する。	H H			
工関係						2 3	
			基準高▽	±20			
			深 度 H	±30	1 箇所ごとに測定する。		
	9	円形マンホール工	壁 厚 さ t	-10		H	
			内 径 b	±20			

	番号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	適要			
			基 準 高 ▽	±20		GL OFFI				
			深 度 H	±30						
12			壁 厚 さ t	-10						
下水道		70 10 km & 44 m	内 径 b	±20	1 箇所ごとに測定する。	<u>∤</u>				
工	10	現場打ち特殊 マンホールエ	高 さ h	±20		JE U				
係						t t t				
	11	部分的不等沈下	基 準 高	(内径800mm以上) 3.0cm以内						
		注1)基準高は、規格値内~	であっても、勾配の許容範	囲をこえてはならない。						
	注2)管渠の接続箇所は、規格値内であっても段差、ズレがないよう継がなければならない。									

編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要	第13
13 上水道編	3 施工	7 鋳鉄管工	3 鋳鉄管接合工		管の接合	î.	鋳鉄管 継手 (ダクタイル鉄管接合要領書(日本ダクタイル鉄管協会)のチェックシート項目の通り)	日本ダウタイル鉄管 協会の接合要領 書による	・口径、管種毎に全接合箇所測定 ・各種チェックシートの判定 基準による	チェックシートの通り		第13;第13編 上水道編
13 上水道編	3 施工	8 鋼管工	7 水管橋		水管橋現工	場塗装	塗 膜 厚	厚平均値は、目標 塗膜厚合計値の 90%以上。 b: 測定値の最小	塗装終了時に測定する。 塗膜厚の測定位置は、両管 端より約500mm内側及び管中 央部の3つの位置について、 天地左右の径12箇所とし、 測定は1箇所について4点行 い、その平均値を1箇所の塗 膜厚とする			

出来形管理資料(作成例)

出来形管理総括表(完成検査用)

工事名:市道〇〇1号線道路改築工事

作成者:(主任技術者) 〇 〇 〇 〇

ェ	種			10d eta ++ 244	測定	回数	規格値		測定値		按冊	T#1 = 27
種	別	,	測定項目	測定基準	計画	実施	mm (社内規格値)	最大値	最小値	平均値	摘要	確認
道	1	į	基準高 ▽	施工延長20mにつき1 箇所、延長40m以下の ものは1施工箇所につ	33	33	±50	+28	-31	-10.2	中心・左・右の 3箇所	
道路土工	掘削工	ž	去 長 ℓ	き2箇所。 基準高は道路中心線お よび端部で測定。	22	22	-200	+120	-15	+70.5		
		ф	福 W	市基準1-2-4-2	11	11	-100	+90	-10	+51.3	左右の2箇所	
		į	基準高 ▽	施工延長20mにつき1 箇所、延長40m以下の ものは1施工箇所につ	33	33	±50	+17	-22	-2.5	中心・左・右の 3箇所	
地盤改	置換		置換高さ t 基準高差)	き2箇所。 厚さは道路中心線およ び端部で測定。	33	33	-50	+30	+5	+21.5	中心・左・右の 3箇所	
改良工	Ï	ф	福 W	市基準3-2-7-3	11	11	-100	+105	-17	+44.5		
		Ą	E 長 L		1	1	-50		_	+120		
	下層路盤工	į	基準高 ▽	基準高、幅は延長20m に1箇所の割とし、基準 高は道路中心線および	33	33	+0 -40	-2	-25	-13.5	中心・左・右の 3箇所	
路盤		個	孠 さ h 々の測定値X	端部で測定。厚さは各 車線80m毎に1箇所を 掘り起こして測定。	6	6	-45	+10	-5	+2.0	200m÷80m= 3回上下線 計6回	
工			厚 さ h 固の測定値の 平均X10	市基準3-2-6-7-1	1	1	-15	+2	+2	+2.0		
		4	區 W		11	11	-50	+21	-12	+4.7		
		砕	幅 W	施工延長20mにつき1 箇所、延長40m以下の ものは1施工箇所につ	11	11	設計値以上	+45	+17	+30		
		石基礎工	厚 さ t1、t2	き2箇所。 市基準3-2-4-1	11	11	-30	+21	-5	+8		
			延長L		1	1	-50	_	_	+130	各構造物の規 格値による。	
	П	ı ij	基準高 ▽	施工延長20mにつき1 箇所、延長40m以下の ものは1施工箇所につ き2箇所。 市基準3-2-4-3-1	11	11	±30	+7	-11	-2		
	ンクリ		幅 W		11	11	-30	+15	-5	+6		
擁壁	7-	- ト基礎	高 さ h		11	11	-30	+12	-3	+5.1		
壁工	ブロッ	エ	延長L		1	1	-50	_	_	+150		
	ク 積		基準高 ▽	施工延長20mにつき1 箇所、延長40m以下の ものは1施工箇所につ	11	11	±50	+21	-3	+10		
	エ		法長ℓ	き2箇所。 厚さは上端部及び下端 部の2箇所を測定。	11	11	-50	+23	+7	+15		
		ートブロ	厚 さ t1 ブロック積	市基準3-2-5-5	22	22	-50	+28	+8	+18	上•下端部測 定	
		ッ ク 積	厚 さ t2 裏込め		22	22	−50	+37	+25	+31	上•下端部測 定	
		工	延長L		1	1	-50		_	+120		